

特集1 多様な人材が協働する職場環境の実現に向けて



リンテックでは、社員一人ひとりの多様性（ダイバーシティ）を尊重*し、全ての社員にとって働きやすく、お互いに協力し合える職場環境づくりを推進しています。

* 多様性（ダイバーシティ）の尊重：人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進。

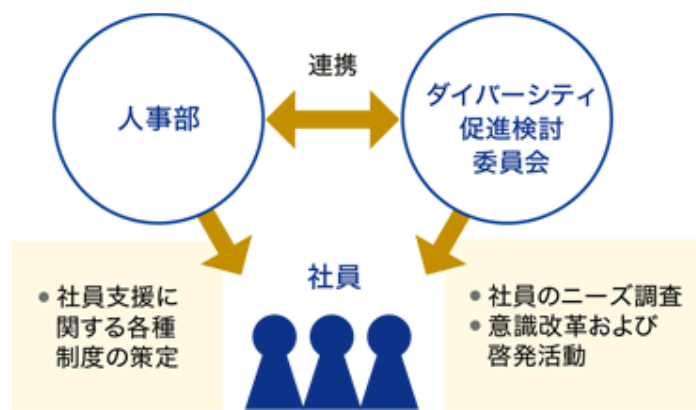
人事部と委員会の連携によりダイバーシティを促進

近年、「多様性」を意味する「ダイバーシティ」が、企業の組織マネジメントにおける重要テーマとして注目されています。リンテックにおいても、さまざまな視点・考え方を組織の中に組み込んでいくことが、企業成長を遂げていく上で非常に重要になると考えており、ダイバーシティへの対応に向けた取り組みを推進しています。

ダイバーシティの視点から、社会で多く取り上げられるのは性差・国籍・宗教などの属性ですが、当社としては日常の会社生活の中で、“さまざまなライフスタイルや考え方の社員が、職場で能力を最大限に発揮しイキイキと働ける職場環境の実現”を目指しています。そのために必要な取り組みを精査し、一つひとつ足元から改善していく、“地に足の着いた”活動を心掛けています。

こうした取り組みを円滑に実施するため、2016年7月に、「ダイバーシティ促進検討委員会」を立ち上げました。本委員会は、2013年7月から約3年間活動を進めた「女性活躍促進検討委員会」を前身としています。総務・人事本部長を委員長に配して人事部が事務局となり、本社系・営業系・生産系・研究系部門の管理職と女性従業員を1名ずつ選出した組織横断的な委員会です。

主な活動内容は、社員のニーズの汲み上げや、一人ひとりの意識改革とそれに向けた啓発活動です。各種制度の策定を担う人事部とダイバーシティ促進検討委員会が連携しながら、社員を支える制度の策定・改定や、働きやすく働きがいのある職場環境づくりを推進しています。



多様な人材がイキイキと働ける会社へ

ダイバーシティ促進検討委員会の活動の一歩として、イキイキと働く上で社員にとってより身近な課題と想定される“四つのテーマ”の中で最優先課題を把握するため、活動1年目の2016年度に全社アンケートを実施しました。その後、委員会での検討を通じて優先順位をつけ、2年間の活動計画を策定の上課題に取り組んでいます。

具体的な活動として、2017年度は「介護をしている従業員サポート」を、2018年度は「傷病従業員サポート」をメインテーマに掲げました。これまで活動してきた「女性活躍促進」「定年再雇用者活躍促進」は、継続テーマとし検討していきます。

アンケートの結果、ダイバーシティについては、制度の充実もさることながら、制度の運用、職場での理解を必要としていることも分かりました。そのため、四つのテーマにおける方向性からのアプローチと並行し、これまで以上に、社員同士が協力し合える職場環境の実現に向けた啓発活動を実施していきます。

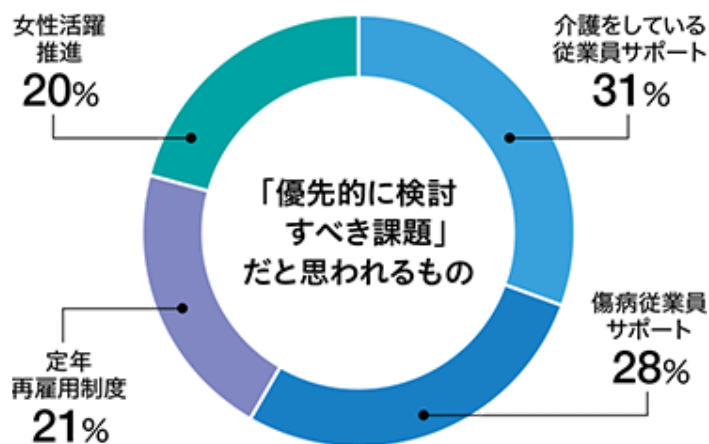
当社がダイバーシティを推進するにあたり特に重要視しているのが、“ビジョン・目標の共有”です。経営陣、管理職とのディスカッションや、社員への啓発活動を重ねながら、全社で方向性を合わせた活動を推進していきます。



ダイバーシティ促進検討委員会メンバー

全従業員へのアンケート結果

実施期間:2016年10月～11月 回答率:74.1%



性別・年代・役職・本部どの区分けでも、1位(介護)・2位(傷病)は変わらないが、3位(定年再雇用)・4位(女性活躍)については僅差となった。

ダイバーシティ促進検討委員会の活動内容

1 介護をしている従業員サポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理解促進に向けた取り組み内容検討 ■ 柔軟な勤務形態についての検討 ■ 保存休暇の上限日数変更検討 ■ 遠隔介護サポートの検討 ■ 仕事と介護の両立支援（制度活用ブック配付／研修の継続）
2 傷病従業員サポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ 制度改定後の状況把握と検証、制度浸透に向けた活動
3 定年再雇用制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 定年再雇用制度の検討（60歳以降の勤務形態について、各職場の従業員ニーズと職制の考え方を把握） 【まずは生産本部分科会にて検討】
4 女性活躍促進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理解促進に向けた取り組みの検討 ■ 柔軟な勤務形態についての検討 ■ 復帰支援サポート
共通項目 （介護従業員サポート／女性活躍促進／傷病従業員サポート）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 周知活動の強化に向けた取り組み

女性活躍推進法に基づいた行動計画

目標① 新卒採用（大卒・院卒）における女性採用比率の平均を全体の30%以上にする	
取り組み内容	<p>平成28年（2016年）4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ “女子学生の採用推進”に向けて、引き続き社内周知を図る ■ “仕事・職場づくり”“仕事のやり方の見直し・工夫”の環境整備を行う ■ 採用選考時において、各職種に女性リクルーターを配置する
目標② 女性の監督職（係長）を10%以上にする	
取り組み内容	<p>平成28年（2016年）9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理職を対象とした「ダイバーシティ・マネジメント研修」を継続し、多様な人材が各職場で能力を最大限に発揮していける職場環境づくりについての意識改革に向けた啓発活動を行う <p>平成28年（2016年）11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 女性社員を対象とした「女性活躍推進・キャリアアップ研修」を継続し女性活躍推進の取り組みや自身のキャリアの形成等、これからの働き方について女性自身の意識改革を行う <p>平成29年（2017年）2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キャリア育成に向けた研修の見直しを検討

計画期間：平成28年（2016年）4月1日から平成31年（2019年）3月31日までの3年間

特集2 地域コミュニケーション活性化で地域に必要とされる企業に



新宮事業所 龍野事務所では、2013年よりNPO法人「たつの・赤トンボを増やそう会」に協力しています。童謡「赤とんぼ」が詠まれた龍野の風景を取り戻す活動を通じて地域コミュニケーションの活性化を図っています。

地域の子供たちと一緒に、赤トンボにやさしい田んぼで田植え体験

龍野にはかつて童謡「赤とんぼ」に詠われたような、赤トンボが群れ飛ぶ風景が広がっていましたが、環境の変化により、近年は赤トンボを見つけることさえ難しくなっています。

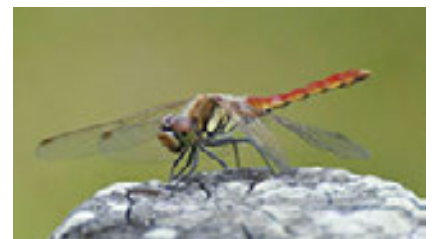
NPO法人「たつの・赤トンボを増やそう会」では、赤トンボ（アキアカネ）がいる風景を取り戻すため、ヤゴの育成や成虫のマーキング調査など、年間を通じてさまざまな活動をしています。その一つに、赤トンボに悪影響を与える農薬を使わない田んぼづくりがあります。毎年5月には地域の子供たちを募って一緒に田植えを行っており、2017年度は過去最高の60人が参加しました。



子供たちと一緒に黙々と田植えを行うリントックのスタッフ



放流するヤゴに興味深く見る子供たち



アキアカネ

NPO法人「たつの・赤トンボを増やそう会」の主な年間活動内容

4月	ヤゴの室内飼育開始
5月	田植え・赤トンボの卵とヤゴの放流
6月	ヤゴの捕獲
7月	県民局による田んぼの病害虫実地調査
8月	赤トンボの観察
9月	稲刈り・脱穀
10月	「たつの赤とんぼ米」の販売開始
11月	収穫祭
2月	活動報告会、講演会

当日、リンテックのスタッフは、田植え作業はもちろん、苗を皆に配布したり、まっすぐに植えるための目安線を一列植えるごとに動かしたりと、運営スタッフとしても汗を流しました。参加した子供たちの中には、田んぼに足を取られて泥だらけになった子もいましたが、一生懸命一つひとつ丁寧に苗を植えてくれました。田植えのあとは、ヤゴの飼育カゴの設置、赤トンボの卵の放流が行われ、飼育カゴの中のヤゴを見ながら赤トンボの成長について話を聞きました。



参加してくれた皆さんへ、リンテックからプレゼント贈呈



カエルを見付けてうれしそうなお子たち



田植えに参加いただいた地域の皆さん

年間を通じた支援活動は、次世代を担う子供たちの学習機会になるだけでなく、本来そこに生きる生物たちを守る生物多様性の保全にもつながっています。これからも地域に信頼され必要とされる企業であるために、地域コミュニケーションを図っていきます。

赤トンボにやさしい田んぼでの羽化数

(匹)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
羽化数	3	24	419	39	68
カゴ数*	2	8	4	10	17

* カゴ数：田んぼに設置した飼育カゴのうち、羽化したカゴの数

リンテック社員のコメント



新宮事業所
龍野事務所 製造部
塩谷 哲男

当初は環境管理責任者として活動を始めましたが、NPO法人の方々の真剣な思いに感銘を受けて、責任者でなくなった今も参加しています。もっと活動を地域に広げていきたいです。



新宮事業所
龍野事務所 工務課
長澤 健司

自然の中で地域の方々と一緒に活動できる楽しみを知り、参加しています。活動がリンテックに関心を持っていただく良い機会になっていると思います。



新宮事業所
龍野事務所 所長付
小本 寛二

子供たちに生態調査や農業体験をしてもらうことで、次世代を担う子供たちへの環境学習の場にもなっていると感じています。息の長い取り組みとして、これからも続けていきたいと思っています。



新宮事業所
龍野事務所 事務課
黒田 勝司

私は「たつの・赤トンボを増やそう会」に参加し、約3年になります。生態系の改善ですので、活動の効果がすぐには出ませんが、アキアカネの飛ぶ風景を目指し、取り組んでいきたいです。



新宮事業所
龍野事務所 生産管理課
留田 昇吾

私たちは、「赤とんぼ」の童謡が詠まれた龍野に事業所を置いています。その龍野に、昔のように赤とんぼが飛ぶ景色を取り戻したいと考え、活動に取り組んでいます。



新宮事業所
龍野事務所 所長付
小出 正史

今回初めて活動に参加しましたが、この地域のイメージシンボルでもあるアキアカネが激減している中、本取り組みは地域の活性にもつながっていくものだと感じました。

NPO法人からのコメント

リンテックの皆さんからの支援にはとても感謝しており、龍野を支える企業として誇りに思います。これからも従業員の皆さんの地域を愛する心を育て、活動を続けていってほしいです。

NPO法人「たつの・赤トンボを増やそう会」代表
前田 清悟 氏



トップメッセージ

「至誠と創造」の精神でCSR活動を推進し、
社会に貢献していきます。

リンテック株式会社 代表取締役社長 社長執行役員

西尾 弘之



不透明な社会情勢の中、成長につながる成果を生む

1934年の設立以来、リンテックグループは粘着素材分野のリーディングカンパニーとして、粘着応用技術や表面改質技術などの独自技術により多彩な製品を開発し、事業領域を広げてきました。2016年度は英国のEU離脱決定や米国で新政権が誕生するなど、歴史的な転換期として記憶に残ることでしょう。2017年度も、米国での政策が世界経済にもたらす影響や、欧州主要国で行われる大統領選、日本を取り巻く地政学的リスクの増大など、不透明な先行きが懸念されています。

こうした状況下、リンテックグループは3か年にわたる中期経営計画「LIP (LINTEC INNOVATION PLAN) -2016」の最終年度を終了しました。残念ながら、売り上げと利益については、計画当初に設定した数値目標を下回る厳しい結果となりました。円高の影響に加えて、海外での売り上げを想定通りに伸ばせなかったことが、目標未達の原因だと受け止めています。

その一方で、重点テーマとして掲げた五つの項目については、それぞれが成果上げて次の中期経営計画への足掛かりを築くことができました。中でも「グローバル展開」および「戦略的M&Aの推進」において、2016年末に米国のメーカー2社と英国の販売会社を子会社化したことは、今後の成長に果たす役割が大きいと考えています。「次世代を担う革新的新製品の創出」についても、国際的な展示会に出展して8品種を発表し、既に一部の製品を市場に投入して好評を得ています。

これらの成果を土台として、2017年4月から新たな成長に向けた新中期経営計画「LIP-2019」をスタートしました。

新中期経営計画「LIP-2019」（2017年4月～2020年3月）

基本方針

イノベーションをさらに深化させ、新たな成長にチャレンジ

重点テーマ

- 1.地域戦略の強化
- 2.新たな価値の創造
- 3.企業体質の強靱化
- 4.持続可能な社会の実現に向けた取り組み

イノベーションの深化により「新たな価値」を創出していく

「LIP-2019」では基本方針として、“イノベーションをさらに深化させ、新たな成長にチャレンジ”を掲げました。前計画の方針を引き継ぎながら、最終年度における連結売上高2,700億円、営業利益250億円、売上高営業利益率およびROEは9%以上を数値目標として定め、新たな成長を目指します。

「LIP-2019」では「1.地域戦略の強化」、「2.新たな価値の創造」、「3.企業体質の強靱化」、「4.持続可能な社会の実現に向けた取り組み」の四つを重点テーマに置いています。それぞれのテーマにおいてイノベーションを追求するためには、グループ全体が共通認識の下、一丸となって目標達成に向けて挑戦する必要があります。経営計画の基本方針として、イノベーションを過去何年にもわたって掲げてきました。イノベーションは、ここまでやれば終わりというゴールはなく、従業員一人ひとりが、常に意識し続けなければならないことです。新製品の開発を例に挙げるなら、「お客様が考える一歩先の付加価値」を生み出すということ。そのためには、営業や生産など、組織の枠を越えて生産プロセスや販売戦略を検討し、経済性と社会性のバランスがとれた製品づくりに取り組む必要があります。成熟した製品においても、品質やコストで差別化できない場合は、サービスや機能を付加することで新たな価値を創出し、顧客満足度の向上に努めてまいります。

「至誠と創造」により推進する「守り」と「攻め」のCSR活動

新たに策定した「LIP-2019」における重点テーマとして挙げた、「持続可能な社会の実現に向けた取り組み」に直結するのがCSR活動です。その根幹にも、社是である「至誠と創造」の精神が脈々と流れています。法令遵守やガバナンス、人権の尊重といった事業活動の基本を中心とした「守り」のCSRにおいて貫かれているのは、全ての仕事に誠心誠意取り組む「至誠」の精神です。一方、環境問題の改善に貢献する新製品の開発をはじめ、事業を通じて社会的課題の解決を目指す「攻め」のCSRでは、既成概念に捕らわれず工夫と改善に挑む「創造」の精神を支柱としています。

リンテックグループは、CSR活動のさらなる推進とステークホルダーの期待に応えるべく、2014年度にマテリアリティ（重点課題）を特定し、2015年度には特定項目ごとに主要な評価指標（KPI）を設定しました。活動の達成度を共有し、一体となって取り組む体制を強化していきます。各部署で行っているCSR活動が“点”のままで終わらないように、“線”で結びつけて“面”にし、組織を全体最適化していくこともマテリアリティ特定の狙いです。

働き方改革からガバナンスまで着実に「守り」を固める

「守り」のCSR活動において、重点的に取り組んできた課題の一つが、マテリアリティでも取り上げている「労働慣行」です。中長期的な「働き方改革」を推進し、ワークライフバランスの適正化や業務効率の向上など、さまざまな成果を生み出していきます。女性や子育て世代、介護を行う社員を支援する各種制度改定や教育機会の充実、待遇の改善など、多岐にわたる施策が目指しているのは、従業員満足度の向上と安心して働ける職場環境づくりです。今後はさらに、グローバル化に対応した人事制度を導入するなど、人材の多様化を図るとともに多彩な視点と発想を組織に取り入れていきます。また、M&Aにより増えていく海外子会社を対象とした、コンプライアンスを含むグローバルガバナンスへの対応にも注力し、着実に「守り」を固めていきます。

特定したマテリアリティに沿ってPDCAを回し、計画を着実に実行していくことは、攻守を問わずCSR活動の基本です。PDCAサイクルの硬直化を防ぎ、柔軟性を保持するためにも、ダイバーシティをはじめとした社会変化への対応はますます重要な取り組みになっていくと考えています。

「攻め」を意識したCSR活動が新たなイノベーションを育む

CSR活動の成果を高めるためには、従業員一人ひとりの意識向上が欠かせません。リンテックグループでは、CSR推進室が勉強会を定期的で開催するなど、CSRへの意識向上と啓発に努めています。また、業務において「攻め」のCSR活動を実践するために若手・中堅社員を中心とした「CSRワークショップ」を2015年からスタートしました（P20-21参照）。これは、社を支える価値観を10の心得で示した「LINTEC WAY」やSDGs*の意識定着により、社会的課題の解決につながる仕組みやビジネスモデル創出の実現を目指す勉強会です。

CSR活動は強制されるものではなく、自主的に社会的責任を果たすために行うものであり、だからこそ、イノベーションの原動力にも成り得ると考えています。このワークショップは、事業を通じたCSR活動の本質を再確認し、「攻め」のCSR活動を実践していく動機づけに大きな役割を果たしています。社会的課題の改善に貢献する革新的な製品の開発をはじめとする、新たなイノベーションの種子を育てていきます。

* SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。2015年9月に国連で採択された、17の目標と169のターゲットで構成。

誠心誠意で全力を尽くせば必ず信頼と結果につながる

「守り」と「攻め」にわたるCSR活動の両輪を支える社是の「至誠と創造」。この「至誠」は、CSR活動に限らず、全ての行動の基本であり、そこから新たな創造が生まれ、個人そしてリンテックグループの成長へとつながります。今後も「至誠と創造」を原動力として、ステークホルダーからの期待に応え、社会とともに持続的な成長を目指していきます。

本レポートは、社会の皆様そして全従業員にもリンテックグループのCSR活動をより良く理解していただくために、2016年度の成果をできるだけ分かりやすく体系的にまとめました。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

トップメッセージ

新中期経営計画「LIP-2019」－イノベーションの深化で「新たな価値」を創出－

前中期経営計画の成果と反省を踏まえて、改善すべきことは改善し、新たな取り組みに果敢に挑戦することで最終年度における連結売上高2,700億円、営業利益250億円、売上高営業利益率およびROE9%以上を目指していきます。

基本方針

イノベーションをさらに深化させ、新たな成長にチャレンジ

重点テーマ 1：地域戦略の強化

- 国内におけるシェア拡大と新市場・新需要の開拓
- アジア地域における戦略的投資と事業拡大
- 欧米における既存領域の拡大と、買収子会社との相乗効果の追求

リンテック・アジアパシフィック社設立



印刷材・産業工材関連事業の強化を主眼として、東南アジアやインドなどで販売ネットワークの拡充を図るとともに、地域統括拠点としてシンガポールに設立。

マックタック・アメリカ社幹部が訪問



新たにグループに加わった、マックタック・アメリカ社の幹部が本社や研究所、工場を訪問。互いの理解を深めるとともに、今後の戦略について確認。

重点テーマ 2：新たな価値の創造

- 顧客ニーズを超える差別化製品の創出
- 市場の変化を先取りした次世代製品の開発

先端技術棟



2015年度に本格運用を開始。最先端の分析・解析装置が導入され、これまで以上に材料開発から量産化までを円滑に実施可能。

大型テスト塗工設備



先端技術棟に導入。工場の量産設備により近く、生産プロセス開発のスピードアップを実現。今後の成長を担う新規材料の早期開発に貢献。

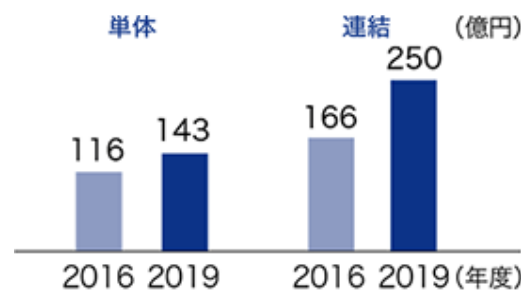
重点テーマ 3：企業体質の強靱化

- グループ会社の健全化と持続的な収益拡大
- 組織横断的な業務改革の推進
- コスト構造改革のさらなる推進

売上高



営業利益



重点テーマ 4：持続可能な社会の実現に向けた取り組み

- 社会的課題の解決に寄与する事業活動の推進
- 働き方改革と多様な人材の育成・活躍促進

2016年度CSRワークショップ



業務において「攻め」のCSR活動を実践するため、若手・中堅社員を中心とした「CSRワークショップ」を2015年からスタート。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

ダイバーシティ促進検討委員会



人事部門と連携して、従業員満足度の向上と安心して働ける職場環境づくりを目指す。従業員同士が協力し合える職場環境の実現に向けて啓蒙活動を実施。

Linking your dreams リンテック株式会社

リンテックグループのCSR



● 社是

至誠と創造

● 経営理念

社名の「リンテック」、すなわち“リンケージ(結合)”と“テクノロジー”および社是「至誠と創造」に裏付けされる人の和、技術開発力を基軸とし、国内・海外の業界において、だれからも信頼される力強い躍動感あふれる会社として社会に貢献し、株主各位・顧客・社員家族の期待にこたえる斬新な経営を推進します。

「明日を考え、今日を築こう」

For tomorrow we build today

リンテックグループのCSRの根幹は、社是「至誠と創造」にあります。
全ての従業員が社是の下、CSR活動に取り組んでいます。



本業を通じたCSRの実践

リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応え、信頼される企業であるために、社是「至誠と創造」を根幹に置き、社是を支える大切な価値観「LINTEC WAY」や「CSRの基本姿勢」「行動規範ガイドライン」にのっとり、全従業員がCSR活動を積極的に推進しています。

また、2017年4月からスタートした中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN 2019 (LIP-2019)」の実現のためには、グループ経営の強化が重要であり、グローバルでのCSR活動を継続的に進めています。リンテックグループでは、CSR活動の推進は経営に直結するものと考え、本業を通じたCSRを実践するため、特定したマテリアリティに基づき、2016年度は新たに主要な取り組み指標*について取り組みを進めました。PDCAサイクルの実践による戦略的なCSR活動を行っています。

* 主要な評価指標：目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

私たちが歩むべき道「LINTEC WAY」

リンテックグループでは、全従業員が心をつにし、同じ方向を目指すための道標として「LINTEC WAY」を策定しています。「LINTEC WAY」は、社是「至誠と創造」を支える大切な価値観として、10の心得から成り立っており、リンテックグループ従業員のあるべき姿として明文化されたものです。

○至誠を育む5つの心得

1 誠実であり続ける

私たちリンテックは、いかなるときも「誠実」であり続けます。誠実とはうそ偽りなく、正直にふるまうことです。私たちはそうあるために、人とのかわわりにおいて感謝と敬意を忘れません。また、メーカーとして品質でも誠実を語り続けます。

2 真心は通じる

私たちリンテックは「真剣に尽くす心」を持ち続けます。グローバルの時代においても、私たちが大切にしている真心を込めたコミュニケーションで、心が通じ合い、距離が縮まり、前進することができる我们相信からです。

3 喜びをつくろう

私たちリンテックは「ありがとう」を大切にします。なぜなら仕事とは、ステークホルダーに喜んでいただくことで対価を得るものと考えからです。そのためにも私たちはお客様の声、社会の声を自ら進んで聴き、困りごとの解決に取り組みます。

4 与える人になる

私たちリンテックは「利他の心」を忘れません。一人ひとりが真摯に仕事に向き合い、取り巻くすべての人たちに「喜びをもたらすこと」に全力を尽くします。なぜならその営みが、社会全体の持続的成長につながると信じているからです。

※利他とは「他人の喜び」をまず第一とする考え方。

5 仲間と家族を大切にする

私たちリンテックは「人の和」を大切にします。強い信頼関係の中で働くことは、仕事へのやりがいを生み、安定と向上をもたらすからです。従業員はもちろん、家族、取引先への思いやりを欠かさず、安心感と誇りを持って生き生きと働ける場を築き続けます。

○創造を育む5つの心得

1 成功するまで粘る

私たちリンテックは「進化」に挑み続けます。あと少しの粘りが成果を左右することを知り、細部までとことんこだわり抜きます。そしてそのプロセスを楽しみ、飽くなき探求心と情熱で、世の中の夢をつなぎます。

2 ユニークを誇ろう

私たちリンテックは「独創的な視点」を欠かしません。他社がまねできない方法で新しい価値や市場を生み出すことこそ、私たちの役目であり、誇るべき強みだと信じるからです。未開の分野にも積極果敢に取り組み、世の中に新鮮な驚きと感動を届けます。

3 変化をしなやかにとらえる

私たちリンテックは「時代の変化」と共に歩みます。変化しないことを最大のリスクと考え、しなやかに時代の価値観や環境の変化をとらえます。そして、勇気を持って自らを変化させることで活躍できる市場を開拓し、次世代のニーズにこたえていきます。

4 地球視点で考える

私たちリンテックは「グローバル」に行動します。世界規模での技術貢献に挑むとともに、地域に密着した活動を通じて社会の活性化に努めます。また、環境配慮を永続的に推進し、地球市民としての意識を忘れず行動します。

5 あらゆる可能性とつながる

私たちリンテックは「つながり」を価値と考えます。優れた知恵や技術を吸収し、切磋琢磨を惜しみません。社内だけでなく、会社や国境を越えたコミュニケーションを加速し、新たな価値づくりのためにあらゆる可能性を模索します。

リンテックグループのCSR

リンテックグループ行動規範

行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス（法令遵守）」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は、

1. 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
2. すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
3. すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
4. 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
5. 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
8. 反社会的勢力は排除します。
9. 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
10. 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
11. 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
12. 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定 2011年4月改定

「国連グローバル・コンパクト」への参加

リンテックグループは2011年4月から、「国連グローバル・コンパクト」に参加しています。下記10原則に基づいた事業活動を行い、社会の持続的発展に貢献していきます。

人権

原則 1 : 人権擁護の支持と尊重

原則 2 : 人権侵害への非加担

労働基準

原則 3 : 結社の自由と団体交渉権の承認

原則 4 : 強制労働の排除

原則 5 : 児童労働の実効的な廃止

原則 6 : 雇用と職業の差別撤廃

環境

原則 7 : 環境問題の予防的アプローチ

原則 8 : 環境に対する責任のイニシアティブ

原則 9 : 環境にやさしい技術の開発と普及

腐敗防止

原則10 : 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み

「ISO26000」はあらゆる組織における社会的責任に関する国際標準規格です。リンテックグループでは七つの中核主題を参考に、CSR活動を推進しています。

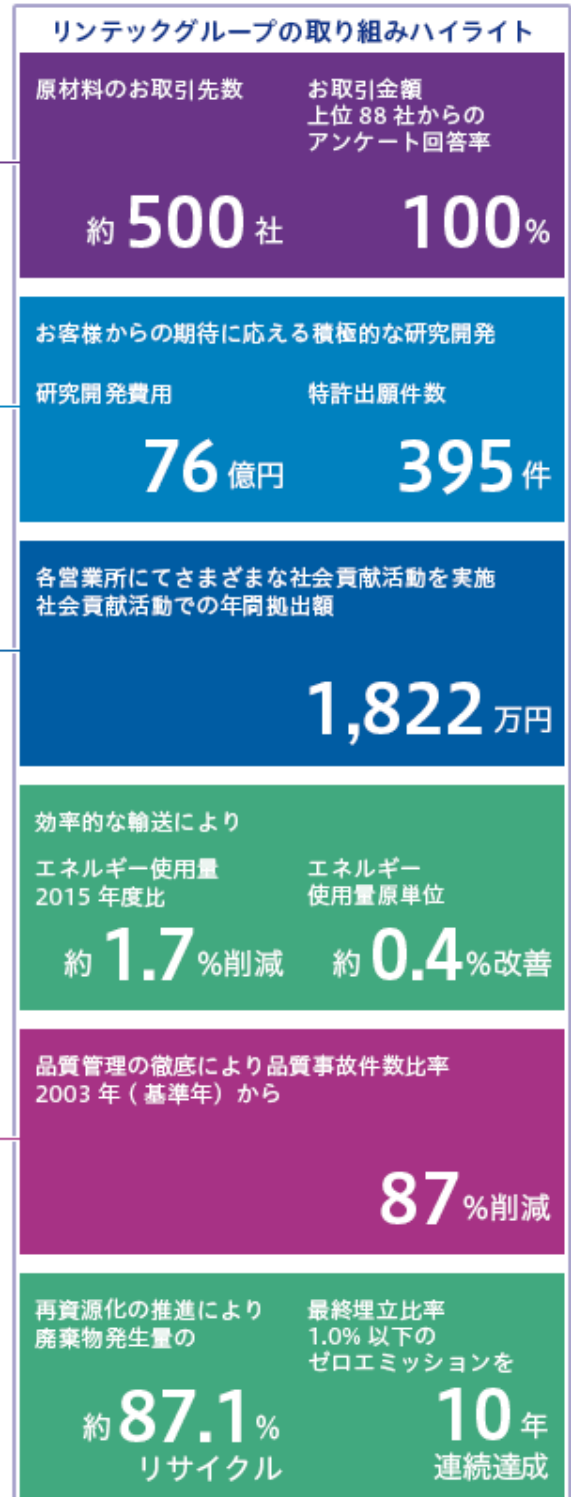
七つの中核主題

社会的責任の中核主題		組織統治
	組織統治	意思決定プロセス及び構造
	人権	<ul style="list-style-type: none"> (1) デュー・ディリジェンス (2) 人権リスク状況 (3) 共謀の回避 (4) 苦情処理 (5) 差別及び社会的弱者 (6) 市民的及び社会的弱者 (7) 経済的、社会的及び文化的権利 (8) 労働における基本的権利
	労働慣行	<ul style="list-style-type: none"> (1) 雇用及び雇用関係 (2) 労働条件及び社会的保護 (3) 社会的対話 (4) 労働における安全衛生 (5) 職場における人材育成及び訓練
	環境	<ul style="list-style-type: none"> (1) 汚染の予防 (2) 持続可能な資源の使用 (3) 気候変動の緩和及び適応 (4) 自然環境の保護及び回復
	公正な事業慣行	<ul style="list-style-type: none"> (1) 汚職防止 (2) 責任ある政治的関与 (3) 公正な競争 (4) 影響範囲における社会的責任の推進 (5) 財産権の尊重
	消費者課題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 公正なマーケティング、情報及び契約慣行 (2) 消費者の健康及び安全の保護 (3) 持続可能な消費 (4) 消費者サービス、支援及び紛争解決 (5) 消費者データ保護及びプライバシー (6) 不可欠なサービスへのアクセス (7) 教育及び認識
	コミュニティ参画及び コミュニティの発展	<ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニティ参画 (2) 教育及び文化 (3) 雇用創出及び技能開発 (4) 技術開発 (5) 富及び所得 (6) 健康 (7) 社会的投資

リンテックグループのバリューチェーンとステークホルダーとのコミュニケーション

リンテックグループの事業活動は、バリューチェーンのそれぞれにおいてインパクトを与えています。各フェーズで、ステークホルダーの皆様と積極的な対話を行い、社会の期待に応える取り組みを行っています。

【対話の場】	お客様	お取引先	地域社会	従業員	株主・投資家
	国内外の展示会、お問い合わせ窓口など	アンケート など	工場見学、社会貢献活動など	コミュニケーションマガジン、イントラネットなど	株主総会、IRミーティング、IRツール など



※ 取り組みハイライトは全てリンテック単体の実績。

マテリアリティ（重点課題）

リンテックグループは、CSR活動のさらなる推進とステークホルダーからの要請に応えていくため、2014年度に下のSTEP1からSTEP3に沿ってリンテックグループにとってのマテリアリティを特定しました。そして、2015年度は主要な評価指標(KPI)*を設定し、2016年度から本格的に運用を始めました。

* 主要な評価指標(KPI)：目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

マテリアリティの特定と主要な評価指標の設定プロセス

STEP1 課題の抽出

ISO26000やGRIなど各種ガイドラインやステークホルダーとのコミュニケーションなどから、検討すべき「CSR関連課題」を抽出しました。

STEP2 優先順位づけ

「リンテックグループにとっての重要性」と「ステークホルダーにとっての重要性」の二つの観点から、抽出した課題に優先順位をつけました。

STEP3 妥当性の確認

社外有識者の方やCSRに関する最高意思決定者である社長による評価・承認を得ました。

STEP4 主要な評価指標の設定

特定したマテリアリティを開示。取り組みの進捗状況を踏まえ、2015年度は主要な評価指標を設定し、2016年度から本格的に運用を行っています。

マテリアリティ		情報開示のステークホルダー		測定指標	あるべき姿	取り組み	主要な評価指標	実績*
		社内	社外					
組織統治	グローバルガバナンスの構築	○	○	グローバルに事業を展開する中で、各国の法規制のレベルを踏まえ、各国の地場のグローバルな管理体制の構築と協働と協力の体制を構築し、方針の伝達を徹底し、遵守を促す必要がある。	管理体制の強化と適応に努める。	グローバルガバナンス体制の確立	(1)国内外の法規制への適用 (2)各国の法令と自社標準に準拠し、必要に応じて、内部監査部門による監査結果	(1)1年(2) (2)重大な監査事象なし(注)
	原材料の効率的な利用	○	○	石化原材料「プラスチック」を多く用いており、資源の枯渇と社会の持続可能性に配慮も必要。また、調達において安定的に入手できる材料もあることから、資源の確保、効率的な利用も求められている。	環境負荷低減と環境法遵守に努める。	リテック製材料調達基本方針に基づき、環境負荷低減に配慮した調達活動	資源循環の推進	18.5年(注)
環境	大気への排出物の削減	○	○	生産プロセス、マシン・燃焼炉排気、VOCなど、大気への排出は、社会全体に影響を及ぼすものであり、安定的に入手できる材料も確保し、環境への負荷を低減することが重要である。	環境負荷低減と環境法遵守に努める。	環境非排気に基づき、大気への排出物の削減	(1)国内の事業活動におけるCO ₂ 排出量 (2)国内の事業活動におけるVOC排出量	(1)195.0千t(注) (2)91.0t(注)
	製品およびサービスを届けた顧客層での貢献	○	○	顧客から製造、製品交付時の作業において、環境配慮への必要性が高まり、LCA*は必要不可欠である。さまざまな業界に提供される製品群での貢献が重要となる。	環境負荷低減と環境法遵守に努める。	LCAを考慮した環境配慮製品の開発・製造	環境配慮製品の販売比率	25年(注)
	調達面でのコンプライアンス対応	○	○	環境規制の強化によって調達段階や供給方法が異なる。今後調達面や法規制における大気、水質、騒音、振動などに関する法規制の強化、正統な調達の実現と対応が重要とされている。	環境負荷低減と環境法遵守に努める。	環境マネジメントシステムによる、調達面でのコンプライアンス対応と管理	調達法令違反件数	0年(注)
	労働安全衛生への対応	○	○	各々の労働安全衛生にともなうさまざまな法規制上のサブサイアーも求められ、法規制の把握・対応が求められる。また、メンタルヘルスへの対応も重要になっている。	安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の実態を把握する。	労働安全衛生マネジメントシステムに準拠し、労働安全確保のための活動を実施	(1)労働災害発生発生件数 (2)労務災害発生率	(1)15年(注) (2)1年(注)に削減(注)
社会	職場におけるダイバーシティの実現	○	-	働きやすい職場づくりの取組は、ダイバーシティ(ジェンダー、マイノリティ、年齢など)への配慮が重要であり、経営的な競争優位の確保として多様性実現に向けた方針策定が必要となる。	安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の実態を把握する。	従業員の実態を把握し、働きがいのある職場の整備	(1)女性の管理職比率 (2)育児休業後の復帰率	(1)13% (注) (2)100% (注)
	従業員意識の向上	○	-	従業員は会社にとって重要なステークホルダー。企業の成長の基盤は、従業員が取り組んで働き、満足感が高いことが前提である。	安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の実態を把握する。	従業員が会社を誇って働く職場環境の構築	新卒3年以内の離職率	9.4% (注)
	人権デューデリジェンス**の推進	○	○	調達にはグローバルに広がっており、1国サブサイアーにおいて、人権リスクを把握していくこと、LCA**の中で人権が守られるように調達への教育・監査体制の構築が重要になっている。	安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の実態を把握する。	サプライチェーン全体での人権への配慮およびリスクの把握	サプライチェーンアンケート調査の返答件数	68社(注)
社会	社会面でのコンプライアンスへの対応	○	○	社会面に関する法規制は、地域によって異なる。また、正統な調達の実現が重要。各国の状況も異なりグローバルな管理体制を構築・整備していく必要がある。	安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の実態を把握する。	生産でのコンプライアンスの認識と徹底	役員・管理職を対象としたコンプライアンスアンケート調査の返答率	87.7% (注)
	製品面でのコンプライアンスへの対応	○	○	製品に関する法規制は地域によって異なる。また、正統な調達の実現が必要とされている。製品の安定供給、品質管理の徹底およびサービスの向上を確保することが不可欠である。	安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の実態を把握する。	環境マネジメントシステムによる製品の改良・手直し	重大製品環境改善件数	0年(注)
	持続可能な消費への貢献	○	○	さまざまな商品に関わる消費者として、消費者意識も日増しに高まり、意識が求められる。	安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の実態を把握する。	ステークホルダーへ、環境配慮製品の開発・製造	国内外展示会への出展回数 (注数評価)	32回(注)
	地域コミュニティとの共生を実現	○	○	グローバル展開を進める中で、地域コミュニティとの協力は重要。企業は地域や社会に還元されており、その一部であることは認識し、地域との共生を図るためのさまざまな取組活動を行う必要がある。	安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の実態を把握する。	長き企業市民として、地域社会への社会貢献活動の実施	(1)工場見学受け入れ人数 (2)社会貢献活動の実施	(1)1577人(注) (2)1年(注)に削減(注)
事業面での貢献	新興国における持続性のあるビジネスモデルの構築	○	○	新興国は成長性が高い。新興国への市場開拓の促進、品質管理の徹底でのグローバルな展開を行う。地域での事業は、地域経済を一緒に盛り上げ、ビジネスモデルの構築を目指す必要がある。	環境や社会に配慮したビジネスモデルの推進と社会的課題解決に寄与する事業の創造に努める。	現地調達推進と社会的課題解決を目的とした製品の研究開発	海外拠点での現地産材料登録システムの構築 (注数評価)	グローバルでの現地財情を管理するための構築システム開発中(注)
	新興分野への参入	○	○	世界的成長力・環境力の強み・強みを活かして、グローバルな展開ニーズ、社会課題に即した新分野への参入を図る。ステークホルダーとの協力を通じて社会(「防災、防災、環境など」)にも貢献する必要がある。	環境や社会に配慮したビジネスモデルの推進と社会的課題解決に寄与する事業の創造に努める。	社会的課題と社会的課題解決を目的とした製品の研究開発	特許出願数 (注数評価)	395件(注)

*1 LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて使われるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

*2 LGBT：レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシャル（両性愛者）、トランスジェンダー（性同一性障害など）の頭文字で、性的少数者の総称の一つ。

*3 人権デューデリジェンス：組織が法を遵守するだけでなく、人権侵害の危険性を回避するためにそれに対処するためのプロセス（ISO26000 6.3.3人権に関する課題1）をいう。グローバルに対応が求められる「ビジネスと人権に関する指導原則」における「保護、尊重および救済」の枠組みを踏まえたもの。

*4 SCM：サプライチェーンマネジメント。材料の調達から生産・販売・物流を経て最終需要者に至る一連の流れを最適に整理・管理していくこと。

暮らしの中にあるリンテック

リンテックは、粘着製品、粘着関連機器、特殊紙、剥離紙・剥離フィルムなどをはじめとして幅広い分野で、さまざまな製品を生み出しています。私たちの製品は、暮らしのあらゆる場面で活躍しています。



建物用ウインドーフィルム

窓ガラス全面に貼ることで、震災などによるガラス破損時の破片の飛散・落下防止効果をはじめ、紫外線カット、断熱、防犯対策、プライバシー保護などのさまざまな機能を発揮するウインドーフィルム。透明タイプや着色・反射タイプなど多彩なアイテムをラインアップしており、特に安全対策や節電対策といった観点から、昨今非常に注目を集めています。

▶ 建物用ウインドーフィルム



|| マーキングフィルム

耐候性、耐熱性、耐水性、耐油性などさまざまな優れた特徴を備えた、豊富なカラーバリエーションの耐久性粘着フィルム。屋外看板や車体のロゴなどに最適です。また、大判デジタルプリントにより多彩なビジュアル表現が可能な各種素材もラインアップ。商業施設の大型広告や、鉄道・バスなどのラッピング広告用途で幅広く使用されています。

▶ マーキングフィルム



|| 自動車用ウィンドーフィルム

自動車の窓ガラスに貼るウィンドーフィルム。豊富な色と質感のバリエーションで、ドライバーの感性に響く高級感のある外観・車内空間演出を実現します。同時に、優れた断熱性能により車内の空調効率を高め、快適空間を実現します。さらに、高透明タイプの商品各種、ラインアップしています。

▶ 自動車用ウィンドーフィルム



|| シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム

各種商品のブランド表示用ラベルや、スタンドタイプアイキャッチラベルなどをはじめ、自動車・電気機器などの銘板用・警告用ラベル、冷凍庫や冷蔵庫に入れたり、加熱処理したりする食品用ラベル、バーコード印字などにも適した物流用ラベル、さらにはウェットテッシュ用の開閉ラベルや、粘着メモなどに至るまで、実に多彩なラベル素材を開発し、ご提供しています。

▶ 印刷用粘着紙・粘着フィルム



|| 半導体関連テープ・装置

回路形成後の半導体ウェハを裏面研磨し、薄型化するプロセスに使われる回路面保護テープ、ウェハを一つ一つのチップに切断するプロセスにおいて、ウェハをリングフレームに固定するテープ、さらには切断後のチップ裏面にそのまま粘接着剤を転写し、チップ実装・積層プロセスの簡略化に寄与するテープなど、実に多彩な高機能テープと、それを貼付・剥離する各種電子装置を開発しています。

▶ エレクトロニクス関連製品



|| 液晶ディスプレイ用フィルム

液晶ディスプレイの画像表示に欠かせない偏光フィルム、位相差フィルムなどを貼り合わせるための粘着加工や、貼り合わせのための両面粘着シートの供給、さらにはディスプレイ表面への傷付き防止や、蛍光灯などの映り込み防止のための、フィルム表面の防眩ハードコート加工などを行っています。

▶ 光学関連製品 ◻



|| 積層セラミックコンデンサー製造用コートフィルム

多くの電子機器に内蔵されている積層セラミックコンデンサーの製造工程において、極薄のセラミック層を形成する上で不可欠な剥離フィルム。セラミックの誘電ペーストを薄く、均一に塗ることができ、かつきれいにはがせることが求められます。当社の剥離技術、精密薄膜塗工技術の粋を結集した製品です。

▶ 積層セラミックコンデンサ関連テープ ◻



|| 炭素繊維複合材料用工程紙

強く軽い素材として、ゴルフクラブや釣り竿、さらには航空機のボデー部材などに使われている炭素繊維(カーボンファイバー)。これを樹脂で固めてシート状にするプロセスにおいて、当社の工程紙と呼ばれる剥離紙製品が使用されています。はがしやすさはもちろん、耐熱性や寸法安定性も重要です。

▶ 剥離紙・剥離フィルム ◻



|| 特殊紙

豊富なカラーバリエーションや、一味違った風合いが持ち味のカラー封筒用紙をはじめとして、ホットドッグなどの食品包装用の耐油紙、クリーニングタグ用の耐洗紙、半導体工場などで使われるクリーンルーム用の無塵紙、自己消火機能を持った不燃紙など、実に多彩な特殊機能紙を各種開発し、提案しています。

▶ 特殊紙 ◻

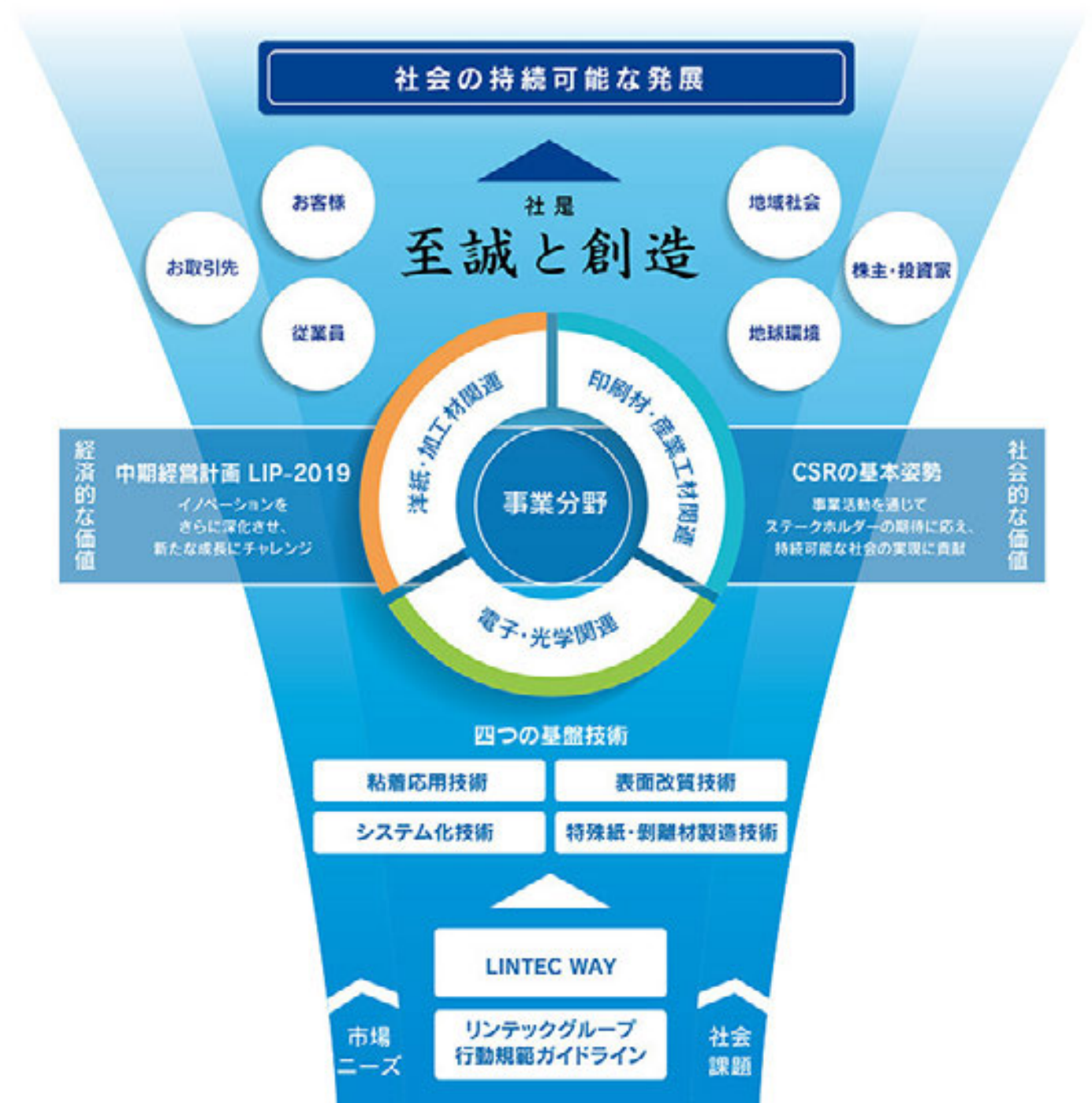


リンテックグループの概要

リンテックグループとは

リンテックグループは社是「至誠と創造」の実現に向け、「LINTEC WAY」「リンテックグループ行動規範ガイドライン」を基本に四つの基盤技術を進化させ、新たな価値を生み出しています。

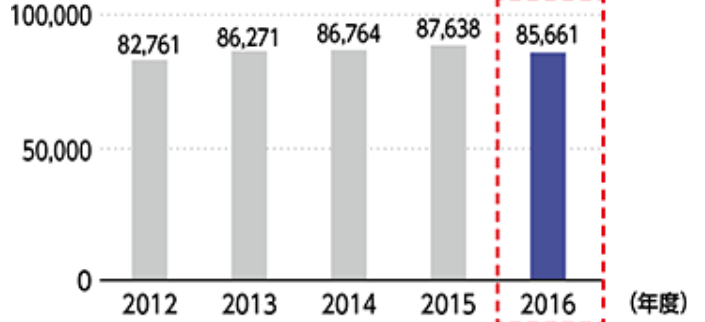
経済的な価値を生み出す、中期経営計画「LIP (LINTEC INNOVATION PLAN) -2019」、「マテリアリティ（重点課題）」への取り組みを通じて、社会の持続可能な発展を目指します。





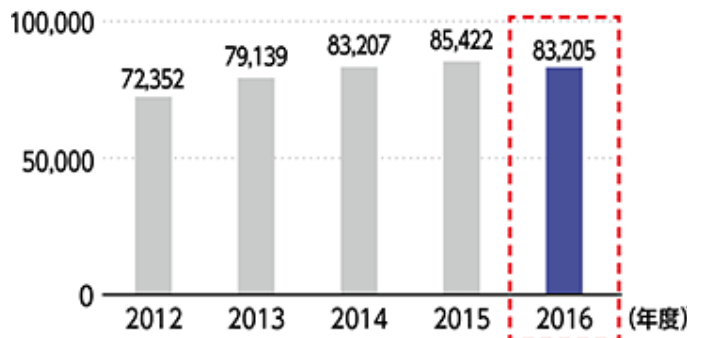
日用品や食品、家電製品などの表示用ラベルとして使用される粘着紙・粘着フィルム、また、モバイル機器などの部材固定用テープや自動車用粘着製品、業務用バーコードプリンタ、ラベルを自動貼りするラベリングマシン、建物や自動車用のウインドーフィルム、屋外看板・広告用素材、車体装飾などに使用されるマーキングフィルム、店舗装飾などに寄与する内装用化粧シートなど、用途や使用環境に応じ、さまざまな機能を付加した製品を提供しています。

売上高推移
(百万円)



半導体チップの製造・実装工程で使用される特殊テープとその特性を生かす装置や積層セラミックコンデンサの製造に不可欠な剥離フィルム、また、液晶ディスプレイ関連粘着製品、タッチパネル関連製品など、独自の研究・開発そして技術を駆使した製品を提供しています。

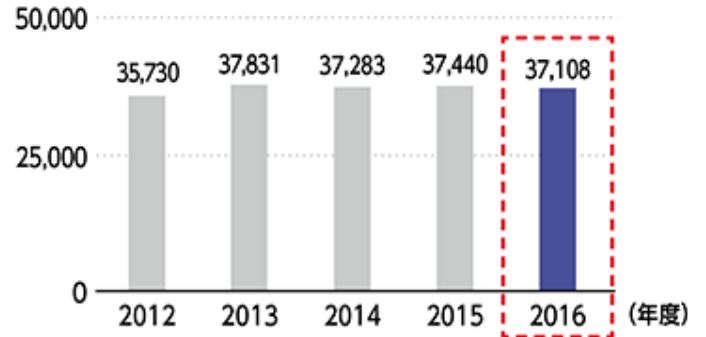
売上高推移
(百万円)





抄紙技術を生かし、豊富な色数が特徴のカラー封筒用紙や色画用紙、食品包装用の耐油紙や無塵紙などの機能紙、高級印刷用紙、また、粘着剤面を保護する剥離紙や剥離フィルムのほか、合成皮革や炭素繊維成形品製造時に使用される工程紙など、多彩で多様な製品を提供しています。

売上高推移
(百万円)

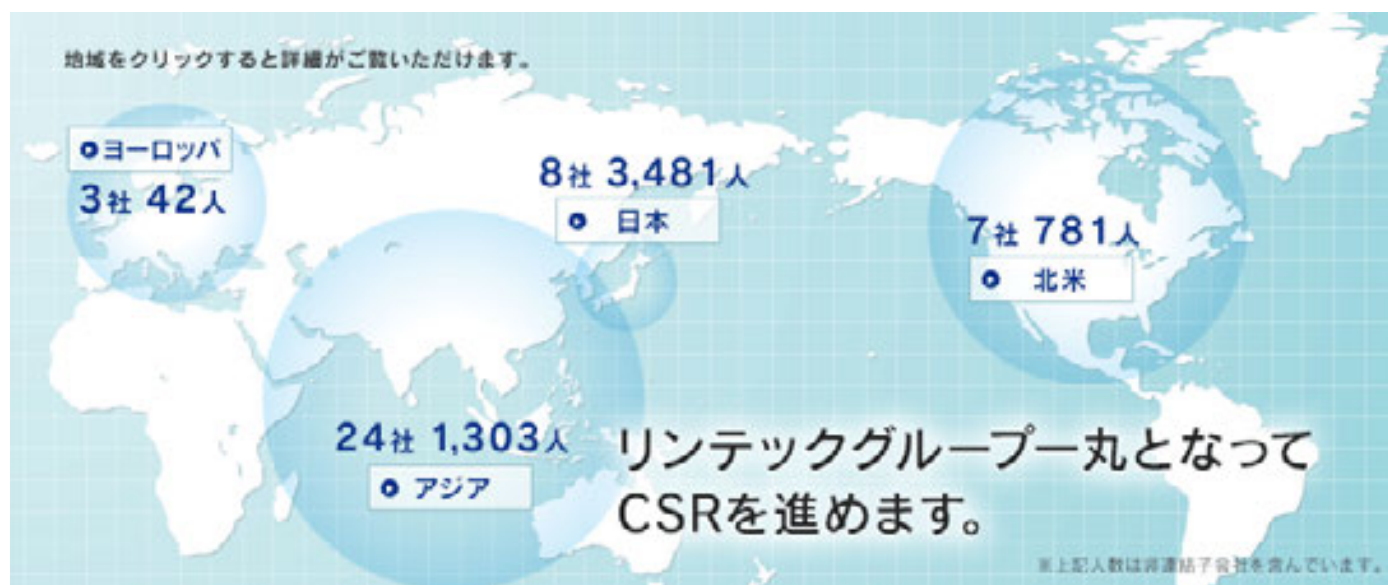


©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

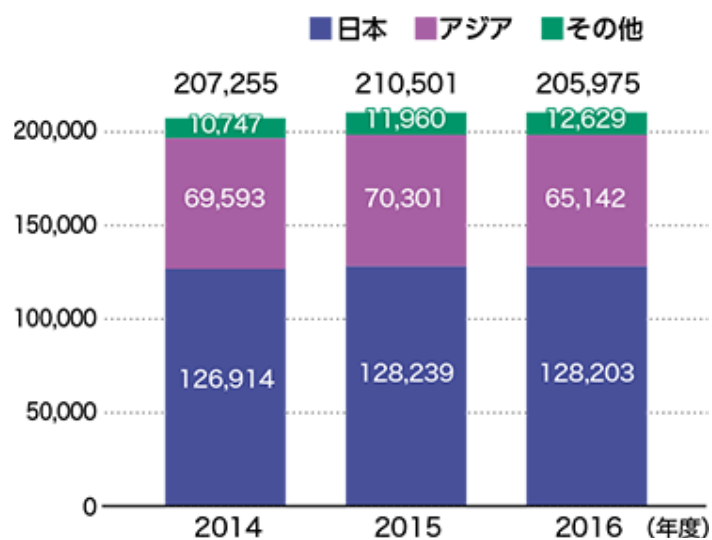
Linking your dreams リンテック株式会社

リンテックグループの概要

リンテックグループ全従業員がステークホルダーの声にこたえ、よりよい社会を実現するために、さまざまなCSR活動を行っています。



地域別売上高



● 環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001認証取得拠点

■ リンテック株式会社

- 本社●
- 飯田橋オフィス

■ (支店)

- 札幌支店
- 仙台支店
- 北陸支店
- 静岡支店
- 名古屋支店
- 大阪支店
- 広島支店
- リンテックコマース株式会社
- リンテックサインシステム株式会社
- 富士ライト株式会社
- リンテックサービス株式会社
- リンテックカスタマーサービス株式会社
- プリンテック株式会社
- 東京リンテック加工株式会社●
- 四国支店
- 福岡支店
- 熊本事務所

■ (工場・研究所)

- 吾妻工場●
- 熊谷工場●
- 千葉工場●
- 龍野工場●
- 新宮事業所●*1
- 新宮事業所龍野事務所●*1
- 小松島工場●
- 三島工場●*2
- 土居加工工場●*2
- 新居浜加工所●
- 伊奈テクノロジーセンター●
- 研究所●

*1 新宮事業所と新宮事業所龍野事務所は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

*2 三島工場と土居加工工場は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

|| アジア

- 琳得科(蘇州)科技有限公司●
 - 北京分公司
 - 上海分公司
 - 深圳分公司
- 普林特科 (天津) 標籤有限公司●
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (上海) 社
 - 蘇州分公司
 - 天津分公司
 - 深圳分公司
 - 成都分公司
- リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ (台湾)社
- リンテック・ハイテック台湾社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (台湾)社●
新竹オフィス
- リンテック・コリア社●
- リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ (韓国)社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (韓国)社
- リンテック・アジアパシフィック社
- リンテック・シンガポール社●
- リンテック・インドネシア社●
- リンテック・ジャカルタ社
- リンテック・タイランド社
- リンテック・バンコク社
- リンテック・インダストリーズ (マレーシア)社●
- リンテック・インダストリーズ (サラワク)社●
- リンテック・クアラルンプール社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (マレーシア)社
 - クアラルンプールオフィス
 - ペナンオフィス
- リンテック・ベトナム社
- リンテック・ハノイ・ベトナム社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(フィリピン)社
- リンテック・フィリピン (ペザ) 社
- リンテック・インドニア社

|| 北米

- リンテック USA ホールディング社
- リンテック・オブ・アメリカ社
 - シカゴオフィス
 - ダラスオフィス
 - ナノサイエンス&テクノロジーセンター
- マックタック・アメリカ社
- マディコ社●
- VDI社

- リンテック・ヨーロッパ社
 - ハンガリーオフィス
- リンテック・グラフィック・フィルムズ社
- リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ (ヨーロッパ)社
 - イスラエルオフィス

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

コーポレート・ガバナンス

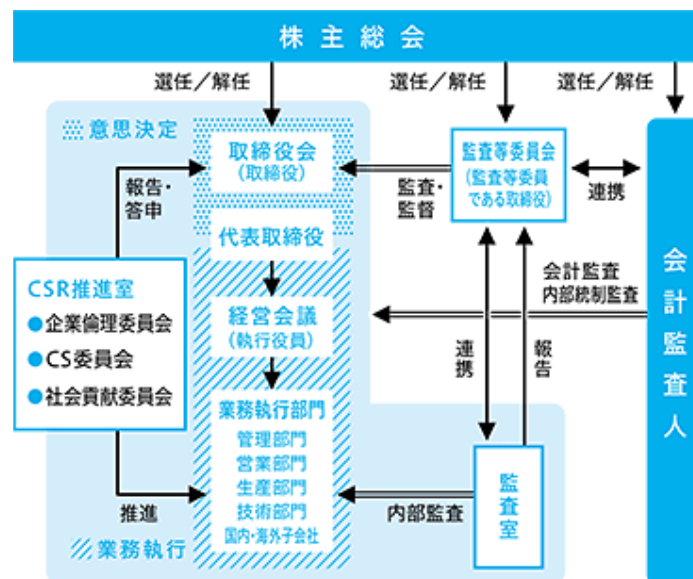
リンテックグループは、法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定と効率的な業務執行を行っていくことが、コーポレート・ガバナンスの基本だと考えています。その充実・強化を通じて、リンテックグループの企業価値および株主共同利益のさらなる向上を目指します。

コーポレート・ガバナンス体制

リンテックでは機関設計*1として監査等委員会設置会社*2を選択しており、議決権のある監査等委員である取締役を置き、取締役会の監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスの一層の充実とさらなる経営の効率化を図っています。

当社の社外取締役は4人で、うち3人が監査等委員である取締役となっています。その他の経営における具体的な取り組みとして、取締役の任期を1年とし、株主の皆様に対する取締役の責任を明確にしているほか、執行役員制度の導入により、経営の重要な意思決定を行う取締役と、業務の執行を行う執行役員とを分離しています。

コーポレート・ガバナンス体制



*1 機関設計：株式会社の意思決定や運営などを行う「機関」（株主総会、取締役など）の構成を決めること。

*2 監査等委員会設置会社：監査等委員として選任された取締役3人以上（過半数は社外取締役）で構成する監査等委員会が取締役の業務執行を監査・監督する株式会社。

1. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	株式報酬型ストックオプション	賞与	
取締役 (監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	450	353	11	85	11
取締役 (監査等委員) (社外取締役を除く)	19	19	-	-	1
社外役員	16	16	-	-	4

2. 役員の報酬等の額の決定に関する方針

(1) 取締役(監査等委員を除く)の報酬

当社の取締役(監査等委員を除く)の報酬は、次のとおり構成しています。

(基本報酬)

- 役位別に支給される定額部分と、役員持株会への拠出部分から成る
- このうち后者は、役員持株会経由で定期的に自社株式購入分および保有をさせるもので、「長期インセンティブ報酬」として設定

(賞与)

- 連結業績に対する評価を反映させることにより、「短期インセンティブ報酬」(業績連動報酬)として設定。ただし、支給総額は150百万円を超えない金額とする。(株式報酬型ストックオプション)

(株式報酬型ストックオプション)

- 役員持株会と並ぶ「長期インセンティブ報酬」として設定

これらの報酬はそれぞれ株主総会で報酬額を決議しており、その額の範囲内で、個々の取締役(監査等委員を除く)の職務と責任をもとに、「取締役報酬内規」に基づき、取締役会で決定することとしています。

なお、取締役(監査等委員を除く)の評価、報酬の決定に関しては、客観性、透明性を高めるために、代表取締役社長のアドバイザー機関として、社外有識者を含む評価報酬諮問会議が設けられており、必要に応じ代表取締役社長に助言及び提言を行っております。

(2) 取締役(監査等委員)の報酬

監査等委員の報酬は、株主総会で決議された報酬額の範囲内で、個々の監査等委員の職務と責任を基に、「取締役報酬内規」に基づき、監査等役員の協議により決定することとしています。

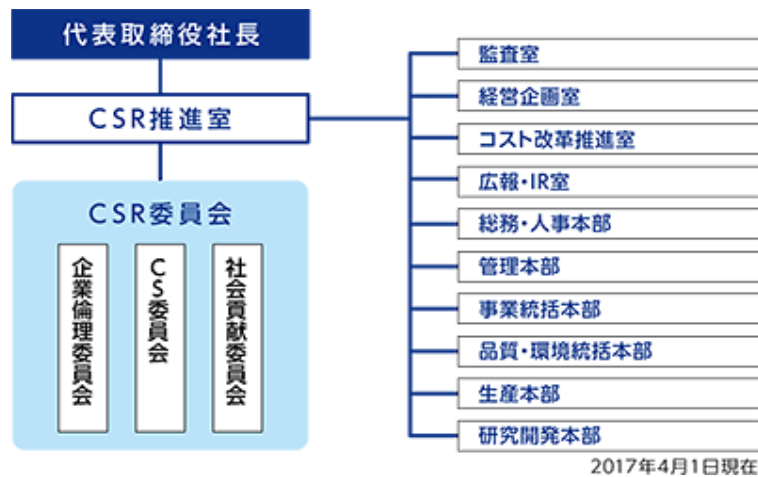
戦略的CSR実施のために

リンテックでは、CSR委員会である「企業倫理委員会」「CS委員会」「社会貢献委員会」に推進担当役員を配しており、各委員会から挙がってきた重要テーマについては取締役会にて決議を行っています。これにより、推進担当となった役員、各委員会で得られた知見を集合させ、多面的に内容をとらえ、リンテックグループとしての判断につなげています。

(また、取締役会で決議されたESGテーマに関する取り組みは、最終的に経営会議に報告され、サステナビリティと事業との統合を行います。)

CSR推進体制

社長直轄のCSR推進室が、全社での高い倫理観の育成とCSRの浸透、およびCSR委員会の活動支援を行っています。CSR委員会は組織横断的のメンバーで構成され、各委員会に推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。また、四半期ごとに各CSR委員会の活動報告が取締役会で報告されています。



関連データ

社外取締役

取締役 (日本製紙株式会社専務執行役員) 福島 一守	日本製紙株式会社での役員経験、同社生産部門・営業部門での業務経験から得た知識・経験等が、当社取締役会の監督機能強化に活かされています。
取締役／監査等委員 (日本製紙株式会社取締役執行役員) 野沢 徹	日本製紙株式会社での役員経験、同社管理部門での業務経験から得た知識・経験を基に、取締役会の監査・監督を行っています。
取締役／監査等委員 (中央大学大学院商学研究科講師、 リョービ株式会社社外取締役、当社大規模買付ルール独立委員会委員) 大岡 哲	政策金融での経験や豊かな国際経験と専門的学識経験、他業界の社外取締役として得た知識・経験を基に、取締役会の監査・監督を行っています。
取締役／監査等委員 (弁護士 梶谷総合法律事務所、当社大規模買付ルール独立委員会委員) 大澤 加奈子	弁護士としての高度な法律知識、幅広い見識、国内外の企業法務に携わることで得られた知識・経験を基に、取締役会の監査・監督を行っています。

取締役会の開催状況

- 開催数：17回
- 取締役の出席率：98.9%
うち、社外取締役の出席率：95.6%

監査等委員会の開催状況

- 開催数：13回
- 監査等委員の出席率：96.0%
うち、社外監査等委員の出席率：94.9%

※ 取締役会の出席率、社外取締役会の出席率は、2017年3月31日まで社外取締役を務めた佐藤信一氏の実績が含まれます。

コンプライアンス

リンテックグループでは社是「至誠と創造」に基づき、従業員一人ひとりが自らを厳しく律するよう努めています。2017年2月には、役員と管理職を対象にコンプライアンスアンケート調査を実施しました（回答率2017年87.7%★、2016年82.6%、2015年79.1%）。また、イントラネット上に「コンプライアンスに関する自己チェックシート」と「コンプライアンス研修資料」を掲出しており、全ての従業員がこれらの資料を活用し、自らの行動の確認や所属組織でのコンプライアンス教育を実施しています。

★マークについては[こちら](#)



吾妻工場でのCSR勉強会

人権・労働に関するグローバル調査

リンテックグループでは2017年2～3月に、グループ全社を対象とした、人権および労働に関する実態調査を実施しました★。調査により、各国・各地域での法令遵守はもちろん、リンテックグループの行動規範が理解され、基本的人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることを確認しました。今後も年1回定期的に調査を行い、実態把握とその改善に活用していきます。

★マークについては[こちら](#)

独占禁止法の遵守／汚職、贈収賄の防止

リンテックグループでは、独占禁止法の遵守と、汚職、贈収賄の防止を徹底しています。従業員が携帯する冊子「行動規範ガイドライン」にもその旨記載し、意識啓発を行っています。

法務関連情報の発信

リンテックグループでは、2016年2月から2017年2月にかけて、リーガルニュースを発行し、従業員への法務関連情報の発信を行いました。

- No.8 「日本の企業が外国の法律で裁かれる!? ～外国の法律の域外適用について」
- No.9 「注目すべき労働法制-1 『女性活躍推進法』の制定」
- No.10 「注目すべき労働法制-2 『障害者雇用促進法』の改正」
- No.11 「注目すべき労働法制-3 『労働者派遣法』の改正」
- No.12 「注目すべき労働法制-4 『介護保険法』の改正」
- No.13 「契約管理」
- No.14 「営業秘密管理」
- No.15 「印紙税」
- No.16 「瑕疵担保責任」
- No.17 「製造物責任とPL法」

行動規範ガイドラインによる意識啓発

リンテックグループでは、従業員の行動規範を記載する小冊子「行動規範ガイドライン」を発行し、一人ひとりの意識啓発に努めています。海外の従業員も同じ意識で行動できるよう、「行動規範ガイドライン」は7言語に翻訳されています。2014年4月には内容を見直し、これを活用して2016年度は国内生産拠点でCSR勉強会を開催しました（10拠点、1,243人参加）。



▶ [リンテックグループ行動規範](#)

りんりかわら版による倫理感の醸成

2006年度よりスタートした「りんりかわら版」は、従業員に求められる倫理観や行動規範を解説つきの川柳にし、イントラネットを通じ分かりやすく浸透を図る取り組みです。これらの川柳を小冊子「りんりかわら版 守ってマスク!?」にまとめ、行動規範の遵守および倫理感の醸成に役立てるとともに、お客様やお取引先にも紹介しています。2017年3月発行のvol.10では、「至誠と前を向く」をテーマに、10年前と現在の変化など10冊目刊行記念企画を掲載しています。



©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

リスク管理

リンテックグループでは、グループ全社を対象に会社経営に関わるあらゆるリスクを洗い出し、緊急度や重要度に応じて改善に取り組むなど、問題発生の防止に努めています。コンプライアンスアンケートの実施や社内状況の把握を行い、リスク管理能力の向上に努めています。

全社BCMS*1の構築について

リンテック、東京リンテック加工（株）およびリンテック・スペシャリティイー・フィルムズ（台湾）社は、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に、人的被害を最小限にとどめ、製品の供給を継続して早期に事業を再開できるよう、BCP*2の策定に取り組んでいます。2014年3月にはISO22301*3：2012の認証を取得し、BCPを維持・改善するためにBCMSを運用しています。今後も全従業員へのBCMSの浸透を図り、活動の活性化と充実を図っていきます。

*1 BCMS：Business Continuity Management System（事業継続マネジメント）の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

*2 BCP：Business Continuity Plan（事業継続計画）の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

*3 ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

BCMS演習

各拠点の従業員が自ら演習内容を企画し、拠点ごとに事業内容や拠点の特性に応じた演習を実施しています。各拠点の演習内容は、社内イントラネットを通じて全社的に共有しています。

2016年度の
実施回数 **27** 拠点・**396**回



救助袋を使用した4Fからの避難演習(本社)



備蓄食試食演習(札幌支店)



防災避難演習(龍野工場)



津波避難場所への避難訓練(小松島工場)



階段避難車演習(東京リンテック加工)

BCMSの学習

全従業員を対象に、BCMSの基礎知識を学ぶ全社BCMS勉強会を年3回本社で開催しています。勉強会は、テレビ会議システムにより全拠点に公開しています。さらに専門知識を有する外部講師によるBCMSセミナーを年1回開催、各拠点から従業員が参加しています。勉強会で得た知識は、各拠点における演習に生かされています。



BCMSセミナー

改善に関する取り組み

各拠点のBCMSの運用状況を内部監査で確認しています。内部監査の約半数は、拠点間で監査を行う「相互監査」で実施しており、他拠点の取り組みを知り、改善し合う機会となっています。

従業員の意見や改善案はBCMS評議会で協議し、全社的な取り組みへと反映しています。評議会はテレビ会議システムで各拠点に公開し、従業員が閲覧できるオープンな環境で実施しています。



第14回全社BCMS評議会



123期 全社BCMS事務局内部監査

情報セキュリティー管理

リンテックでは毎年、「情報セキュリティー運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき、各部署で内部監査を実施しています。

2016年11月には、企業倫理委員会がチェックシートによる「自己監査」を実施し、情報セキュリティー管理規程が各部署で正しく理解されていることを確認しました。また、2017年2月には、e-ラーニング「身近なセキュリティー・リスク2」を実施し、「標的型攻撃・ランサムウェア」について注意喚起を行いました。

ヘルプライン

リンテックでは、職場の悩みや法令違反を相談する窓口として、ヘルプライン（内部通報制度）を設けています。相談窓口には第三者機関である顧問弁護士を加え、迅速な相談と調査が行える体制を整えています。また、行動規範ガイドラインにヘルプラインを掲出するなど社内周知を行い、仕組みを活用することで問題の早期発見・解決を図っています。2015年より、海外グループ会社まで対象を広げた「グローバル内部通報制度」を運用し、英語での通報も可能としています。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

お客様のために

CS(お客様満足)向上のために

ワンストップ開発の推進

リンテックでは、お客様のニーズに迅速に対応するため、製品設計と量産化検討を同時進行させる「ワンストップ開発」に取り組んでいます。その基盤となるのが、2015年に本格稼働した研究開発本部の先端技術棟です。棟内の塗工設備を有効活用することにより、工場での試作前に量産プロセスの検証が可能となりました。また、精密分析技術の確立とシミュレーション技術の活用により、今後、さらなる新製品開発のスピードアップが期待されます。

先端技術棟の各フロアにはミーティングコーナーを配置し、研究員同士が活発に意見交換できる環境を整えています。

★マークについては[こちら](#)

特許出願数★

395件



先端技術棟



大型テスト塗工設備

|| SDGs*を取り入れた事業創出ワークショップ

リンテックグループでは、社会課題やステークホルダーの期待に対し、事業を通じて応えることが「攻めのCSR」の実践だと考えています。リンテックのCSRの根幹である社是「至誠と創造」の精神を発揮し、価値創造へつなげるために、若手・中堅の従業員を中心としたイノベーション創出のワークショップを、前年に引き続き2016年も開催しました。

今回で第2回を迎えるワークショップでは、世界的にも取り組みが始められている「持続可能な開発目標（SDGs）」を、課題設定のベースとして利用しました。参加者30人は約半年をかけ、このSDGsに対しリンテックグループが事業を通じてどのように解決を図ることができるかについて議論を重ね、ビジネス構想を企画しました。最終回では会長、社長含む経営層に、参加メンバーが直接プレゼンテーションを行いました。



ワークショップのようす

* SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。2015年9月に国連で採択された、17の目標と169のターゲットで構成。

外部からの声 企業価値の本質的な向上につながるワークショップ

「CSRを原動力にしてイノベーションを起こし、社会的課題の解決を図る」という高い理念の下に、2年にわたりワークショップが行われました。コンプライアンス偏重型に陥りがちな日本企業のCSR。駆動エンジンがないがゆえに掛け声だけにとどまりがちなイノベーション活動。これらの弱点を一挙に解決しようという野心的な試みは、今後SDGsを基軸としつつ進化、発展させていくことで、企業価値の本質的な向上につながることを信じてやみません。



ジャパン・フォー・サステナ
ビリティ
多田 博之 氏

|| 製品の情報開示

お客様に安心して製品を使っていただけるように、リンテックグループではさまざまな方法で製品情報の開示を行っています。安全データシート（SDS）の発行や化学物質調査の回答もそれらの一環です。幅広い分野で使用されている当社製品に求められる情報は多岐にわたり、それらを分かりやすい情報として提供することがCS向上につながると考えています。例えば粘着製品では、品種ごとに特徴や構成、物性データなどを記載した技術資料を準備しています。これからも喜んでいただけるリンテック製品を目指して、さまざまな取り組みを進めていきます。

品質事故の予防と教育

リンテックグループでは、お客様からの品質に対する要求に応えるために、従業員一人ひとりが品質重視への意識を高め、理解を深めることが重要と捉えています。こうした考え方の下、全従業員を対象としたe-ラーニングや社内講習などを実施しています。

2016年度は、規格改定に伴うISO9001:2015に関する教育やFMEA（故障モード影響解析）の教育を行いました。FMEAは、製品の潜在的な故障リスクを、その設計プロセスから洗い出して事前に処置を施し、トラブルの未然防止を図る手法です。FMEAの手法習得をはじめ、さまざまな品質教育を実施することにより、品質事故の防止に努めています。

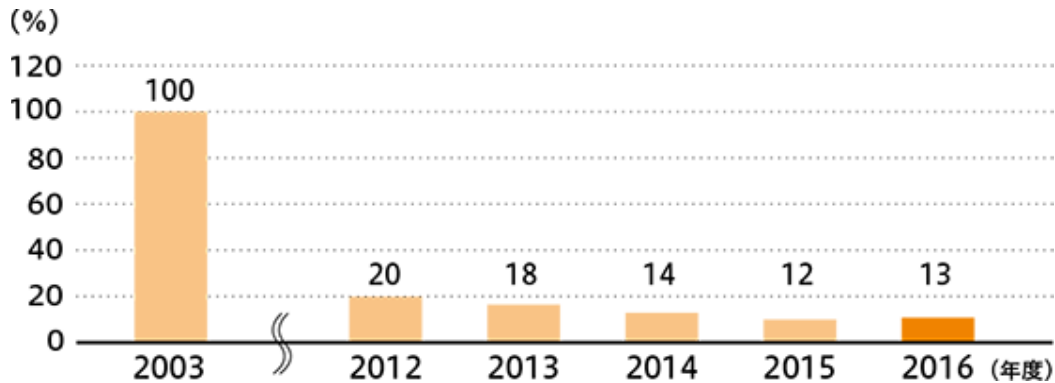
また、国内拠点で構築・運用しているクレーム管理システムを海外拠点にも展開し、情報を共有しています。

品質教育講座受講者数 延べ

2,496人

※ 対象範囲：国内グループ会社

品質事故件数比率



※1 国内グループ会社における品質事故件数比率です。

※2 2003年度の件数を100%とした比率です。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

お客様のために

お客様からの期待に応えるために、製品の安定供給や品質管理を徹底し、より一層のサービス向上に努めています。

品質保証

リンテックグループの“ものづくり”は、社是「至誠と創造」の精神を根幹に置き、従業員一人ひとりが品質を考え、環境と安全を意識し、お客様に喜んでいただける“ものづくり”に取り組んでいます。また、現状に満足することなくチャレンジ精神を持って、さらなる“安心”と“信頼”を届けることに努めています。リンテックグループは未来を見据えた“ものづくり”への挑戦を続けています。

▶ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

品質保証体制

リンテックグループでは、ISO9001*1の考え方を基本とした品質保証体制を構築してきました。

2016年度の新規認証を含めると、現在の認証取得数は21拠点となります。規格改定による2015年版（ISO9001:2015）への移行も、2017年度中には全ての登録事業所で完了する予定です。また、関連する拠点の拡大・統合による連携強化も継続して進めています。

これらの活動を基盤として、さらなる品質向上を目指していきます。

ISO9001認証取得状況

	2014年度	2015年度	2016年度
認証取得数	20	20	21*2

*1 ISO9001：品質マネジメントシステムの国際標準規格。

*2 地域別取得状況：日本10／アジア等9／アメリカ2

Voice 海外グループ会社初のISO9001:2015認証を取得

リンテック・バンコク社は、関連部署のサポートを受け、海外グループ会社初となるISO9001:2015の認証を2016年5月9日に取得しました。

本規格の認証取得は、顧客満足度の向上、業務の効率化、CSRに沿ったワークフローの構築などを主目的としています。製造業を営む当社が社会的責任を果たしていくためには、製品・サービスの品質向上や、製造プロセスにおける有害物質の管理などが重要な取り組みになると考えました。

今後も構築した品質マネジメントシステムを維持するとともに、プロセスの継続的な改善に取り組み、社会からの期待に応えていきたいと思えます。



リンテック・バンコク社 ISO
担当
Parichat
Suanthawee (Bow)
(パリチャット・スアンタ
ウィー・ボウ)

お客様とのコミュニケーション

国内外の展示会に出展

リンテックグループでは、より多くのお客様とのコミュニケーションを促進するため、国内外で開催される展示会に積極的に出展しています。2016年度は、計32回の展示会に出展し、リンテックの製品や技術に対する貴重なご意見をいただきました。



エコプロ 2016に出展

2016年度に出展した主な展示会

国内	海外
<ul style="list-style-type: none">■ ファベックス 2016■ SIGN EXPO 2016■ サイン&ディスプレイショウ 2016■ 国際物流総合展 2016■ エコプロ 2016■ 第16回国際ナノテクノロジー総合展■ 新機能性材料展 2017	<ul style="list-style-type: none">■ Display Week 2016 (アメリカ・サンディエゴ)■ Philippines Semiconductor and Electronics Convention and Exhibition 2016 (フィリピン・パサイ)■ SEMICON West 2016 (アメリカ・サンフランシスコ)■ All China Leather Exhibition 2016 (中国・上海)■ SEMICON Taiwan 2016 (台湾・台北)■ Glasstec 2016 (ドイツ・デュッセルドルフ)■ NEPCON Vietnam 2016 (ベトナム・ホーチミン)■ SEMA SHOW 2016(米国・ラスベガス)■ China (Shenzhen) International Touchscreen Exhibition 2016(中国・深圳)■ SEMICON China 2017 (中国・上海)

お取引先との協働

リンテックグループでは、信頼関係の下お取引先と連携しながら相互の発展を目指して公正で透明性の高い取引に努めています。

公正な取引

リンテックグループでは、全てのお取引先との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行うことを基本方針としています。お取引先の選定にあたっては適正な評価を行い関連法規・社会規範を遵守した調達活動を行っています。また、お取引先の皆様を「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係の構築に努めています。

CSR調達

リンテックでは、CSRの精神に基づいた「リンテック原材料調達基本方針」、「リンテックグリーン調達方針」、「リンテック木材パルプ調達方針」に沿った調達活動を行っています。

お取引先にはこれらの方針への理解を深めていただくとともに、さまざまな観点からCSRの徹底をお願いしています。2016年度もお取引先アンケートを実施し、法令遵守、人権尊重、安全・健康な労働環境、企業倫理など、CSRに関する項目も確認しています。原材料のお取引先約500社のうち取引金額上位88社★に依頼し、その全てのお取引先から回答を頂きました。これからもお取引先との連携に努めていきます。

★マークについては[こちら](#)

お取引金額上位88社からの
アンケート回答率

100%

グリーン調達

リンテックグループでは環境負荷低減を目指して原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。製品含有化学物質管理として、2016年度は改訂「環境負荷物質調査対象一覧表 Ver.3.00 に基づく環境調査依頼」で、原材料を対象に約5,000品種の調査活動を実施しました。また、お取引先にも環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底をお願いしています。

- ▶ [リンテックグリーン調達方針](#)
- ▶ [リンテック木材パルプ調達方針](#)
- ▶ [リンテック原材料調達基本方針](#)

紛争鉱物*への対応

リンテックでは、採掘された鉱物が武装勢力の資金源となる「紛争鉱物」は重大な社会問題であると認識しています。そのため、原材料における紛争鉱物の使用状況を調査し、原材料として使用していないことを確認しています。

今後も継続して、紛争鉱物を不使用とする調達管理を行ってまいります。

* 紛争鉱物：米国金融規制改革法において規定された紛争鉱物は、タンタル、錫、タングステン、金。

サプライヤーの評価と改善

信頼関係構築のため、リンテックグループはサプライヤーに調達部、品質保証部、CSR推進室、環境安全部が協力して作成したチェックシートの記入をお願いしています。その後、リンテックグループは回答結果を踏まえて「改善要望書」を提出し、サプライヤーには「改善計画書」の検討をお願いしています。

環境に関する評価では、原材料に含有される化学物質の管理が重要で、ISO14001に代表される化学物質管理のシステムの有無、化学物質の管理体制、データの収集、原材料ロットからのトレーサビリティ、などが主な確認項目となります。評価点が低いサプライヤーを訪問し、監査を実施して改善をお願いする場合があります。

BCP*1におけるお取引先との協働

リンテックでは、製品の安定供給に必要な原材料の供給元であるお取引先に対して、その事業継続能力の評価を進めています。2014年度より、全ての製品を対象に①当社向けの在庫保有量、②お取引先における原材料購入ルート、③生産拠点および設備の防災対応、④代替生産拠点の調査を実施しています。

また、お取引先全体に対しては、BCPを導入し組織的に運用する体制の整備や、インシデント*2発生時に対応する組織や手順の整備について、対応の協力要請を行っています。

*1 BCP：Business Continuity Plan（事業継続計画）の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

*2 インシデント：中断や阻害、損失、緊急事態・危機になり得る、またはそれらを引き起こし得る状況。

従業員とともに(人権・雇用)

リンテックグループでは、全従業員が明るく意欲的に業務を行えるよう、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

人権と多様性の尊重

リンテックグループでは、全従業員が社は「至誠と創造」の下、ともに働いています。全従業員が平等に働きがいを持つよう、人種、信条、性別、学歴、国籍、宗教、年齢などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性（ダイバーシティ）を尊重*しています。また、2011年には強制労働や児童労働の禁止を原則とする「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。今後も、全従業員が互いを認め合いながら成長を続けることを目指していきます。

* 多様性（ダイバーシティ）の尊重：人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進。

雇用状況★

■ リンテックの男女別従業員数



■ リンテックグループの男女別従業員数



(海外:2016年12月31日現在 国内:2017年3月31日現在)

※ 現地採用の日本人従業員は、現地従業員として算出しています。

※ 管理職に占める男女の割合。

★マークについては[こちら](#)

|| 人権尊重の労務管理と教育

リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があるとし、国内外の企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。また、階層別研修プログラムに人権教育を取り入れています。2017年度の新入社員43人に対して「国連グローバル・コンパクトとCSR」に関する研修を行いました。さらに、新任係長・新任管理職を対象に、セクハラ・パワハラ研修を実施しました。



新入社員研修での講義

関連データ

|| 地域男女別従業員数

(人)

	男性	女性	合計
日本	2,889	592	3,481
アジア	959	344	1,303
その他	607	216	823
合計	4,455	1,152	5,607

(海外：2016年12月31日現在 国内：2017年3月31日現在)

|| 新卒3年目以内の離職率

(人)

	入社	退職	離職率
2014年 新入社員（全社）	53	5	9.4%
男性	43	5	11.6%
女性	10	0	0.0%

※ リンテック単体の数値。

従業員とともに(人権・雇用)

人権と多様性(ダイバーシティ)の尊重

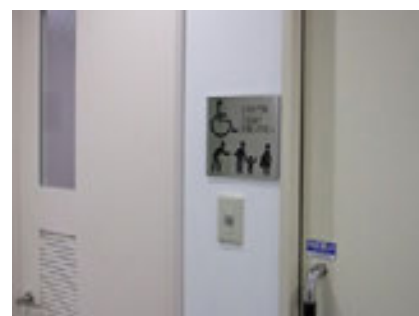
障がい者雇用

リンテックは障がい者の雇用に努めていますが、2016年度の通期雇用率は2.03%となり、法定雇用率である2.0%を上回りました。

なお、2015年4月1日より人事部内に「業務支援室」を新設、各部署から依頼された業務を行える環境を整え、障がい者を新たに雇用して、各部署の業務支援を行う取り組みをスタートしました。

障がい者雇用率

	2014年度	2015年度	2016年度
雇用人数(人)	45	50	52
通期雇用率(%)	1.77	1.94	2.03



アクセシビリティ*が向上した本社新2号館

* アクセシビリティ：高齢者・障がい者を含む誰もが、さまざまな製品・建物・サービスなどを支障なく利用できること。

ジョブリターン制度

従業員の働き方の選択肢を広げるため、リンテックでは2010年4月からジョブリターン制度を導入しています。出産や家族の介護、配偶者の転勤など、さまざまな家庭の事情により一度は自己都合で退職した社員を即戦力として再雇用しています。2014年8月に雇用形態の改定やエントリー制導入、従業員への周知などを行い、エントリー者数は増加しています。

ジョブリターン制度利用者数

	2014年度	2015年度	2016年度
雇用人数(人)	0	2	4

高年齢者雇用

リンテックでは高年齢者継続雇用を行っており、基本的には希望者全員を再雇用できる規定としています。2016年度は定年退職者44人のうち34人を再雇用しました。再雇用者は長年培ってきた技術を生かし、さまざまな場で活躍しています。



現場で技術指導する再雇用の社員(左)

高齢者雇用者数

(人)

	2014年度	2015年度	2016年度
定年退職者数	37	32	44
再雇用者数 (割合)	22(59%)	20(63%)	34(77%)

労使関係

リンテックでは、労働組合として「リンテックフォーレスト」が組織されています。労使協議では、リンテックとリンテックフォーレストが互いの立場を尊重した姿勢で臨み、話し合いによる問題解決を図っています。また、定期的に行われる協議会では、事業推進のための創造的な意見交換を行っています。

リンテックフォーレストの状況

	2014年度	2015年度	2016年度
フォーレスト 会員数(人)	2,055	2,033	2,036
平均年齢(歳)	38.5	38.8	38.7
平均勤続年数	16年8か月	16年11か月	16年9か月

※ 各年度末現在

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

従業員とともに(人権・雇用)

ワークライフバランス

リンテックでは、社員が安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮できるよう、働きやすい職場環境の整備や仕事と生活の調和に取り組んでいます。女性に対するサポート制度の充実にとどまらず、より幅広い多様な従業員（高齢者、障がい者、家族介護者など）のキャリア促進、仕事と家庭の両立支援制度について、実現可能な施策を検討しています。

▶ 特集1 多様な人材が協働する職場環境の実現に向けて

女性活躍推進法に基づいた行動計画と現状

目標①	新卒採用（大卒・院卒）における女性採用比率の平均を全体の30%以上にする
取り組み内容	平成28年（2016年）4月 <ul style="list-style-type: none"> ■ “女子学生の採用推進”に向けて、引き続き社内周知を図る ■ “仕事・職場づくり”“仕事のやり方の見直し・工夫”の環境整備を行う ■ 採用選考時において、各職種に女性リクルーターを配置する
2016年度	32.5%
目標②	女性の監督職（係長）を10%以上にする
取り組み内容	平成28年（2016年）9月 <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理職を対象とした「ダイバーシティ・マネジメント研修」を継続し、多様な人材が各職場で能力を最大限に発揮していける職場環境づくりについての意識改革に向けた啓蒙活動を行う 平成28年（2016年）11月 <ul style="list-style-type: none"> ■ 女性従業員を対象とした「女性活躍推進・キャリアアップ研修」を継続し女性活躍推進の取り組みや自身のキャリアの形成等、これからの働き方について女性自身の意識改革を行う 平成29年（2017年）2月 <ul style="list-style-type: none"> ■ キャリア育成に向けた研修の見直しを検討
2016年度	5.4%

計画期間：平成28年（2016年）4月1日から平成31年（2019年）3月31日までの3年間

社員支援の制度

介護支援

- 介護休業制度《通算1年(365日)の範囲内》
- 介護勤務制度《通算3年(1095日)》
- 家族の介護休暇(10日/年度 半日単位の取得可)
要介護状態にある家族の介護その他の世話をを行うための休暇。
- 保存休暇(家族)
年次有給休暇の未使用分を、家族の看護や介護に使用できる。

子育て支援

- 子育て支援産前・産後休暇(通算14週間)
- 育児休業制度
1歳に満たない子を養育するための休暇。事情により1歳までに復帰できない場合は、1歳6か月に達する日まで取得することも可能。
- 子の看護休暇制度(10日/年度 半日単位の取得可)
- 育児勤務制度
小学校3年生までの子を養育する社員が、育児のために勤務時間の短縮等を申し出ることができる。

ボランティア支援

- 社会貢献休暇制度(5日間/年度 半日単位の取得可)
地域のボランティア活動、PTAの役員活動等、社会貢献を目的とする活動に参加するための休暇。

各制度の利用状況★

制度	2014年度	2015年度	2016年度★
介護休業制度(人)	1	0	0
介護休暇制度(人)	1	1	1
保存休暇制度(人)	65	61	86
出産休暇制度(人)	14	13	19
育児休業制度(人)	25	20	25
子の看護休暇制度(人)	10	9	9
時短・時差勤務制度(人)	28	27	31
社会貢献休暇制度(人)	26(延べ47日)	22(延べ49日)	26(延べ55.5日)
有給休暇取得率(%)	51.1	61.1	61.6

※ リンテック単体の数値。

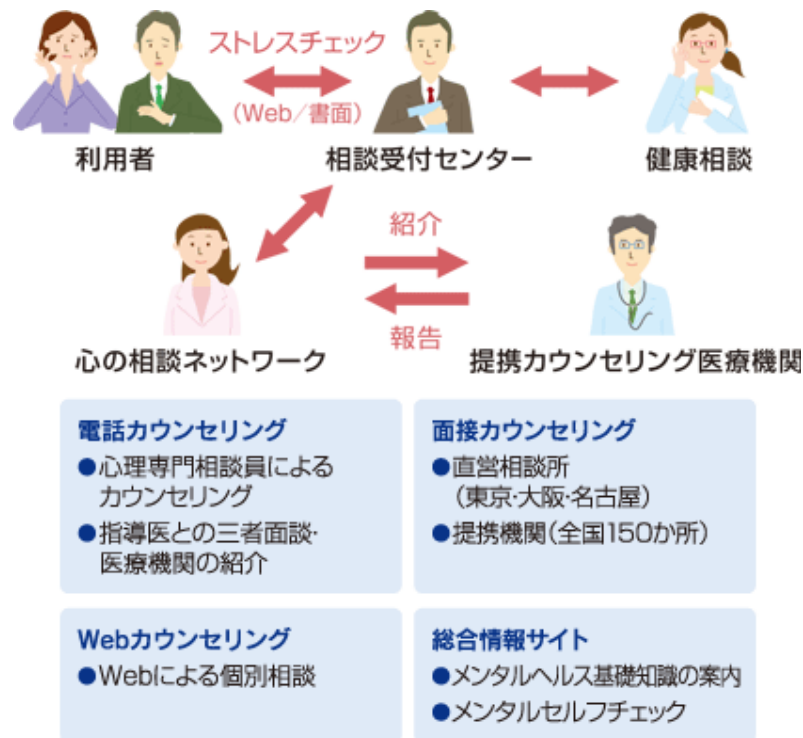
★マークについては[こちら](#)

|| メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP*システムを導入しています。年1回の「心の健康診断」により、各自がストレスの状況を把握し自己管理に役立てるとともに、組織ごとの分析結果は経営層にフィードバックされ改善が図られます。2016年度はグループ全体で3,286人を対象に実施し、受診率は95.3%でした。また、リンテックグループの社員とその家族のために、健康、メンタルヘルス、育児、介護、法律・家計などの悩みを専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。

* 予防型EAP：Employee Assistance Program（従業員支援プログラム）の略称。既に不調を訴えている従業員への「対処」に加え、健康な従業員に対する「予防」にも重点を置き、従業員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする従業員プログラム。

予防型EAPシステムの概要



|| 長時間労働対策

リンテックでは長時間労働の弊害を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化を図るよう努めています。体や心に過度の負担を掛けないように上司が残業時間を管理し、職場ごとにノー残業デーやフレックス勤務制度を設けるなど、業務を効率良く計画的に進めるための仕組みを導入しています。細かな労務管理ができるように、勤怠管理システムも導入しています。また、「心の健康診断」を年1回受診することにより、各自がストレスの状況を把握し、メンタルヘルスの自己管理に役立てています。

|| 禁煙対策

社員および家族の健康促進や仕事の効率アップを図ることを目的に、健康増進法の趣旨に基づき2013年7月より「健康促進手当」を導入しました。支給対象となる社員の条件は、「全く喫煙をしない」または、「禁煙を始め60日以上経過」とし、自己申告の上月額3,000円を支給しています。

2017年3月末では、64.5%の社員が健康促進手当の対象となり、この割合は導入時の57.6%より6.9%アップしています。社員が生き生きと健康的に働き続けたいける環境づくりに向けて、引き続き啓発をしていきます。

従業員とともに(人材育成)

リンテックグループでは、従業員の業務や能力に合わせた教育プログラムを用意し、グローバル社会にも通用する人材の育成に努めています。

人材育成の考え

リンテックでは、幅広い知識・センスに加えて、専門性を持った「山型人材」育成のための人材育成プログラムを導入しています。スキルアップはもとより、各人の意欲を最大限に引き出し、自発的なキャリアデザイン*を支援するもので、社員の声を基に“自立開発型”研修体系として進化を続けています。

* キャリアデザイン：自分の経験やスキル、ありたい将来像について考慮しながら、自らの持つ能力を生かすために計画すること。

★マークについては[こちら](#)



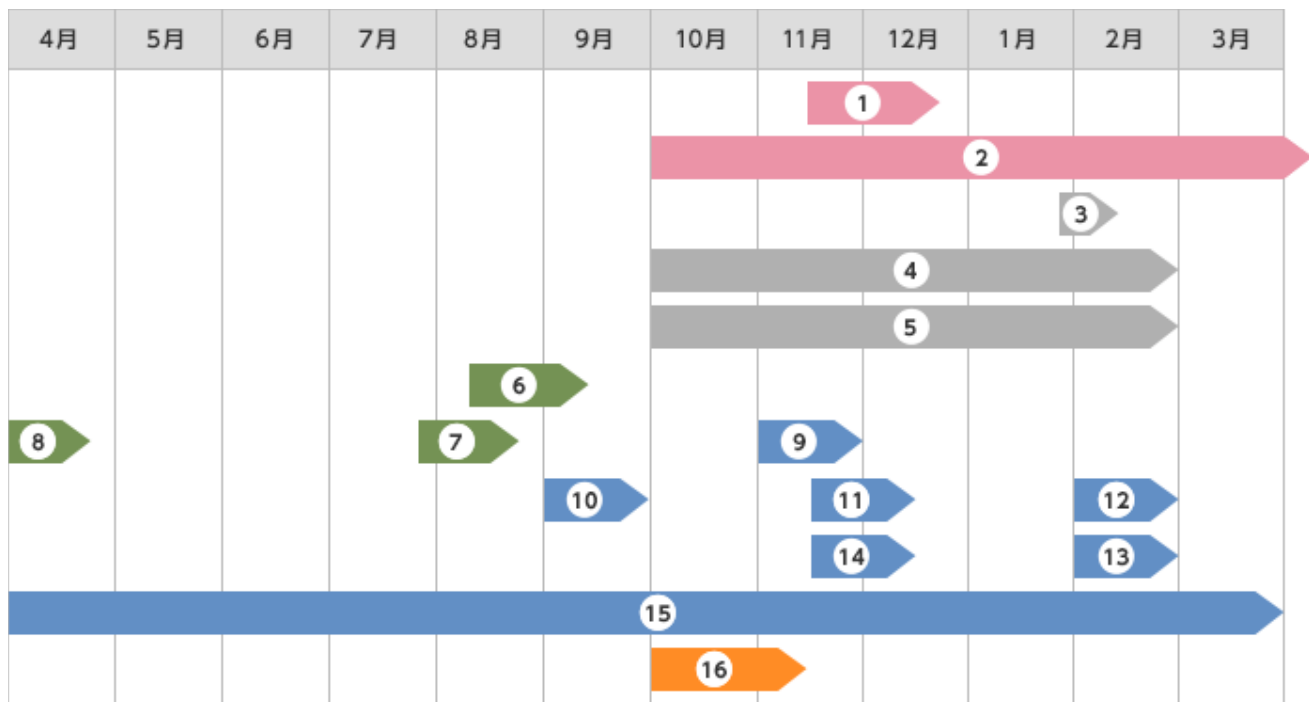
全社階層別研修参加者 延べ★

829人

キャリアデザインと全社階層別研修

リンテックでは、“会社と社会の発展に貢献できる人づくり”を目指しています。入社時に実施する新入社員研修に始まり、社員のキャリアアップの過程に合わせて、多様な価値観を持つ社員一人ひとりが成長を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています。この研修プログラムを通じて、社員の能力向上はもとより、各人のキャリアデザインを支援しています。

2016年度 研修体系



2016年度 研修内容と受講者数

研修内容	受講者数(人) (対象者)
①新任管理職研修(集合研修) 管理職として必要なマネジメントの知識、スキルの習得および現場における実践力を習得する。	29 (新任管理職)
②新任管理職研修(通信研修) 管理職として必要な経営学分野の基本知識、マネジメントの知識、スキルを習得する。	29 (新任管理職)
③新任係長研修(集合研修) 現場のリーダーに必要なマネジメントの知識、スキルを習得する。	35 (新任係長)
④5等級昇格者研修(通信研修) グループリーダーとしての職場の問題解決、部下の指導・育成、生き生きとした職場づくりなどについて体系的に習得する。	65 (5等級昇格者)
⑤4等級昇格者研修(通信研修) 総合的なビジネススキルの習得を目標に、科目選択で習得する。	36 (4等級昇格者)
⑥3年目フォロー研修(集合研修) 2年目を振り返り、現状をグループで討議することにより、今後の目標について明確にする。	33 (新卒3年目)
⑦2年目フォロー研修(集合研修) 1年間を振り返り自分の成長を確認し、これからの取り組みを自己演習とグループ学習を通じて明確にする。	31 (新卒2年目)
⑧新入社員研修(集合研修) ビジネススキルと業務関連知識、自社特有スキルの基礎を習得する。社会人・職業人としての基本的な常識、職業理論などを理解する。	46 (新入社員)

<p>⑨若手営業職研修(集合研修) 営業活動における能力の向上を目的に、対人関係能力の向上、顧客志向の醸成、自己への気付きなどを習得する。</p>	<p>隔年実施のため今年度なし (入社4年目・5年目の営業職)</p>
<p>⑩女性活躍促進・ダイバーシティマネジメント研修(集合研修) 女性活躍・ダイバーシティマネジメントの基本的な考え方、管理職としての役割および自社の取り組みを理解し、女性活躍に向けた気付きを得る。</p>	<p>28 (管理職)</p>
<p>⑪女性が活躍するための意識付け・キャリアアップ研修 女性活躍促進の取り組みを正しく理解し、当事者意識を持つとともに、働きやすい職場づくりや自分自身のこれからの働き方について考える。</p>	<p>35 (女性社員)</p>
<p>⑫ブラザー・シスター研修(集合研修) 新入社員や若手社員の指導をする先輩社員の育成を目的に、職場指導の重要性を認識し、指導に当たり必要な知識の習得および新入社員や若手社員への動機づけの手法を習得する。</p>	<p>28 (新入社員や若手社員を指導する先輩社員)</p>
<p>⑬管理職のための部下指導研修(集合研修・TV会議) 若手社員の早期戦力化の実現を目的に、管理職としての人材育成環境の整備などを習得する。</p>	<p>357 (管理職)</p>
<p>⑭仕事と介護の両立支援研修(集合研修) 介護離職防止策として、仕事と介護の両立支援に必要な知識・スキルを身につけ、サポート能力を高める。</p>	<p>24 (管理職、人事・労務担当窓口)</p>
<p>⑮語学研修(自薦・本部推薦) グローバル化が進む中、海外赴任候補者のすそのを広げることと、業務上必要と思われる語学での遂行能力を上げることを目的とする。</p>	<p>10 (自薦のうえ選考)</p>
<p>⑯内定者研修(集合研修) 入社までの時間でやっておくべきこと、社会人となるに当たっての心構えを習得する。</p>	<p>43 (内定者)</p>

階層別研修総時間★

延べ研修時間(h)	7,431
-----------	-------

※1 リンテック単体の数値。

※2 時間把握が可能な研修のみ算出しています。

★マークについては[こちら](#)

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

従業員とともに(人材育成)

個別教育プログラム

|| CSR勉強会

リンテックグループではCSR活動への認識を共有するために、2010年度からCSR勉強会を適時実施しています。2016年度はリンテックカスタマーサービス（株）と伊奈テクノロジーセンター、龍野工場、三島工場、土居加工工場、小松島工場、千葉工場、吾妻工場、熊谷工場、新宮事業所、新居浜加工所、四国支店(参加者：1,243人)において、CSRレポートの読み合わせを中心としたCSR勉強会を実施しました。

|| グローバル教育

リンテックの情報システム部では、国内外のスタッフに対して、LSP*の技術共有および基礎教育を目的とした研修を行っています。

2016年度は、4月に韓国、5月に中国の現地ITスタッフとの研修会を日本で開催し、10月にはシンガポールで東南アジア地区のITスタッフ会議を実施しました。今後も、企画、設計、開発、運用管理などを含めたグローバル教育を行い、リンテックグループ全体でさらなるレベルアップを目指していきます。

* LSP：国内外グループ会社で利用可能な基幹系、情報系の共有システム。



研修のようす

|| 環境教育

リンテックと東京リンテック加工（株）では、ISO14001の自覚教育の一部としてe-ラーニングを実施しています。2016年度は「省エネルギー」と「安全」のテーマで実施し、受講者の理解を深めました。さらに、ISO14001の自覚教育、内部監査員養成講習、生物多様性の保全に関する出前講座の受講などを行い、理解と意識の向上を目指しています。イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」では、環境関連法令の改正、ISO14001の活動報告などを発信しています。

2016年度 環境教育延べ受講者数

対象	内容	延べ受講者数 (人)
本社	ISO14001自覚教育（新入社員、異動者）、ISO部門内自覚教育	346
吾妻工場	ISO14001自覚教育（階層教育、方針管理の周知、廃棄物分別、省エネ活動、化学物質管理など）、新入社員教育(高卒新人の研修(EMSの概要))、緊急事態対応訓練（緊急連絡網訓練、薬品漏えい時の対応訓練、工場全体の防災訓練(年2回)、外部講習会参加(ISO14001審査員補、電力事業所見学、他)	1,173
熊谷工場 (リンテックサービス)	ISO14001自覚教育、新入社員教育、化学物質管理教育、森林認証教育、緊急事態対応訓練	532
研究所	ISO14001定期自覚教育、廃棄物関連教育（新入社員）、ISO14001全般(新入社員)、化学物質管理教育（新入社員）、生物多様性（出前講座）	317
東京リンテック加工	ISO14001自覚教育、内部監査員教育、新入社員、配転者教育、生物多様性(出前講座)、化学物質管理教育、省エネ、廃棄物分別、PCB	239
伊奈テクノロジーセンター	ISO14001自覚教育、生物多様性（自然観察）	182
千葉工場	ISO14001自覚教育、内部監査員教育、特定業務従事者教育、環境関連設備教育、生物多様性セミナー、新入社員・内部配転者教育、廃棄物関連教育、化学物質管理教育、緊急事態対応訓練	331
龍野工場	ISO14001自覚教育(階層教育、方針管理の周知、廃棄物分別、省エネ活動、化学物質管理など)、新入社員教育(新入社員・転入者・新規EMS責任者(EMSの概要))、特定業務職場教育・訓練・社内教育（緊急連絡網訓練、薬品漏えい時の対応訓練）、外部講習会参加(ISO14001審査員補、生物多様性、資格他)	368
新宮事業所	ISO14001自覚教育、特定業務職場訓練、緊急事態対応訓練、生物多様性（出前講座、団体活動）	371
新居浜加工所	ISO14001自覚教育、生物多様性（出前講座、社外勉強会参加）、特定業務教育(危険物・廃棄物取扱従事者)、内部監査員力量確認、相互監査員リーダー研修、社外講習(有機溶剤、乾燥設備作業主任者)	283
三島工場 (協力会社含む)	ISO14001自覚教育（新入社員、異動者）、ISO14001内部監査員自覚教育・力量判定、生物多様性勉強会	530
小松島工場	ISO14001自覚教育（化学物質教育を含む）、生物多様性（清掃活動、緑化活動）	188

環境教育の一環として、イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」にて、環境関連やISO14001(活動実績/サイト事務局紹介)、化学物質管理関連(REACH規則*や規制情報など)、省エネルギー、安全衛生などの情報を発信しています。2016年度は23回発信しており、今後も定期的に情報を更新し従業員のさらなる環境意識向上を図っていきます。



リンテック環境・安全インフォメーション

- * REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

技術に親しむ会

リンテックグループは研究開発部門、生産部門および営業部門との技術交流を目的に、2016年11月「きらりと光る新製品・新技術」をテーマに、第67回「技術に親しむ会」を開催しました。この会には生産部門、営業部門からの参加者47人を含めた総勢約200人が参加しました。研究開発担当者から、最新の環境および効率化への製品開発、生産技術の取り組みが発表され、活発な意見交換とともに技術情報の共有を図りました。



技術に親しむ会

従業員とともに(人材育成)

自発的教育制度

自己啓発通信研修

リンテックでは希望する社員に対し、年2回の通信研修を実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、パソコン技能、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。今後も自己啓発の一助として継続していきます。

自己啓発通信研修受講者数

年度	受講者数(人)	修了率(%)
2014	200	64
2015	243	65
2016	250	63

語学研修

リンテックでは、グローバルに活躍できる社員を育成するために、自発的学習のサポート制度として語学研修制度を導入しています。受講希望者は自薦を行い、所属長・本部長推薦の上、選定会議により決定されます。2016年度は12人が研修を受講しました。研修時間は個人の語学レベルにより異なりますが、約100~150時間を掛けて目標レベルへの到達を目指します。

従業員とのコミュニケーション

従業員コミュニケーション

リンテック・インダストリーズ（サラワク）社では、2016年12月に社員とその家族合計51人が参加し、社員旅行とアニュアルディナーを開催しました。アドバンテストマテリアルズ事業部門の副部門長や、リンテック・インダストリーズ（マレーシア）社社長も加わり、子供たちも楽しめるゲームや抽選会で盛り上がりました。続いて、勤続15年や皆勤賞、最優秀従業員賞の表彰も実施し、受講者には盛大な拍手が送られ、社員も家族も満足の会となりました。



絆を深めた社員旅行

|| コミュニケーションマガジンの発行

リンテックグループとステークホルダーをつなぐ身近なツールとして、コミュニケーションマガジン「LINTEC」を日本語版・英語版・中国語（簡体字・繁体字）版でそれぞれ年4回発行し、グループ全従業員、お客様、お取引先、OB、マスコミ、官公庁などに配布しています。また、米国・マディコ社と台湾・リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社でも独自の社内報をPDF版で配信し、職場の円滑なコミュニケーションに役立てています。



コミュニケーションマガジン「LINTEC」は、日本語、英語、中国語（繁体字、簡体字）で発行



リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社「LATT WAY」



「LATT WAY」の中間

|| CSRコミュニケーション

リンテックでは、「国連グローバル・コンパクトとCSR」を学ぶため、新入社員研修にて一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークの上野明子事務次長に講義していただいています。また、国内生産拠点で開催したCSR勉強会には、延べ1,243人が参加しました。



新入社員研修での講義



CSRレポートは日本語、英語、韓国語、中国語(繁体字、簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語の7言語で発行

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

従業員とともに(安全防災)

リンテックグループで働く人々が安全な環境で安心して働けるように、さまざまな活動を行っています。

労働安全

労働安全衛生方針

リンテックグループは、2010年に「リンテック労働安全衛生方針」を制定し、OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）*に準拠して継続運用しています。全社的な活動としては安全相互監査や着火事故予防パトロールを、工場での活動としては年間安全衛生計画を策定し、安全活動のPDCAサイクルを回してレベルの向上を図っています。また、2017年4月には国内工場の安全担当者が集まり、初めての安全大会を開催し、安全活動に関する情報交換も行いました。今後も無事故・無災害に向けて積極的に活動を推進していきます。



安全向上に向けた職場診断のようす（熊谷工場）

* OSHMS:Occupational Safety and Health Management System(労働安全衛生マネジメントシステム)の略称。事業所における安全衛生水準の向上を図ることを目的とした、事業者の自主的なマネジメントシステム。

- ▶ [リンテック労働安全衛生方針](#)
- ▶ [リンテック労働安全衛生マニュアルの概要](#)
- ▶ [龍野工場 全国危険物安全協会理事長表彰を受賞](#)

年間安全衛生計画

リンテックグループでは安全衛生活動の年間計画を策定し、PDCAサイクルを回すことで安全衛生を管理しています。2016年度は、安全相互監査・着火事故予防パトロール、トップパトロールを実施しました。各工場においても工場トップ、管理職、労働組合メンバーによるパトロールや、従業員による自主パトロールなどを行いました。また、全事業所や国内・海外グループ会社および役員へ災害速報、災害分析報告書および安全衛生委員会の議事録を配信することで情報を共有しています。

年間安全衛生計画に含まれる項目

- 安全衛生委員会の開催
- パトロール計画
- リスクアセスメント
- 安全教育
- 訓練計画
- 点検・測定
- 作業環境測定
- 健康診断
- 心の健康診断
- 内部監査
- マネジメントレビューなど

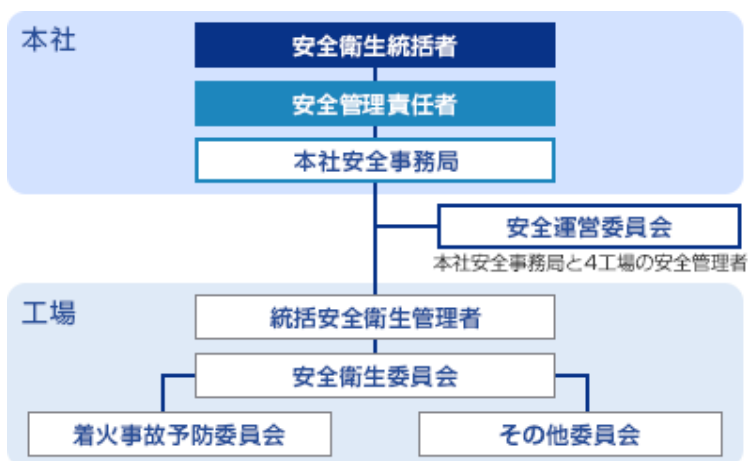
安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループでは毎月、職場の安全と衛生に関して各委員会で協議しています。2016年度は災害速報や委員会議事録の配信を、日本語版と英語版で継続しておりグループ全体での安全管理を推進しています。

職場の安全と衛生に関する委員会

委員会	対象	活動内容
安全衛生委員会	工場・研究所	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画の実施 ■ 災害の発生状況、安全教育実施状況、設備の点検結果、パトロール時の指摘・改善状況などの情報共有
衛生委員会	本社や営業部門がある事業所	<ul style="list-style-type: none"> ■ 健康や安全運転、防災活動などについて協議

リンテック安全衛生マネジメントシステム組織図(本社・営業部門を除く)



休業災害

リンテックグループでは、2016年度の休業を伴う労働災害（休業災害）は5件発生し、休業日数は累計207日でした。
（海外グループ会社を除く）

休業災害の発生状況

年度	2014年度	2015年度	2016年度★
休業災害発生件数(件)	2	5	5
休業日数(日)	81	134	207
発生場所	リンテック	協力会社	リンテック、 協力会社

★マークについては[こちら](#)

新宮事務所無災害250万時間達成

新宮事業所（新居浜含）では、2017年3月10日に完全無災害時間250万時間を突破しました。

2016年度 連続完全無災害達成時間の状況 (2016年4月1日～2017年3月31日)

達成年月		事業所	達成時間 (時間)
2016年	8月4日	吾妻工場	150万
2017年	3月10日	新宮事業所（新居浜含）	250万
	3月31日	新宮事業所（新居浜含）	1年間無災害
	3月31日	千葉工場	1年間無災害
	3月31日	小松島工場	1年間無災害
	3月31日	伊奈テクノロジーセンター	1年間無災害

定期安全協議会の開催(熊谷工場)

熊谷工場では構内工事における工事協力会社の災害防止を目的に、年3回の定期安全協議会を開催しています。工事ごとの安全に関する事前打ち合わせとは別に、4、7、12月に社内外から180人ほどの参加者が集まり(1)安全作業ルールの徹底、(2)他社災害情報の共有、(3)現場の不安全情報など安全に関する幅広い意見交換を行います。この協議会を通じて、ルールの周知徹底、現場の改善を行い、安全のレベルアップにつなげています。参加くださった全ての会社には安全誓約書を提出していただき、構内作業における安全作業の徹底をお願いしています。



熊谷工場での安全協議会

2016年度 工事に関する安全協議会

事業所名	実施日	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年3回	安全教育	180
小松島工場	年2回		17
三島工場・土居加工工場	年2回		118
新宮事業所	年1回		36
計			351

各生産拠点でトップパトロールを実施

「安全第一」を掛け声に、国内外の生産拠点・研究所において西尾社長によるトップパトロールが行われました。生産現場で作業する多くの従業員に声を掛けながら、安全作業の励行や作業現場の5S実施状況を視察しました。各拠点ではトップパトロールでの指摘に対する改善を施すとともに、安全で働きやすい作業環境を整備しています。



リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社のクリーンルーム内を視察

従業員とともに(安全防災)

BCMSにおける防災対策

防災・減災対策として、リンテックグループでは、国際標準規格のISO22301*に基づいた全社BCMS活動を導入し、人命を最優先にしたリスクアセスメントを実施しています。リンテックでは全ての拠点で災害別の危険を特定し、分析・評価を行っていますが、防災対策が不十分な場合は、拠点ごとに対策を立案・実行しています。これらの災害対策は演習を行うことで、その妥当性・効果性を高めています。

* ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

防災訓練

リンテックでは、全社BCMS活動として各拠点でさまざまな演習を実施するとともに、防災用備蓄品の準備や衛星電話の導入による通信手段の複数化など、リスクの低減に努めています。

- ▶ 龍野工場の消火栓チームが消防出初式で消火活動を披露
- ▶ 日頃の防災訓練やAED講習が功奏



本社の災害用備蓄品

2016年度の工場における防災訓練

事業所名	実施日	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年9回	避難訓練・ 消火訓練等	627
小松島工場	年8回		407
三島工場・土居加工工場	年28回		593
東京リンテック加工(株)	年6回		362
吾妻工場	年2回		447
研究所	年2回		554
新居浜加工所	年5回		44
伊奈テクノロジーセンター	年1回		226
龍野工場	年6回		775
千葉工場	年18回		345
新宮事業所	年9回		400
計			4,780

※ 三島工場の回数が増えたのは、これまで工場全体で実施した回数としていたところを部署ごとに実施した回数も含めたためです。

Voice BCMSにおける防災対策

広島支店は2016年5月、私の着任と時期を同じくして事務所を移転しました。新事務所は耐震構造・消火設備に配慮がなされ、避難所へも近い場所にあります。移転後、新たに想定されるリスクを洗い出し、新事務所に適応した手順書へ改訂。災害に強い広島支店へリニューアルすることができました。

さらに、安否確認連絡演習や緊急救命処置講習を受講するなど、123期も計画通りに演習を行い、防災対策の習熟度が向上しました。今後もBCP活動を広島支店全体で取り組み、より良い形に改善・発展させていきたいと思えます。



広島支店
吉嶺武則

地域社会とともに

リンテックグループは、地域や社会の一部であることを認識し、共生を図りながら、社会に貢献するためのさまざまな取り組みを行っています。

リンテックグループの社会貢献活動

リンテックグループでは、さまざまな地域や社会への貢献活動を行っており、国内では主に以下のような活動を実施しています。このページでは、その一部をピックアップして紹介します。

■ リンテックグループ全体での活動

東日本大震災復興支援／植林ボランティア／団体献血／美化清掃活動／ペットボトルのキャップ・使用済切手の回収／日本赤十字への寄附、赤い羽根募金

■ 次世代育成

くらしか協賛

■ スポーツ振興

埼玉県民球団「武蔵ヒートベアーズ」協賛、板橋Cityマラソン協賛

■ 地域安全活動

暴追連街頭キャンペーン／AED*の講習会／小学校通学マップにて「子ども110番の家」として登録

■ 障がい者支援

ふれあいコンサート／障害者福祉施設（蕨市、文京区、たつの市）によるパン販売／四国中央市障害児教育支援チャリティーゴルフ大会への協賛／板橋区障がい者スポーツ大会へ製品提供／東京ドーム野球観戦ご招待／教育機関へのベルマーク運動の参加および障がい者支援活動

■ 地域の祭事などへの協賛・支援

東吾妻ふるさと祭／原町祇園祭／宇佐八幡宮／川戸神社／浅間神社春季・秋季大祭／金井一宮神社春季・秋季大祭／熊谷うちわ祭／熊谷花火大会／3地区子供会六條八幡神社神輿／六条八幡神社秋祭／たつの市新宮町納涼ふれあいまつり&花火大会／たつの市神岡町小那田自治会納涼祭／たつの市神岡町神岡スポーツ振興会ふるさとコンペ／土居町釣り大会／龍野神社／小宅神社／疎水感謝祭／湖水まつり／三島公園さくら祭り／三島町民運動会／天神祭花火大会／水波神社崇敬会／四国中央市土居夏まつり花火大会／三島太鼓祭り／土居太鼓祭り／榎神社奉納金／大塚神社奉納金／春日神社奉納金／興願寺／朝日文化会館年忘れ演芸大会／そうさチューリップ祭り／伊奈まつり／わらび機まつり／中仙道蕨宿場まつり／阿波踊り／板橋花火大会／板橋本町上町会祭礼奉納金

■ 製品の寄贈

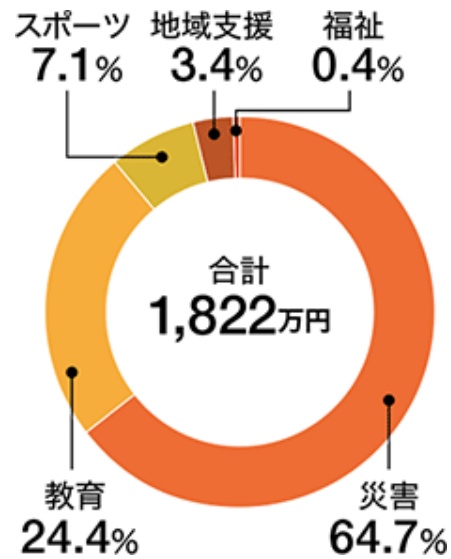
保育園・小学校など11校へ紙製品を寄付

* AED：Automated External Defibrillator(自動体外式除細動器)の略称。心室細動状態に陥った心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器。

|| コミュニティ支援費用

2016年度は、熊本・大分地震の被災地支援を行いました。これからも地域社会の一員としてコミュニティを支援します。

コミュニティ支援費用の割合



社会貢献活動

|| 継続的被災地支援

リンテックグループでは、東日本大震災からの復興に向けた継続的支援活動を行っています。2016年度も前年度に引き続き、板橋区（リンテック本社所在地）と「連携協力協定」を締結している岩手県大船渡市への支援金を募り、従業員からの寄付金に、会社とリンテックフォーレスト*から、それぞれ同額を加えたマッチングギフト形式で寄付しました。寄付金は、小・中学校の校庭内スポーツ設備および遊具等の整備費用として利用されています。また本社では福島物産展を開催し、福島の経済活動を応援しました。今後もさまざまな形で復興支援活動を継続していきます。



福島物産展のようす

* リンテックフォーレスト：リンテックの労働組合。



大船渡市中学校の皆さんと社員

岩手県大船渡市に支援金

東日本大震災の復興支援活動としてリンテックグループ従業員から集めた支援金を岩手県大船渡市に寄付しています。この支援金は、大船渡市教育委員会を通じて、中学校の運動環境改善のため校庭のグラウンド整備などに活用されました。この支援に対し大船渡中学校野球部からお礼状が届きました。その中で「震災後からグラウンドがなかった私たちには土のグラウンドはすごくうれしいものです。この土の上で実力をつけられるよう頑張ります」など、多くの感謝の言葉を頂きました。今後も、被災地の方に喜ばれる復興支援活動を続けていきます。



外部からの声 生徒たちの活動意欲が向上

東日本大震災以降、仮設住宅が建てられた校庭で体育の授業や部活動が行えず、学校から離れた場所で活動していました。リンテックさんの支援により完成した広場で部活動ができるようになり、生徒たちの意欲も高まったように感じています。また、吹奏楽部の楽器購入を支援いただいたことで、活動の幅も広がりました。多くの方々に支えられて頑張っていることを、生徒たち自身から発信していきたいと思えます。



岩手県大船渡市立
大船渡中学校
副校長
岩崎 弘 氏



広場で活動するサッカー部員



吹奏楽部の演奏

ふれあいコンサート

2016年10月、板橋区立文化会館において、第6回「リンテックふれあいコンサート」を開催しました。このイベントには、板橋区在住の障がい者の方々とその介助者、近隣住民の方々などをご招待し、リンテック従業員を含め約650人が参加しました。

第1部公演では、板橋区ダウン症児親の会「ほほえみの会」の子供たちによるハンドベル演奏や手話ダンス、板橋区立高島第三中学校の女声合唱団「くま」による合唱やジャズバンドによる演奏が行われました。

今後も地域の方々と触れ合う機会を大切にしていきます。



「ほほえみの会」の子供たちによる手話ダンス



社員も所属する「ファンタイム ビッグバンド」

|| グローバルでの活動

リンテック・インドネシア社では、地域環境改善のためマングローブ1,500本を植樹。マディコ社では、事情があって家に帰れない子供たちのためのイベントに参加するなど、多方面から地域を支援しています。

▶ 海外グループ会社のCSR活動



マディコ社のボランティア活動のようす

平成28年（2016年）熊本地震の被災地に向けた支援

このたびの平成28年（2016年）熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。リンテックグループは、被災された皆様への支援および被災地の復興にお役立ていただくため、日本赤十字社を通じて義援金を寄贈させていただくとともに国内外のグループ各社において従業員からの募金活動を行い別途寄付させていただきました。

被災地の、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

地域社会とともに

社会貢献活動

美化清掃活動

リンテックグループでは、全ての工場で周辺地域の美化・清掃活動を継続的に実施しています。千葉工場では「ごみゼロ運動」として工場のあるみどり平工業団地周辺で、熊谷工場では「荒川河川敷の清掃」として工場周辺の荒川土手で、小松島工場では「リフレッシュ瀬戸内」として横須海岸で、その他の事業所では事業所周辺の清掃活動を行っており、2016年度は国内全事業所で延べ3,219人が参加しました。近隣企業や地域住民の皆様と協力しながら、社会貢献活動の一環として地域環境を美しく保つ清掃活動に積極的に取り組んでいます。

地域の美化清掃活動への参加者 延べ

3,219人



荒川河川敷の清掃（熊谷工場）



横須海岸清掃（小松島工場）

2016年度 美化・清掃活動

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
吾妻工場	月2回	工場近隣ゴミ拾い	96
	2016年4月27日	岩櫃山登山道清掃	14
	2016年8月17日	岩櫃山登山道清掃	16
	2017年3月10日	岩櫃山登山道清掃	15
熊谷工場	2016年6月17日	荒川土手清掃	122
	2016年11月6日	荒川クリーンエイド	31
研究所	月1回	研究所周辺公道ゴミ拾い	480
東京リンテック加工	年24回	敷地内外清掃	504
	2016年5月17日	駐車場、工場外回り草刈り	15
	2016年6月8日	駐車場、工場外回り草刈り	7

千葉工場	2016年5月25日	みどり平工業団地ゴミゼロ運動	6
	2016年7月14日	吉崎浜下刈り作業	3
龍野工場	月1回	工場周辺清掃	770
	2016年5月16日	工場周辺溝清掃	20
	2016年11月18日	揖保川河川敷清掃	60
新宮事業所	年24回	事業場周辺清掃	662
	2016年5月16日	工場周辺溝清掃(龍野事務所)	13
三島工場	2016年5月14日	土居工場周辺草刈り	22
	2016年5月18日	三島工場周辺溝掃除	4
	2016年7月2日	寒川豊岡海浜公園ビーチ清掃	3
	毎週火曜日	三島工場周辺公道ゴミ拾い	100
小松島工場	2016年5月21日	豊かな海クリーンアップ作戦	56
	2016年5月31日	工場前道路清掃	52
	2016年6月10日	リフレッシュ瀬戸内(海浜清掃活動)	63
	2016年11月6日	協働の森へ行こう(植林活動)佐那河内	14
	2016年10月7日	工場前道路清掃	41
伊奈テクノロジーセンター	2016年5月16日	事業所周辺歩道・隣接駐車場清掃	8
	2016年7月29日	志久駅まで通勤路清掃	15
	2016年10月19日	志久駅まで通勤路清掃	7
計			3,219

|| 団体献血

リンテックグループでは、日本赤十字社の献血事業への協力として全国各地の事業所において団体献血を行っています。献血は、身近でできる社会貢献活動の一つとして従業員にも定着しており、今後も継続して実施していきます。



本社での団体献血

2016年度 献血実績

事業所名	実施回数(回)	参加者数(人)
三島工場	3	96
小松島工場	2	24
龍野工場・新宮事業所	2	55
研究所	2	67
千葉工場	2	41
東京リンテック加工	2	7
熊谷工場	2	39
吾妻工場	2	76
伊奈テクノロジーセンター	2	34
大阪支店	2	50
飯田橋オフィス	1	35
本社	2	94
計	24	618

|| 地域安全活動

熊谷工場は2016年10月、熊谷市が主催する初期消火訓練指導会に参加しました。この会では、火災時における適切な器具の取り扱いや、確実な初期消火技術について、熊谷市内にある事業所が競い合い、技術を高めています。10回目の出場となった今回は、熊谷市長より自主防火管理の充実と、防火体制の強化に努めている事業所として表彰されました。



社員による消火活動

障がい者支援

2016年5月、東京ドームで行われたプロ野球「北海道日本ハムファイターズ対オリックス・バファローズ」の試合に、板橋区在住の障がい者の方とその介助者計135人をご招待しました。本活動は今回で10回目を迎え、観戦後には「ありがとう」「楽しかった」「次も来ます」など、多くの感謝の言葉と笑顔を頂きました。今後も地域の皆様に喜んでいただける社会貢献活動を続けていきます。



プロ野球観戦



花束贈呈

地域の祭事への協賛

熊谷工場がある熊谷市では、毎年7月20日から22日に「熊谷うちわ祭」が開催されています。「熊谷うちわ祭」は3日間で70万人以上の方が訪れ、関東一の祇園祭と称されるほどにぎやかなお祭りです。熊谷工場では、八坂神社にうちわを奉納する形でお祭りに協賛し、奉納されたうちわは、うちわ祭に来られた見物客の皆さんに配られています。



奉納したうちわ

地域の祭事への参加

小松島工場では、8月12日に徳島県で開催された「阿波踊り」に90人が参加しました。「阿波踊り」は約400年の歴史を持ち、数十人の“連”と呼ばれる組をつくり、三味線、笛、鉦（かね）、太鼓のリズムに合わせて老若男女が一緒になって踊る日本を代表する夏の祭りです。小松島工場では、毎年工場内で有志を募り“リントック連”として参加し、祭りを盛り上げています。



小松島工場の阿波踊り参加

地域社会とともに

社会貢献活動

「みどりのカーテン」で節電

2016年も暑い熊谷工場では事務所の前にゴーヤで緑のカーテンを設置し、葉の蒸散作用と直射日光を遮ることによる室内温度の低下で、エアコンの節電に効果がありました。



みどりのカーテン

植樹活動

千葉工場では、東日本大震災の発生による津波被害を受けた千葉県九十九里陸の海岸保安林を再生するための活動「緑化推進委員会(緑の募金)の森づくり 2016下刈」に参加しました。2013年4月と2014年3月に植栽を行った海岸保安林の苗木の成長を助けるための重要な作業である「下刈り」の作業を行いました。7月14日に行われた「下刈り」には、千葉工場からは3名が参加し、蒸し暑い中、適度な水分補給に気を配りながら苗木の健やかな成長を願って草刈りにいそしみました。




吉崎浜下刈り

- ▶ リンテック・インダストリーズ（サラワク）社がバコ国立公園で植樹
- ▶ ジャワ島沿岸部にマングローブ1,500本を植樹（インドネシア）

次世代育成

独自技術で新製品を開発するリンテックにとって、次世代の育成は重要なテーマです。リンテックでは、未来を担う世代の育成と子供たちの理科離れ防止のために活動をしている(社)蔵前工業会の蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称：くらりか)の寺子屋式理科教室に協賛しています。「くらりか」は、全国の児童館や地域のコミュニティセンターなどで出前授業を行っており、2016年度は年間512教室で開催し、参加生徒数は累計で15,500人を超えました。そのうち、リンテックからの協賛によって、2016年度は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、静岡県、山梨県、島根県の7地域19教室の工作・実験用教材の購入に使用されました。今後も引き続き、「くらりか」への協賛と協力を通じて、子供たちの科学に対する豊かな感性を醸成していきます。

「くらりか」のウェブサイトでも、リンテックの活動が紹介されています。

- ▶ 「くらりか」ウェブサイト 

工場・施設見学の受け入れ

リンテックグループでは、毎年多くの学生、自治体、NPO、地域住民などの工場・施設見学を受け入れています。小学生の社会科見学や環境学習のほか、高校生や大学生を対象に企業説明会なども開催しています。2016年度は5事業所に合計677人が見学に訪れました。

(海外グループ会社を除く)

▶ 龍野の魅力発見一バスツアーの参加者が来場



東京リンテック加工（株）での見学受け入れ

2016年度 工場・施設での受け入れ

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
三島工場	2017年1月19日	宇摩法人会女性部会	21
東京リンテック加工	2016年10月12日	蕨市立塚越小学校	60
	2016年10月26日	蕨市立西小学校	72
	2016年11月2日	蕨市立南小学校	92
	2016年11月9日	蕨市立中央小学校	48
	2016年11月11日	蕨市立中央東小学校	72
	2016年11月11日	蕨市立東小学校	46
	2016年11月15日	蕨市立北小学校	88
熊谷工場	2017年2月3日	熊谷商業高等学校	40
吾妻工場	2016年4月15日	サンワ株式会社	8
	2016年6月7日	群馬県産業経済部	3
	2016年10月7日	吾妻交友会	44
	2016年10月27日	岩島小学校3年生	18
	2016年11月25日	原町小学校3年生	35
	2016年12月1日	坂上小学校3年生	10
千葉工場	2017年2月23日	県立東総工業高等学校と工業団地企業との意見交換会	20
計			677

株主とともに

株主・投資家とのコミュニケーション

積極的なIR*活動を展開

リンテックでは、適正株価の形成と企業価値の向上を目指し、さまざまなIR活動を実施しています。国内の機関投資家・証券アナリストに対しては、四半期ごとにIRミーティングや取材対応を行い、海外機関投資家に対しては、電話会議や証券会社主催の国内IRイベントでのミーティングに加え、継続的な海外投資家訪問を行っています。また、個人投資家向け会社説明会の実施や当社IRサイトの充実にも努め、幅広い投資家に当社への理解促進を図っています。さらに、株主通信誌「WAVE」を年4回発行しており、定期的に行っている読者アンケートを通じて寄せられた声を誌面の企画やIR活動に生かしています。

* IR：Investor Relations(投資家向け広報)の略称。企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な企業情報を、適時、公平、継続して提供する活動のこと。



▶ <http://www.lintec.co.jp/ir/>



ロンドンでのIRミーティング

コミュニケーション

社会からの期待を知るためには、ステークホルダーとの継続的なコミュニケーションは必要不可欠です。リンテックグループは、情報発信とともに、ステークホルダーの方々との対話を図っています。

お客様とのコミュニケーション

お客様に対し、製品やサービス、営業活動、説明書やMSDS、お問い合わせ窓口、ウェブや展示会など、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、製品・サービスを改善し、信頼関係の構築とお客様満足の向上を目指します。

- ▶ 国内外の展示会に出展

お取引先とのコミュニケーション

お取引先に対し、購買活動や説明会、アンケートなど、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、公正な取引と相互理解、法令遵守の徹底、信頼関係の構築を目指します。

従業員とのコミュニケーション

従業員に対し、事業活動や教育制度、説明会や懇親会、イントラネットや社内報など、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、全従業員が社是の下、やりがいを持って働ける職場になることを目指します。

- ▶ コミュニケーションマガジンの発行／CSRコミュニケーション

地域社会に対し、工場・施設の見学や地元自治体との意見交換会、社会貢献活動、ウェブサイトや会社案内など、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、地域の方々との相互理解と、地域社会への還元を目指します。

▶ 工場・施設見学の受け入れ

社会との環境コミュニケーション

■ 概要

リンテックの環境活動について、大学生や行政と意見を交換。

■ 会場

日本工業大学 宮代キャンパス

■ 参加者

46人(教員・学生等 31人、事業者 7人、行政 5人、その他 3人)

■ 日時

2017年1月16日

■ 外部からのコメント

日本工業大学とリンテック株式会社にご協力いただき、実現した企画です。環境に配慮したものづくりを学ぶ学生が企業で取り組んでいる環境対策について理解を深めました。学生からの質問に対する企業側の熱のこもった説明で意見交換が盛り上がりました。



意見交換の様子

地域の環境課題について話し合う群馬「県民ミーティング」に参加

■ 概要

群馬県環境基本計画2016-2019について、パネリスト、コーディネーターの活動紹介と、パネルディスカッション。

■ 会場

群馬県中之条町 中之条合同庁舎

■ 参加者

約30人

■ 日時

2017年2月4日

株主・投資家とのコミュニケーション

株主総会や決算説明会、IRミーティング、会社説明会などを通じて、株主・投資家の皆様との積極的なコミュニケーションを図っています。また、株主通信やウェブサイトでの情報発信の充実に努めており、当社への理解を深めていただくことで、適正株価の形成と信頼関係の構築を目指しています。

▶ 積極的なIR活動を展開

機関投資家向け先端技術棟見学会

2017年3月、国内の機関投資家を対象に、研究開発本部「先端技術棟」の見学会を行いました。2015年に完成した同棟には、工場の量産設備に近い規模の大型テスト塗工設備や最先端の分析機器が導入され、新製品の開発と量産化のスピードアップに貢献しています。見学会では、それら塗工設備や分析機器、各実験室などを見学頂いたほか、現在開発を進めている最先端のテーマを研究員自身が説明する技術プレゼンテーションを実施。“技術立社”を標榜する当社の研究開発力をアピールする良い機会となりました。



実験室の見学

マスメディアとのコミュニケーション

マスメディア、ひいては社会に対し、取材・原稿執筆依頼への対応、アンケート回答、ウェブサイトやニュースリリースなどさまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、社会へ誠実に情報を開示し、信頼関係の構築を目指します。

取材の受け入れ

リンテックでは、新製品情報やイベント情報などを随時、各メディアにニュースリリースとして発信しているほか、取材や原稿執筆の依頼にも積極的に対応しています。2016年度はニュースリリースが約20件、取材対応・原稿執筆は約60件でした。



TV取材への対応

吾妻工場

- 吾妻危険物安全協会「優良危険物関係従事者表彰」

熊谷工場

- 熊谷職警蓮協議会「防犯功労者表彰」
- 熊谷市防火安全協会「自衛消防隊初期消火訓練指導会参加への功労表彰」
- 熊谷地区労働基準協会「優良従業員表彰」
- 熊谷市「子育て支援優良企業認定」

龍野工場

- 全国危険物安全大会「兵庫県危険物安全大会理事長表彰」
- たつの市自衛消防競技会 室内消火栓の部 3位、消火器の部 3位

本社

- 東京都「平成28年度東京都スポーツ推進企業認定」

伊奈テクノロジーセンター

- 上尾警察署長、上尾地区安全運転管理協会「優良安全運転者表彰」

環境マネジメント

「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」をスローガンに、環境マネジメントシステムを構築・運用し、継続的改善を図り、多角的な取り組みを推進しています。

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

リンテックグループは、「リンテックグループ品質・環境・事業継続方針」を定めています。この方針には、品質・環境に関する行動指針に、自然災害、パンデミック*の発生などに備えた事業継続に関する行動指針を加え、さまざまな側面から社会的責任を果たす内容となっています。また、環境分野ではCO₂排出量、電力使用量などの中期目標を定めています。

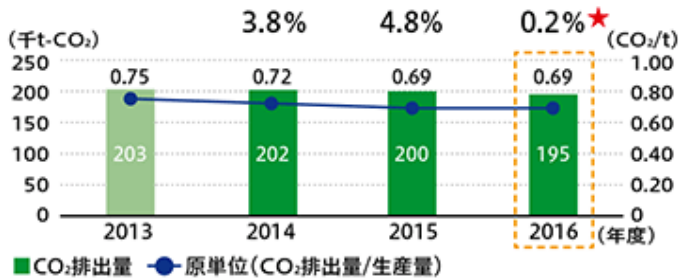
▶ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

* パンデミック：感染症などが世界的規模で流行すること。

環境分野におけるリンテック中期目標の結果（2014年～2016年）

CO₂排出量

中期目標：対前年度原単位比で 1.6% 削減

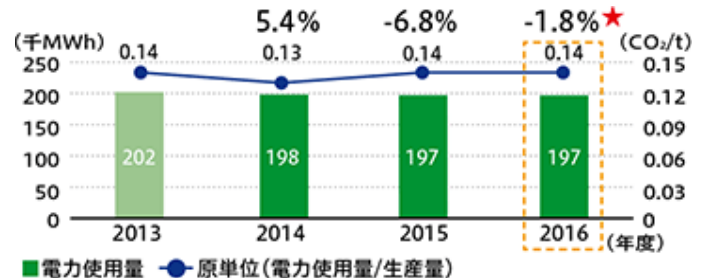


排ガス処理装置からの熱回収（熊谷工場、千葉工場、龍野工場ほか）や焼却炉ボイラーの排熱回収（熊谷工場、龍野工場）などの省エネルギー活動により、3年連続して低減。

年平均2.9%削減により中期目標を達成

電力使用量

中期目標：対前年度原単位比で 0.2% 削減

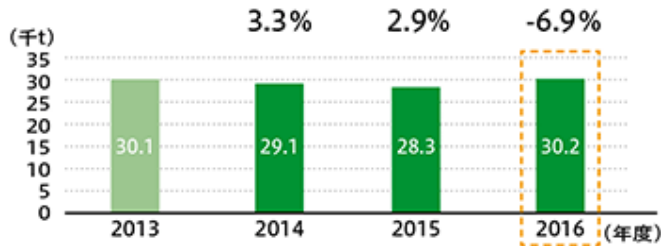


2014年からの3年で大きな変動は見られなかった。各事業所においては、照明のLED化や節電活動を推進しており、各工場においても省エネ設備の導入を実施。

年平均1.1%増加により中期目標に未達

廃棄物発生量

中期目標：対前年度発生量から 0.1% 削減

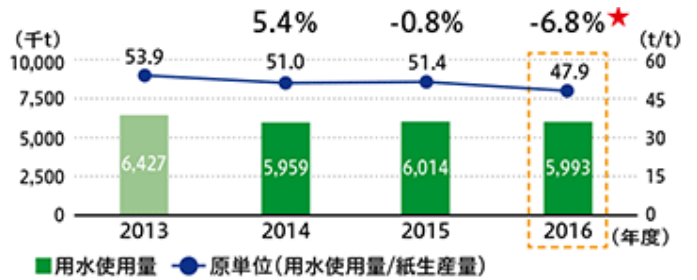


2014年からの3年で大きな変動は見られなかったが、生産量が増加したことにより、廃棄物が増加。

年平均0.2%増加により中期目標に未達

用水使用量

中期目標：対前年度原単位比で 2% 削減



用水使用量は、熊谷工場と三島工場の抄紙部門での使用量を対象としている。漏水対策、使用水の再利用などの取り組みを実施。

年平均3.8%削減により中期目標を達成

★ マークを表示したパフォーマンス指標は、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。第三者検証の結果、修正すべき重要な事項はありませんでした。

次期中期目標 (2017年～2019年)

CO ₂ 排出量	対前年度原単位で1%削減
電力使用量	対前年度原単位で1%削減
廃棄物発生量	対前年度発生量から0.1%削減
用水使用量	対前年度原単位で1%削減

環境マネジメントシステム

リンテックグループは、本社、国内11工場、研究所および東京リンテック加工（株）、海外グループ会社11社を合わせた25登録事業所をグローバル統合し、ISO14001を認証取得しています。ISO14001は2004年版から規格改定されており、現在は2015年版（ISO14001:2015）への移行作業を行っています。

今後もリンテックグループ一丸となって環境保全活動に努めていきます。

内部環境監査の実施

リンテックグループでは、環境マネジメントシステムに基づく各事業所の法令・条例の遵守状況、適切な運用を確認するため、サイト内部監査、相互監査を実施しています。

2017年度はISO14001 2015年版への移行作業が行われ、新たに2015年版での内部監査員講習を実施していきます。

環境コンプライアンス

リンテックグループの国内・海外サイトでは、各国、各自治体の条例を含めた数多くの法令を遵守しています。各サイトでは環境管理部門が法令の改定状況の監視や、サイト内の法令遵守状況を監視しています。法令遵守の確認は、環境マネジメントシステムに取り込み、定期的に行うことで「確認もれ」「見落とし」を防止しています。なお、2013年度から2016年度までの過去4年間において、重大な違反はありませんでした。

生物多様性保全のための取り組み

リンテックグループでは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に「生物多様性の保全」を掲げ、国内・海外サイトにおいて、生物多様性の保全活動に取り組んでいます。リンテック・インドネシア社では、マングローブの植林活動を行っており、2016年には1,500本の苗木を植林しました。

リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社、リンテック・インダストリーズ(サラワク)社は、ウミガメの保護活動として、産卵場所の整備、卵の保護、子ガメの放流などを行っています。今後も生物多様性の保全活動に取り組んでいきます。



竹林の整備



ウミガメの保護活動

環境対応製品の開発

リンテックグループは、ものづくりを担う企業の責任として、環境負荷低減を指向した製品の開発に力を注いでいます。また、設計段階からLCA*を参考に資源採取・原材料調達から製造過程、廃棄までを含めた環境負荷低減に努めています。

* LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

環境配慮型製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、LCAを考慮し、評価した環境配慮製品の開発を進め、2016年度は25件開発しました。また、ISO14021*に準拠した“自己宣言型環境配慮製品”のガイドラインを作成し、運用しています。今後も環境配慮製品の開発に努めていきます。

環境配慮製品の開発件数



* ISO14021:「環境ラベルおよび宣言—自己宣言による環境主張（タイプII環境ラベリング）」のための国際標準規格。企業自らが基準を設け、これを満たすことでラベルを付与することができる。

環境負荷低減に役立つ製品の開発

リンテックグループでは、環境・エネルギー分野を製品開発重点テーマの一つに位置づけています。主な製品として、高い断熱性で省エネルギーに貢献するウインドーフィルムや、リサイクル・リユースに貢献するラベル素材などがあります。今後も環境負荷低減と省エネルギーに役立ち、お客様に満足していただける製品開発を継続していきます。

環境配慮型粘着剤を採用したラベル素材

化粧品やボトル容器に使用されるラベルは、そのほとんどに強粘着タイプの粘着剤が使用されており、きれいに剥がしにくいという課題がありました。これを解決するため、リンテックでは、きれいに剥がせるラベル素材の新ブランド「REPOP」シリーズを2012年6月に立ち上げました。ラベル素材に強粘再剥離タイプの新規粘着剤を採用しています。これは使用時には高い粘着性を持ちつつも、きれいに剥がすことができ、プラスチック容器のリユースやリサイクルに対応した製品となっています。また、粘着剤には有機溶剤を使用しない水系エマルジョン*型を採用しているため、製造する際の環境負荷物質の低減に貢献しています。



のり残りが少なく、きれいに剥がせる粘着剤を採用

▶ 剥離剤の無溶剤化率向上

* エマルジョン：乳濁液や乳剤ともいわれる。水と油のような混ざり合わない液体について、一方が粒状になって他の液体の中に分散した状態。

|| 反射型液晶ディスプレイ*の輝度向上に貢献「光拡散フィルム」

リンテックは、反射型液晶ディスプレイの光を効率的に拡散させることで、従来よりも表示をさらに明るくする「光拡散フィルム」を開発しました。このことが評価され、2015年5月に一般社団法人映像情報メディア学会より技術振興賞を受賞しました。

* 反射型液晶ディスプレイ: 外光の反射によって表示を行うタイプの液晶ディスプレイ。透過型液晶ディスプレイに比べて、消費電力を1/10に抑えることができる。



光拡散フィルムを採用したデジタル時計
(左)

|| 再生PETフィルムを使用した「カイナスシリーズKP5000」

ペットボトルを原料として、メカニカルリサイクルと呼ばれる再生処理方法を用いてつくられたPETフィルムを使用したラベル素材です。表面基材の再生PET樹脂使用比率は80%以上を実現し、循環的な利用により石油資源の枯渇を抑制し、環境負荷の低減に貢献します。



カイナスシリーズKP5000

|| 日射熱を大幅にカットし、省エネルギーに貢献「ウインドーフィルム」

地球環境保護および資源の有効利用に配慮した省エネ対策フィルムです。窓ガラスに貼るだけで、夏場の冷房効率、冬場の暖房効率向上に寄与し、省エネルギーに貢献します。



ウインドーフィルム

地球温暖化防止

事業活動を継続する上で大きなリスクとなる地球温暖化や気候変動などに対応するため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

製造における取り組み

省エネルギー法への対応状況

国内リンテックグループ*全体のエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500klを超えています。そのため「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（略称：省エネルギー法）」に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%以上・電気平準化原単位1%以上改善することが求められています。2016年度は、生産設備の効率運転、ボイラーの効率運転、空調管理、排熱回収推進、VOC燃焼熱利用の拡大など、省エネルギー活動を推進しました。

* 国内リンテックグループ：リンテック(株)およびリンテック(株)の営業拠点、東京リンテック加工(株)、プリンテック(株)、リンテックサービス(株)、リンテックコマース(株)。

省エネルギー推進委員会

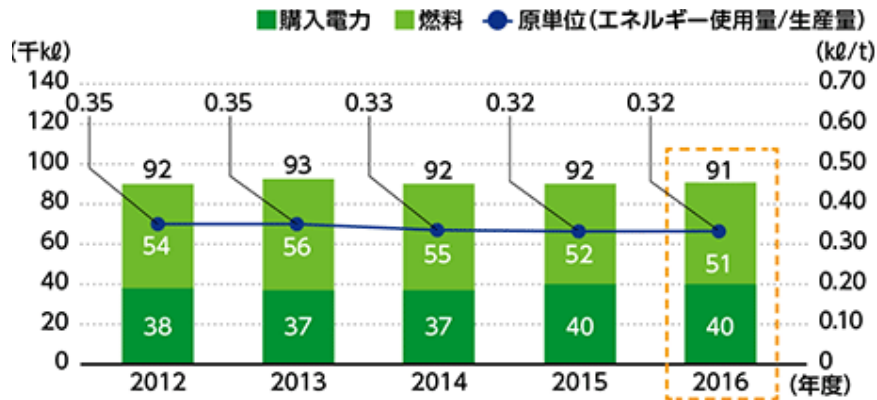
国内リンテックグループでは、省エネルギー法に対応するため、省エネルギー推進委員の管理下で各事業所のエネルギー使用データを毎月集計し、省エネルギー活動を推進しています。2016年度は、エネルギー原単位改善を目指し、全社的な省エネルギー対策を展開しました。龍野工場では、VOC燃焼熱利用設備の導入、焼却炉ボイラーの排熱回収を行いました。熊谷工場ではVOC燃焼熱利用設備を導入しました。

|| エネルギー総使用量・CO₂排出量

国内リンテックグループにおける2016年度のエネルギー総使用量（原油換算）は、省エネルギー対策などで、前年度から1.0%減少しました。エネルギー原単位は1.6%悪化し、0.32kl/tになりました。また、2016年度のCO₂排出量は195千tとなり、目標排出量198千t以下を達成しました。

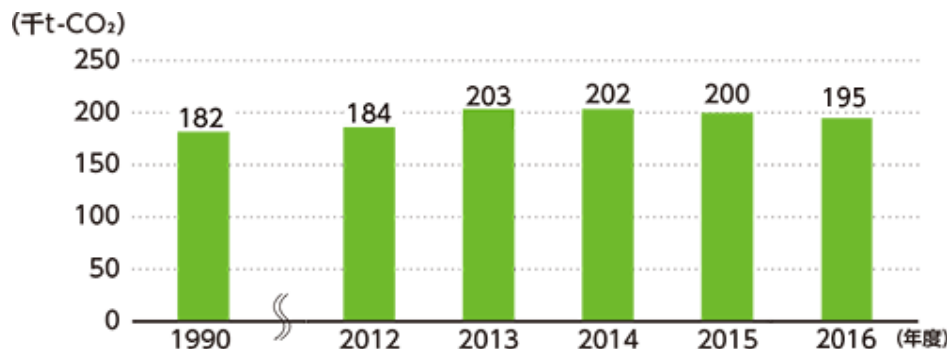
2017年度は、2016年度原単位で、CO₂排出量は1%、電力使用量は1%の改善を目指しています。

エネルギー総使用量(原油換算)



※ 燃料とは、灯油、A重油、LNG、LPG、都市ガスです。

CO₂排出量



※1 CO₂排出量は、電力・燃料使用量におおのこのCO₂排出係数を乗じて算出しています。

※2 1990年度のCO₂排出係数は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第3条第1項で定める排出係数の2002年12月改正値を使用しています。2010年度以降のCO₂排出係数は、同施行令で定める排出係数の2010年3月改正値を使用しています。また、購入電力の使用に関わる排出係数には、当該施設に電力を供給している電力会社の実排出係数を使用しています。

※3 上記排出量は、化石エネルギー起源の燃料によるCO₂排出量です。

|| 太陽光発電

リンテックでは、太陽光発電システムを本格導入しています。2013年1月から、土居加工工場全工棟の屋根に設置した出力約1,000kWの太陽光発電システムが稼働しました。2013年3月には、吾妻工場にも出力約500kWの太陽光発電システムを設置、稼働しています。これは、両工場合わせ、CO₂削減量換算で年間約500t-CO₂/年に該当します。また、本社でも小規模の太陽光発電を設置し、自家消費による電力のピークカットに貢献しています。



土居加工工場に設置された太陽光パネル
(約10,000m²)



吾妻工場に設置された太陽光パネル
(約5,000m²)

|| CO₂排出量削減の取り組み/LNGへの燃料転換

リンテックは、2006年度より、重油・灯油を燃焼して蒸気を生産させていたボイラー設備の燃料から、CO₂排出量がより少ない都市ガスやLNG(液化天然ガス)への転換を進めてきましたが、2011年1月をもって、リンテックの国内工場の転換工事を終わりました。さらに、焼却炉ボイラーへのエコマイザーの設置やVOC処理装置の排熱回収等を進めています。また、設備の効率運転、未利用熱の回収などの省エネルギー活動を通じてCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2016年5月に龍野工場の焼却炉ボイラーに空気予熱器を設置し、未利用熱回収を実施しました。



龍野工場の焼却炉ボイラーに設置した空気予熱器

|| 排熱回収ボイラー設置によるエネルギーの有効活用

熊谷工場では、2016年6月末にVOC(揮発性有機化合物)を処理するための排ガス処理装置(RTO式)に、排熱ボイラーを設置し、蒸気の回収を行いました。これからもCO₂排出量の削減に努めていきます。



熊谷工場のVOC排熱回収ボイラー

|| 照明用電力の削減

リンテックグループは、継続して省エネルギー活動を推進しています。エネルギー使用量の見える化を推進し、空調管理や休日における待機電力の削減などに取り組んでいます。また、計画的に照明のLED化を進めています。龍野工場では、2016年に出荷場所などの蛍光灯をLEDに変更しました。



LEDへ変更した加工室

|| フロン漏えい防止に向けた取り組み

改正フロン法（フロン排出抑制法）は、2015年4月1日に施行され、フロン類の製造から廃棄までの全ての工程での包括的な管理を求めています。リンテックグループは、各事業所で所有する業務用エアコンや冷凍・冷蔵機器をリスト化し、定期点検を実施することで、オゾン層保護、地球温暖化防止のためフロン漏えい防止に努めています。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

地球温暖化防止

物流における取り組み

リンテックは、省エネルギー法で定められている特定荷主（委託貨物輸送量3,000万トンキロ*1/年以上）に該当しています。そのため、これに対応するための計画を策定し、年1回国に報告しています。

また、リンテックでは、物流における環境負荷の低減に向け、モーダルシフト*2の推進をはじめとする、物流体制の改善に取り組んでいます。

2016年度の輸送量は9,600万トンキロとなり、前年度より200万トンキロ減少したために、エネルギー使用量は約1.7%減少しました。エネルギー使用量原単位（輸送量当たり）についても約0.4%改善しました。

今後も、モーダルシフトなどの拡大を検討し、引き続き輸送効率向上に取り組んでいきます。

▶ モーダルシフトの推進により物流構造を改革し、CO₂削減を目指す

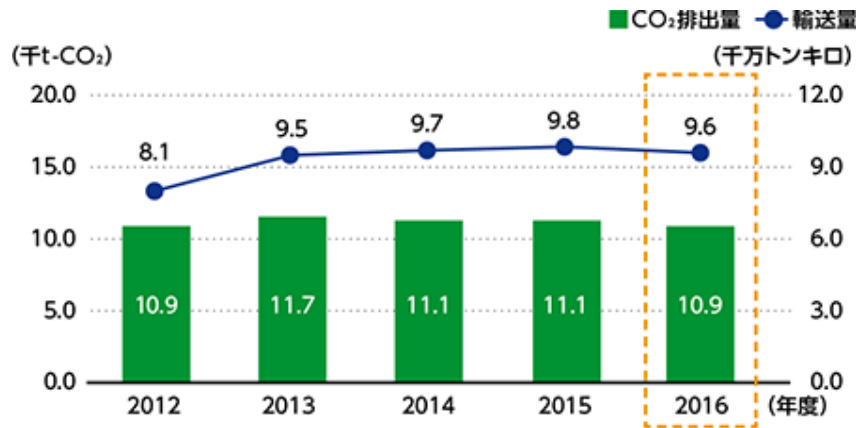
*1 トンキロ：貨物の輸送量を表わす単位で、貨物のトン数とその輸送距離を掛け合わせたもの。1tの貨物を1km輸送した輸送量が1トンキロ。

*2 モーダルシフト：旅客や貨物の幹線輸送を、大量輸送が可能な鉄道や船舶輸送に切り替えることで、CO₂排出量削減を図る取り組み。

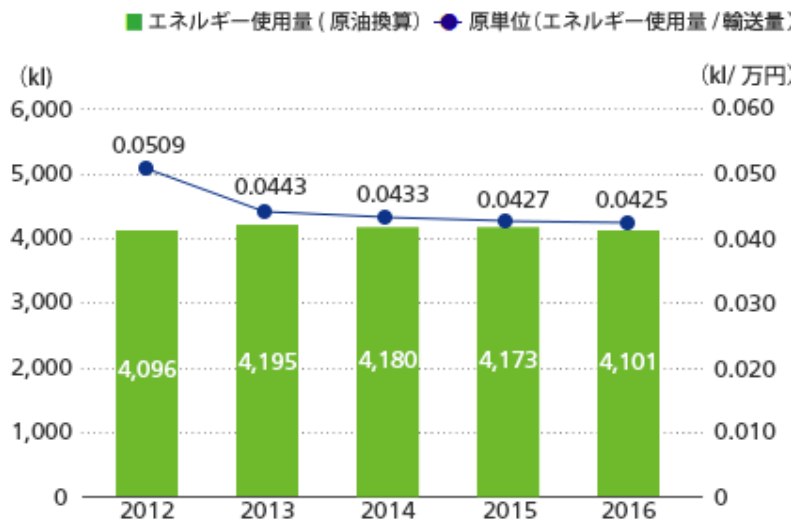


大型トラックと内容積が同等の鉄道コンテナで輸送

CO₂排出量と輸送量



エネルギー使用量



廃棄物の削減

循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

廃棄物の発生量と有効利用量

リンテックでは、循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に継続的に取り組んでいます。

リンテックにおける2016年度の製造ロスを含めた廃棄物発生量は30.24千tで、廃棄物排出量は12.26千tとなりました。このうち8.37千tは外部で再資源化され、それ以外の3.89千tは委託している廃棄物処理業者により、適正に処分されました。

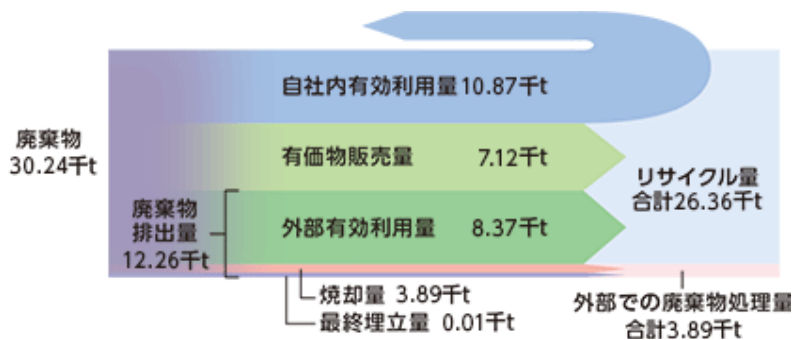
2016年度の最終埋立比率*1は約0.03%となり、目標（0.2%以下）を達成し、2007年度から10年継続して、最終埋立比率1.0%以下のゼロエミッション*2を達成しています。

2017年度における廃棄物発生量は、2016年度発生量の0.1%削減を目指しています。

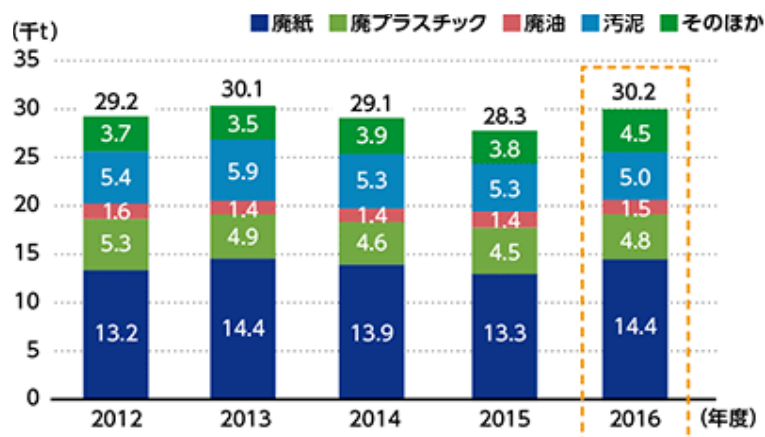
*1 最終埋立比率：次式で求められる数値。最終埋立比率＝最終埋立量/廃棄物発生量×100

*2 ゼロエミッション：リンテックでは、最終埋立比率が1%以下であることが基準。

2016年度 廃棄物の流れ



廃棄物発生量



|| リデュースの取り組み（ゴミの量を減らす）

リンテックグループの各工場は、廃棄物の発生を抑えるために、歩留りの向上を目指しています。さらに処分する薬液（調薬液）や廃棄する原材料が極力少なくなるように生産計画を立てています。

|| リユースの取り組み（繰り返し使う）

リンテック製品の大部分はロール状で製造されるため巻き芯が使用されています。巻き芯については、一部、回収して生産工程内で再使用しています。木製パレットやプラスチックパレットについても回収して再使用しています。

|| リサイクルの取り組み

リンテックグループでは、引き続きマテリアル リサイクル*1とサーマルリサイクル*2に取り組んでいます。龍野工場と熊谷工場では、マテリアルリサイクルに不向きな紙系廃棄物を固形燃料としてサーマルリサイクルしています。また、国内・外の各工場において、製品製造時に発生する断材等を、リサイクル業者に有価物として売却するなどして、廃棄物を再生資源として利用しています。

*1 マテリアルリサイクル：古紙を再生紙の原料に、空き缶を金属材に、ペットボトルを化学繊維材料にするなど、廃棄物を原料として再利用。サーマルリサイクル以外のリサイクル。

*2 サーマルリサイクル：廃棄物を単に焼却するのではなく、熱や電力として回収したり、燃料にするなど、エネルギーとしての再利用する方法。



紙系廃棄物を固形燃料にした燃料サンプル

用水使用量の削減と排水対策

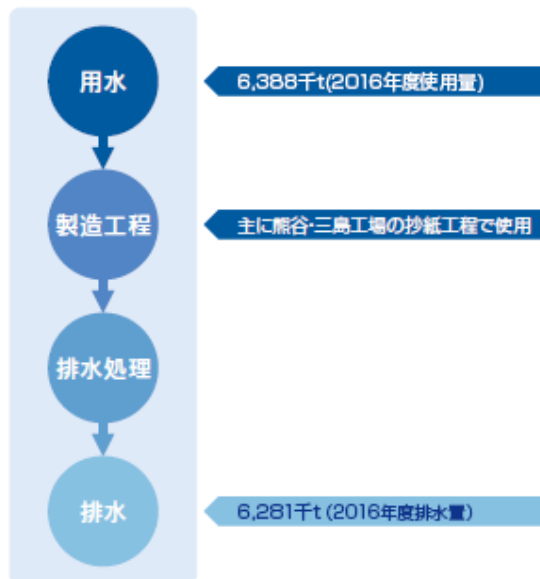
循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

用水使用量と節水対策

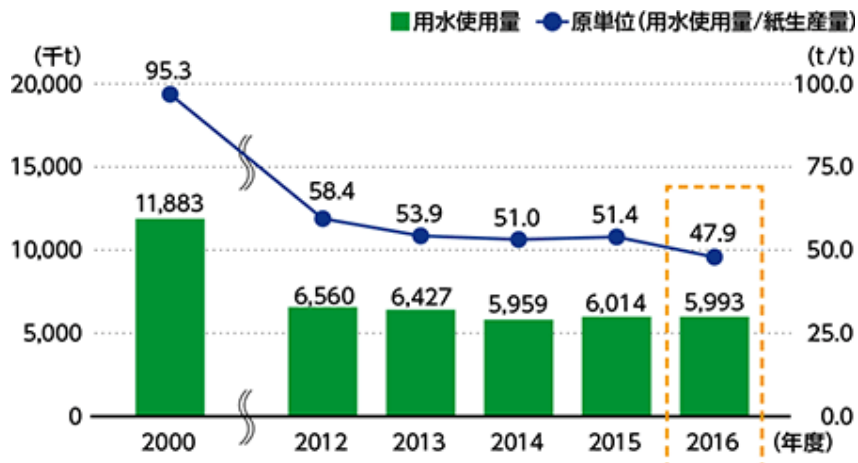
リンテックにおける2016年度の用水使用量は6,388千tでした。このうち約94%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。用水原単位（紙生産量当たり）は、前年度51.4t/tに対して2016年度は47.9t/tとなり、6.8%改善しました。

2017年度は原単位で対前年度1.0%削減を目指しています。目標の達成に向け、各工程における用水使用量の削減に取り組むほか、漏水対策も継続して実施していきます。

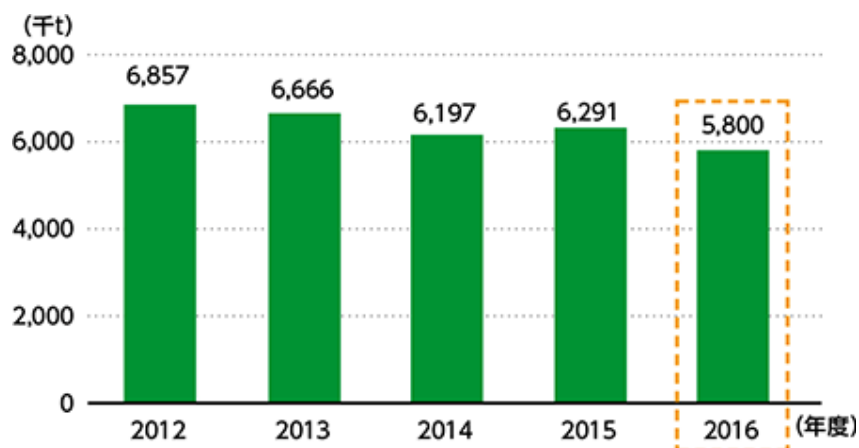
用水使用から排水までの工程



用水使用量(熊谷工場・三島工場)



処理排水量(熊谷工場・三島工場)*



* 熊谷工場と三島工場に設置されている排水処理設備の流量計合計値。

排水量削減

リンテックにおける2016年度の排水量は6,281千t/年でした。その約95%が熊谷工場と三島工場からの排水となっています。漏水の低減、製紙工程における工程使用水の再利用などにより、用水使用量と排水量の削減に努めています。今後も継続して排水量の削減活動を継続していきます。



三島工場の排水処理設備

2016年度 排水水質

熊谷工場

項目	排水基準	実績		
		最大値	平均値	
pH	5.8~8.6	6.54~7.6	7.15	
濃度規制	SS*1(mg/ℓ)	60(50)以下	28.1	10.59
	BOD*2(mg/ℓ)	20以下	21	9.73
	COD*3(mg/ℓ)	-	34.7	20.58
総量規制	COD(t/日)	0.858以下	0.243	0.136
	窒素(t/日)	0.4068以下	0.295	0.034
	リン(t/日)	0.0418以下	0.0041	0.0026

※1 BODにおいて、工場の自主基準（熊谷市との協定値）の20mg/ℓを超えたデータがありましたが、埼玉県の上乗せ規制値は超えておりません。自主基準超過時には熊谷市に報告し対処しました。

三島工場

項目		排水基準	実績	
			最大値	平均値
pH		5.8~8.6	5.9~8.2	6.7
濃度規制	SS(mg/ℓ)	80(60)以下	49	4
	COD(mg/ℓ)	90(65)以下	71	21
総量規制	COD(t/日)	0.9431以下	0.4653	0.2166
	窒素(t/日)	0.3961以下	0.2316	0.0401
	リン(t/日)	0.0405以下	0.0024	0.0005

※1 排水基準の()内は日間平均値。各工場の規制は以下によります。

〈熊谷工場〉BODについては熊谷市との協定値を、pH、SS、COD(総量規制)、窒素、リンについては埼玉県的生活環境保全条例、告示に基づく規制値を示しています。

〈三島工場〉pH、SS、COD(濃度規制)は水質汚濁防止法に、COD(総量規制)、窒素、リンは愛媛県の告示に基づく規制値を示しています。

※2 実績の最大値の欄：pHについては最小値～最大値を、総量規制については総量を掲載しています。

※1 SS：Suspended Solid(浮遊物質)の略称。水中に懸濁し、水の濁りの原因となる物質。

※2 BOD：Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)の略称。微生物が水中の有機物を分解する時に消費する酸素量。

※3 COD：Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)の略称。水中の被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量。

Voice 漏水対策、使用水の再利用を徹底

熊谷工場は製紙部門を保有しています。製紙部門では大量の水を使用するために、以前より用水原単位の低減に努めてきました。さまざまな対策の中でも、漏水対策、使用水の再利用などが特に効果的であることを確認し、これらの取り組みを徹底しています。また、回収水をパルプの仕込みに利用する取り組みも成果をあげており、製紙工程を工夫し、連続して回収できるように努めています。今後も継続して用水使用量の削減に努めていきます。



熊谷工場
環境課 課長代理
刈谷 剛

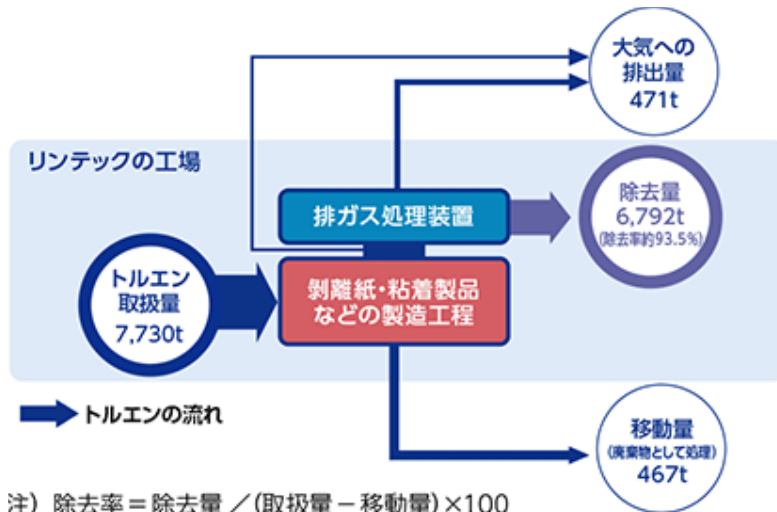
環境負荷化学物質の削減

国内外における環境関連法令や各種規制を遵守し、環境に負荷を与える化学物質の削減に努めています。

PRTR法*への対応

リンテックが2016年度に届け出たPRTR対象物質は9物質で、総取扱量は7,826tでした。取扱量が最も多かった物質はトルエンで、その取扱量は7,730tとなり、前年取扱量（7,436t）より294t増加しました。2016年度のトルエンの大気への排出量は471tで前年度排出量（441t）より30t増加しましたが、移動量は467tで前年度（494t）より27t減少しました。

2016年度 トルエンの排出量・移動量



* PRTR法：Pollutant Release and Transfer Register（化学物質の排出・移動量）の届出制度を法制化したもの（特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律）の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、国に報告して公表される仕組み。

剥離剤の無溶剤化率向上

剥離紙および剥離フィルムの大きな役割は、粘着製品が貼付されるまでの間、粘着剤面を保護することにあります。また、粘着剤の種類に応じた剥離力調整や機械貼り、印刷・抜き加工に対応するため、剥がしやすさも重要となります。一般的に剥離剤としては、シリコンが用いられており、紙・フィルム基材に剥離剤を塗布しています。

リンテックでは、VOC*の大気排出量削減を目的に、工場と研究所において、剥離剤の無溶剤化および高濃度化に取り組んでいます。2016年の剥離紙の無溶剤化率は56%（生産量ベース）で、前年度からほぼ横ばいとなりました。

研究所では、さらなる無溶剤化率向上を目的に、剥離剤の構造から着目し、用途に合わせた設計開発を行っています。また、各工場と連携しながら、コーティング技術の深耕にも努めています。

今後も引き続き、設計開発およびコーティング技術の向上を図り、環境負荷の少ない製品開発を進めていきます。

▶ 本業を通じたCSRの実践

* VOC：Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

化学物質管理、EUにおける各種規則への対応

リンテックでは、購入原材料について環境負荷物質含有調査を実施し、必要な情報をお客様に開示しています。製品についてはGHS*1に対応したSDS*2の発行を推進。また、環境規制が厳しくなるEUにおける各種規制への対応を進めています。2016年度は、お取引先への調査対象環境負荷物質リストを更新しました。

REACH規則*3やRoHS指令*4における制限物質増加への対応も考慮し、製品含有化学物質の管理（現在の規制対象物質は約6,000物質）をさらに強化していきます。

製品情報提出の流れ



*1 GHS：Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals（化学品の分類および表示に関する世界調和システム）の略称。化学品の危険有害性に関する国際的な危険有害性分類基準と表示方法に関する仕組み。

*2 SDS：Safety Data Sheet（安全データシート）の略称。有害性のおそれがある化学物質を含む製品をほかの事業者に譲渡または提供する場合に、対象化学物質の取り扱いなどに関する情報を提供するための文書。

*3 REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

*4 RoHS指令：電子・電気機器における特定有害物質の使用制限についてのEUによる指令。

災害や化学物質の漏えい事故などを想定した訓練

リンテックグループの化学物質を取り扱う工場、研究所では、化学物質の漏えい事故を想定した訓練を実施しています。訓練の目的は、化学物質の漏えい事故が発生した時の対応を習得することはもちろん、仮に漏えいが発生した場合にも工場敷地外に流出するのを防ぎ、土壌汚染や火災などを発生させないこと、従業員が安全に処理することです。

2016年度は三島工場、吾妻工場、熊谷工場、小松島工場、千葉工場、龍野工場、伊奈テクノロジーセンター、研究所、新居浜加工所など各事業所で訓練を実施しました。

PCB*の適正管理

リンテックでは、PCBを含む廃棄物を適正に保管・管理しています。2016年度は高濃度PCB廃棄物を1台、低濃度PCB廃棄物13台を処分しました。高濃度廃棄物は処分待ちのものもありますが、継続して法令に基づき厳重に保管・管理していきます。

2016年度 PCBの適正保管・管理状況

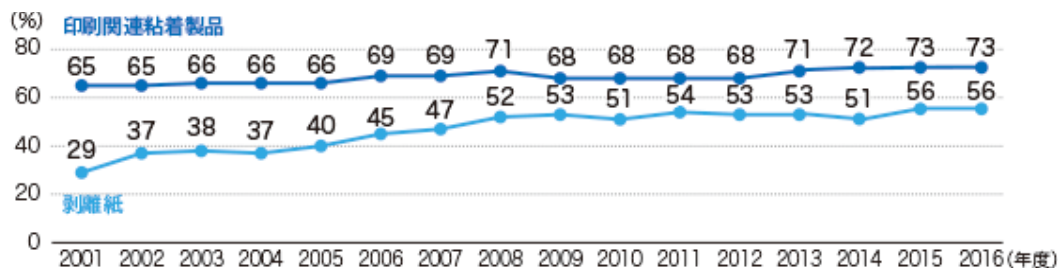
事業所名	PCB廃棄物 保管台数(台)	処理施設	委託処理 登録年度	処理完了 予定
熊谷工場	24	日本環境安全事業(株) 東京事業所	2005年度	未定
龍野工場	14	蛍光灯安定器 日本環境安全事業(株) 北九州事業所	2015年度	未定
研究所	38	蛍光灯安定器 日本環境安全事業(株) 北海道事業所	未定	未定
合計	76 (高濃度20台、蛍光灯安定器56台)			

* PCB：ポリ塩化ビフェニルの略称。PCBを含む廃棄物については、PCB特別措置法(ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法)により、その適正な保管・管理・処理が義務づけられている。

無溶剤化率の推移

リンテックでは、VOCの削減を推進しています。製品設計時には、VOCのうち有機溶剤使用量の削減に向け、剥離紙に用いる剥離剤と印刷関連粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化を進めています。2016年度の剥離紙の無溶剤化率（生産量ベース）は56.2%、印刷関連粘着製品の無溶剤化率（販売量ベース）は73%でした。無溶剤化率はほぼ横ばいで推移していますが、環境配慮製品の利点や環境保全をアピールし拡販を推進していきます。また排ガス処理設備の設置も完了していますが、引き続き、無溶剤化率の数値管理と排ガス処理設備の確実な運用で、環境負荷低減に努めていきます。

印刷関連粘着製品と剥離紙の無溶剤化率



※1 印刷関連粘着製品の無溶剤化率=無溶剤型印刷関連粘着製品の販売量/印刷関連粘着製品の全販売量×100

※2 剥離紙の無溶剤化率=無溶剤型剥離紙の生産量/剥離紙の全生産量×100

Voice VOC削減のためにさまざまな取り組みを実施

千葉工場では、VOCを削減するために、洗浄に使用した有機溶剤を再利用しています。さらに、有機溶剤使用量の削減に向け、溶剤系粘着剤の濃度を高める取り組みを進めています。また、PCBを含む廃棄物については、2016年10月に千葉工場の全ての廃棄物の処分を終了しました。今後も継続して改善に取り組み、さらなる環境負荷低減に努めていきます。



千葉工場
設備技術課 主任
遠藤 秋雄

環境会計

リンテックでは、環境会計によって環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的に推進しています。2016年度の投資額*1は605百万円、費用額*2は2,825百万円でした。投資額合計については、2015年度と比較して74百万円の減少となっており、今期は主に資源効率化のため古紙設備を導入しております。費用額合計については、2015年度と比較して320百万円減少となっており、減価償却計算を定率法から定額法へ変更したことによるものです。

*1 投資額：対象期間における環境保全を目的とした支出額で、環境保全効果が数期にわたり持続し、その期間に費用化されていくもの。

*2 費用額：環境保全を目的とした財・サービスの費消により発生する費用または損失。

集計の考え方

1. 集計範囲：リンテック(株)および東京リンテック加工(株)とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日
3. 参考ガイドライン：環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

2016年度 環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	対象となる設備	投資額	主な取り組みの内容	費用額	
1.生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するためのコスト	公害防止				
	a.大気汚染削減装置など大気汚染防止のためのコスト	排ガス処理装置	102	大気汚染防止設備維持管理	352
	b.排水処理設備など水質汚濁防止のためのコスト	環境管理棟、排水処理設備	136	水質汚濁防止設備維持管理	149
	c.その他公害防止のためのコスト	高調波電流対策	0	PCB処理、スラッジ処理費	22
	地球環境				
	a.温暖化防止のためのコスト	-	29	燃料転換設備維持管理	126
	b.省エネルギー・省資源のためのコスト	排熱ボイラ、ヒートポンプ	174	自家発電設備維持管理	383
	資源循環				
	a.古紙設備など資源の効率的利用のためのコスト	原料回収設備	153	古紙処理設備維持管理、古紙原料化	309
	b.産業廃棄物の減量化・削減・リサイクル・処理のためのコスト	燃料化設備	11	焼却炉ボイラー設備維持管理、産業廃棄物処理	384
2.上・下流コスト	副資材の回収・再生・再利用のためのコスト	-	-	パレットの回収、副資材の返却費用	44
	グリーン調達、環境負荷の少ない原材料等の購入	-	-	環境配慮型事務用品の購入	7

3.管理活動における環境保全コスト	環境管理システムの構築、運用のためのコスト	-	-	ISO14001 審査・登録、環境保全組織の運営	298
	環境情報開示	-	-	CSRレポート・サイト制作、エコプロダクツ出展	26
	大気、水質の分析費用など環境負荷の監視・測定のためのコスト	電力・エネルギー監視システム	0	規制物質の分析・測定	33
	従業員への環境教育のためのコスト	-	-	セミナー、講習会参加	1
	事業活動に伴う自然保護、緑化、美化、景観保持等の環境改善対策のためのコスト	緑地	0	構内美化、緑地維持管理	28
4.研究開発活動における環境保全コスト	-	-	環境保全に関する研究開発	647	
5.社会活動コスト	-	-	(財) ひょうご環境創造協会	0.03	
6.土壌汚染の修復など環境損傷に対応するコスト	-	-	汚染負荷量賦課金、漁業補償金	17	
合計	-	605	-	2,825	

※ 排ガス処理設備投資額には、予備品・雑工事費を含みます。

2016年度 環境保全効果

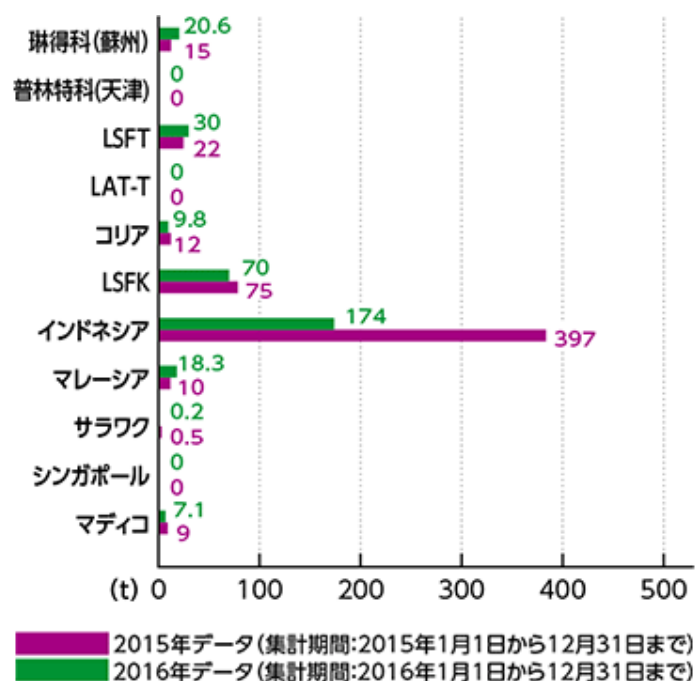
環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標		基準期間 (2015年度)	2016 年度	環境保全効果 (基準期間と の差)
1. 事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	購入電力使用量(原油換算)	千kℓ	40	40	0
	燃料使用量(原油換算)	千kℓ	52	51	-1
	有機溶剤使用量	千 t	8.9	8.9	0
	用水使用量	千 t	6,563	7,758	1,195
2. 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	製造におけるCO ₂ 排出量	千 t - CO ₂	200	195	-6
	トルエンの大气への排出量	千 t	0.441	0.478	0.04
	廃棄物排出量	千 t	11.74	30.24	18.50
	廃棄物焼却量	千 t	0.85	3.89	3.04
	廃棄物最終埋立処分量	千 t	0.03	0.01	-0.02
	総排水量	千 t	6,291	5,993	-298
	SOx排出量	t	7.4	6.2	-1.2
3. その他の環境保全効果	NOx排出量	t	88	80	-8
	輸送に伴う燃料使用量(原油換算)	kℓ	4,173	4,101	-72
	輸送に伴うCO ₂ 排出量	千 t - CO ₂	11.1	10.9	-0.19
	製品などの輸送量	千万トキ 口	9.8	9.6	-0.2

海外グループ 環境データ

2016年 環境データ

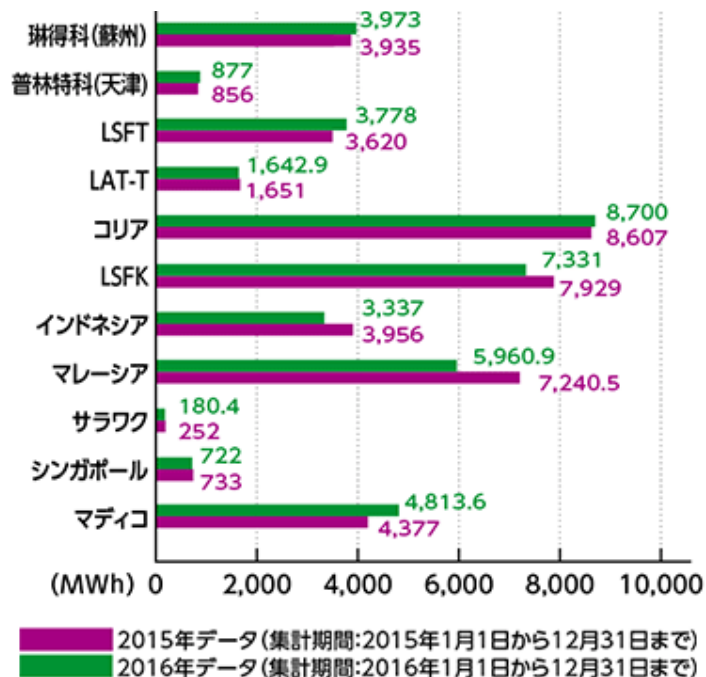
海外グループ会社11社における2016年の環境データは以下になります。

VOC*排出量

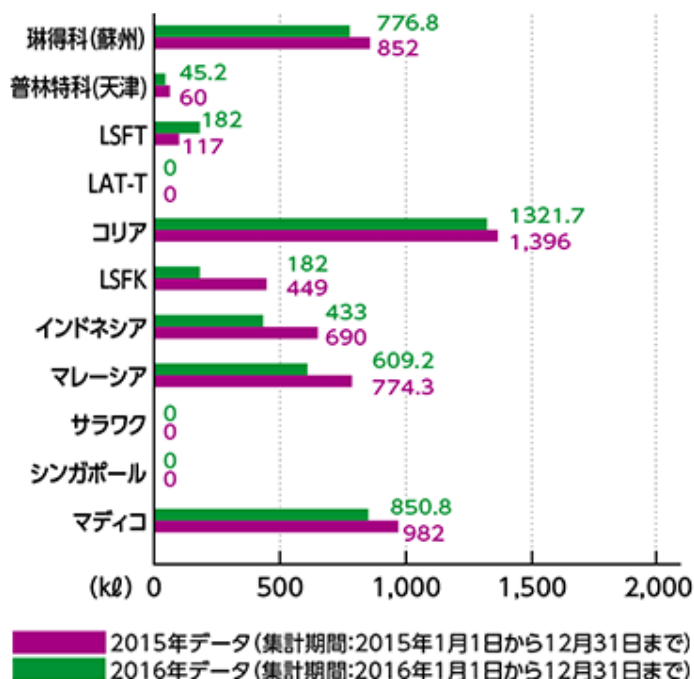


* VOC : Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

電力使用量



燃料(軽油/天然ガス)使用量(原油換算)



リンテック・インドネシア社については、生産量が減少したため、各排出量・使用量も減少しています。

※1 VOCは、トルエン、メチルエチルケトンを対象としています。

※2 燃料使用量の原油換算に用いた各燃料の発熱量は、省エネルギー法施行規則第4条に規定されている数値を使用しています。

※3 LSFT：リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（台湾）社
 LAT-T：リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社
 LSFK：リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（韓国）社

リンテックと環境のかかわり

国内リンテックグループ*における2016年度のエネルギー総使用量（原油換算）は、省エネルギー対策などで、前年度から1.0%減少しました。エネルギー原単位は1.6%悪化し、0.32kℓ/tになりました。なお、電力使用量は、0.4%増加しました。また、2016年度のCO₂排出量は195千tとなり、目標排出量198千t以下を達成しました。2017年度は、2016年度原単位で、CO₂排出量は1%、電力使用量は1%の改善を目指しています。

* 国内リンテックグループ：リンテック（株）およびリンテック（株）の営業拠点、東京リンテック加工（株）、大阪リンテック加工（株）、プリンテック（株）、リンテックサービス（株）、リンテックコマース（株）。

1. 集計範囲：リンテック（株）および東京リンテック加工（株）とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日

2016年度 マテリアルフロー(国内のみ対象)



*1 OUTPUTには内販は含んでいません。

*2 スコープ1：自社で購入した燃料の使用に伴い直接排出されたCO₂などの温室効果ガス排出量のこと。液化天然ガス(LNG)、プロパンガス(LPG)、都市ガス、灯油、軽油、ガソリンなど、ガスや液体燃料が対象。

*3 スコープ2：自社で購入した電力や蒸気などを他社でつくる際に排出されるCO₂などの温室効果ガス排出量のこと。

*4 総量管理：スコープ1、スコープ2に該当する項目について、省エネ法対象範囲以外も含めた集計方法。集計対象は、リンテックおよび国内リンテックグループ会社の一部（4社）。

海外グループ会社のCSR活動

グローバル企業としての責任を果たすため、海外グループ各社において地域に根ざしたCSR活動を推進しています。

琳得科（蘇州）科技有限公司



工務科
劉 仕平
(リュウ・シピン)

生物多様性に関する従業員の理解・促進を目的に、2017年3月に工場内花壇を整備しました。従業員は熱心に植え替えをしました。今後も私たちに身近なことから生物多様性の保全活動を続けていきます。

会社概要

所在地：中国 蘇州市

従業員数：211人

主な事業内容：印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の製造販売



花壇を整備する従業員

普林特科（天津）標籤有限公司



安全管理課
李 大為
(リー・ダーウェイ)

2016年9月に天津市西青開発区組合が開催した「消防安全知識普及運動会」に、6人の従業員が参加し、消火作業や負傷者の緊急処置などの競技を実施しました。事故対処の訓練になるとともに、消防意識向上にもつながりました。

会社概要

所在地：中国 天津市

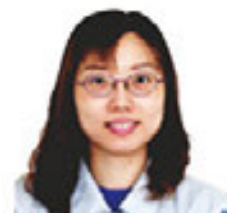
従業員数：96人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



運動会競技（負傷者の緊急処置）のようす

リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（台湾）社



総務課
吳 慈恩
(ゴ・ジオン)

毎年AED（自動体外式除細動器）およびCPR（心肺蘇生法）教育訓練を実施しています。訓練を通じて、万が一の救命救急に対しCPRの実施手順で対応できるように備えています。

会社概要

所在地：台湾 台南市

従業員数：94人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



AEDおよびCPR教育訓練のようす

|| リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社



総務人事部
蘇 俞文
(スー・ユーウン)

2016年12月に社内の有志メンバーが、児童養護施設に寄贈するためのクリスマスプレゼント募集活動を行いました。社員から集めたプレゼントは丁寧に包装し、従業員自ら児童養護施設に届けました。

会社概要

所在地：台湾 高雄市

従業員数：79人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



児童養護施設責任者との記念写真

|| リンテック・コリア社



総務課
劉 秉柱
(ユ・ビョンジュ)

韓国では2015年に「大気環境保全法」が改正となり、クリーンルームから排出される空気も規制対象となりました。当社では、2016年11月に濃縮機および排ガス処理装置（RTO式）を新設しており、2017年より年間3t（約26%）のVOC*の大気排出量の削減となる見込みです。

会社概要

所在地：韓国 忠清北道清州市

従業員数：82人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



新設した排ガス処理施設（RTO式）

* VOC：Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

|| リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社



設備技術部
金 明珍
(キム・ミョンジン)

2016年10月に工場の省エネルギーの推進とコスト削減のために、現場の蛍光灯をLEDランプに交換しました。1年間に81,445kWhが削減となり二酸化炭素の排出量削減（38.3 t-CO₂/年）*効果を見込んでいます。

会社概要

所在地：韓国 平澤市

従業員数：132人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



事務所内のLED照明

* 韓国の電力係数より算定。

|| リンテック・インドネシア社



環境安全担当
Harijanto Muliawan
(ハリヤント・ムリア
ワン)

2016年4月に、インドネシア西ジャワ州カラワン県において、マングローブ1,500本の植樹を行いました。本活動は、地球温暖化抑制および生物多様性保全、また、植樹エリアの水質改善への貢献を目的としています。

会社概要

所在地：インドネシア ボゴール市

従業員数：112人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



ビーチクリーン活動

|| リンテック・インダストリーズ (マレーシア) 社



製造部門
Mohd Sopian Bin
Ismail
(マハマド・ソピ
ア
ン・ビン・イスマ
イル)

教育訓練計画の一環として、バイク通勤者全員（74人）が安全運転講習を受講しました。講習はペナン州にあるHONDA社の安全運転訓練センターで行い、バイク事故の主な原因や事故の回避方法を学ぶことで、安全意識向上につながりました。

会社概要

所在地：マレーシア ペナン州

従業員数：94人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



安全運転講習のようす

|| リンテック・インダストリーズ (サラワク) 社



総務人事部門
Michael Benzi Junior
(マイケル・ベンジ
ジュニア)

生物多様性の保全を学ぶため、2016年9月にサラワク州のタランブサル島を訪れました。この島の海岸はウミガメの重要な産卵場所で保護区にもなっています。保護センターの担当者から具体的な保護方法などを学びました。

会社概要

所在地：マレーシア サラワク州

従業員数：24人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



タランブサル島の保護センター前で

|| リンテック・シンガポール社



品質保証課
Lai Choon May
(レイ・チョン・メ
イ)

2016年9月にセント・ジョーンズ・ホームを訪問し、高齢者と触れ合い、清掃などのボランティア活動を行いました。また、植林活動も実施し、生物多様性の意識向上に努めています。

会社概要

所在地：シンガポール

従業員数：87人

主な事業内容：印刷材・産業工材および電子・光学関連製品の製造販売



老人ホームで歌を披露

マディコ社



CSR部門
Sarah Ito
(サラ・イトウ)

CASA（家庭内暴力などで苦しんでいる被害者をサポートする組織）の子供たちのためのイベント「おもちゃドライブ」への参加をはじめ、2016年度を通じてさまざまな社会貢献活動を行いました。今後も引き続き、地域コミュニティに貢献していきます。

会社概要

所在地：アメリカ マサチューセッツ州
従業員数：217人
主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



食品寄付活動

ナノサイエンス&テクノロジーセンター



知財部／基礎研究部
Christopher
Valentine
(クリストファー・バ
レンタイン)

2017年3月、生活困窮者へ食事を提供する慈善団体のボランティア活動に参加し、貧困状態にある子供たちへ提供する栄養豊富なスナックやドリンクの袋詰め作業を行いました。今後も積極的にボランティア活動に参加していきます。

会社概要

所在地：アメリカ テキサス州
従業員数：12人
主な事業内容：研究・開発



物資の袋詰め作業

リンテックオブアメリカ社（シカゴ）



営業部門
Jim Halloran
(ジム・ハロラン)

Nashua Rides for Hopeというチームを結成し、がん患者支援に向けた募金活動を実施しました。今後も社会貢献活動を継続していきます。

会社概要

所在地：アメリカ イリノイ州
従業員数：7人
主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の販売



Nashua Rides for Hopeのメンバー

リンテック・ヨーロッパ社



営業部門
Peter Olah
(ピーター・オラー)

生活支援が必要な人々のためにボランティア活動を実施しています。従業員とその家族から服、毛布、玩具などを収集し、2016年11月に、ルーマニアの小さな村の幼稚園、小学校、教会を訪問して贈呈しました。

会社概要

所在地：オランダ アムステルフェーン市
従業員数：9人
主な事業内容：印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の販売



洋服や日用品を整理するスタッフ

|| リンテック・ハノイ・ベトナム社



川崎 雅弘

地元の消防署とともに防災訓練に取り組んでいます。2016年度は、消防署の職員と一緒に放水および消火器の操作について訓練を行いました。今後も防災活動を継続していきます。

会社概要

所在地：ベトナム バクニン省

従業員数：13人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の販売



消防訓練のようす

|| リンテック・タイランド社



人事部門

Nantawat

Sakunchaiworanan

(ナントワット・サク
ンチャイワラナン)

2016年12月25日に、従業員から提供された募金および衣服、かばん、靴などを障がい者施設へ寄付しました。また、従業員による障がい者への散髪、食事配膳なども実施しました。今回初めての取り組みでしたが、今後は毎年恒例にしていきます。

会社概要

所在地：タイ チャチェンサオ県

従業員数：126人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



障がい者施設への寄付品贈呈のようす

|| リンテック・ジャカルタ社



総務人事部門

Afifatul Khoir

(アフイファトゥル・
コイール)

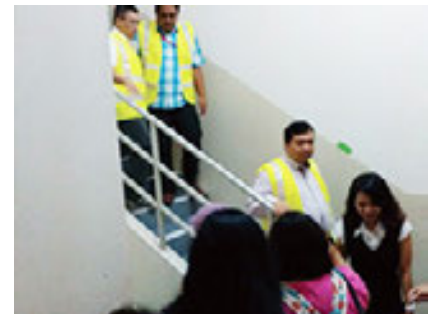
当社が入居しているビルでは、防災訓練が年2回開催されます。高層階での火事発生という設定で、非常階段を使って1階の指定場所への避難を訓練しました。今後も、積極的に訓練に参加し、防災意識向上に努めていきます。

会社概要

所在地：インドネシア ジャカルタ州

従業員数：21人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の販売



非常階段を使った避難訓練のようす

内部統制

リンテックグループ内部統制方針

リンテックグループ各社・各部門は、不正・違法行為・ミスの発生を防止し業務が適正かつ効率的に遂行されるよう、内部統制の整備・運用を強化します。

- リンテックグループのすべての役員・従業員等は、内部統制の整備・運用について役割と義務を負います。
- リンテックグループ各社・各部門は、諸手続きが関連法規、社内規程に則り適正かつ効率的に行われているかを確認するため、適宜自己チェックを実施します。
- 内部監査部門は、独立的立場からリンテックグループ各社・各部門の内部統制が有効かつ効率的に機能しているかを定期的に確認します。

制定 2013年10月1日

リンテック株式会社

コンプライアンス

リンテックグループ行動規範

|| 行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス(法令遵守)」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は

1. 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
2. すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
3. すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
4. 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
5. 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
8. 反社会的勢力は排除します。
9. 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
10. 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
11. 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
12. 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定

2011年4月改定

品質・環境・事業継続

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

基本方針

リンテックグループ全社員は社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、国内外の法令・規制の遵守を含め、あらゆる社会的責任を果たすべく、公明正大かつ革新的な企業活動を実践する。

これらの具体的活動を実践するため、以下に「品質方針」「環境方針」「事業継続方針」「行動指針」を定める。

品質方針

「ものづくり」の原点に立ち、「品質」「環境」「安全」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動を徹底する。

〈行動指針〉

1. 異なる文化・地域と調和できる「人材」「企業文化」を育て、より良い品質で世界に貢献する。
2. 「ものづくり」を通して顧客ニーズを迅速・的確に把握し、共有する。
3. 「ものづくり」を通して常に現状分析を行い、継続的な改善活動を徹底する。
4. より良い製品を適正価格で安定的に提供するために、日常のサービス・業務の改善・改革を推進する。
5. デザインレビューの徹底により、開発段階から品質のつくり込みを行う。
6. 製造・品質管理などあらゆる面で統計的手法を取り入れ、データの評価・管理体制を強化する。
7. 独創的な「ものづくり」ができる企業人を育成するために、体系的な社内教育システムを構築する。

環境方針

地球の豊かな自然とこれらの社会を次世代に引き継ぐために、環境に配慮した製品づくりを優先し、地球環境保全に積極的に取り組む。

〈行動指針〉

1. 環境に配慮した製品の開発に努める。
2. 地球資源の有効活用を推進し、3R(Reduce・Reuse・Recycle)に努める。
3. 製品に含有する化学物質の管理を行い、グローバルな環境保全に努める。
4. 生物多様性の保全に努める。
5. 環境の改善には積極的に取り組みPDCAを回して継続的な活動に努める。

地震・風水害等の自然災害、火災、パンデミック等、事業継続に支障をきたすさまざまなリスクの発生に対し、その影響を最小に抑えるため、BCMS(事業継続マネジメントシステム)を構築し、継続的な改善を図る。

〈行動指針〉

1. グループ社員およびその家族の安全確保を最優先する。
2. 減災対策を常に意識し、事業への影響を最小化する。
3. 災害発生に対し、主要製品の速やかな供給再開により顧客への供給責任を果たす。
4. 被災地域の復興に貢献する。
5. BCMSのさらなる向上を目指し、PDCAを回して継続的な改善を図る。

1992年4月10日 環境憲章制定

1998年8月10日 品質方針制定

2012年4月1日 品質・環境方針制定

2013年9月1日 品質・環境・事業継続方針制定

2014年1月1日 品質・環境・事業継続方針改定

2014年4月1日 品質・環境・事業継続方針改定

調達

リンテック原材料調達基本方針

1. 公正・透明な取引

すべての取引先の皆様との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行います。取引先の選定に当たっては広く門戸を開放し、品質・価格・納期・供給安定性・技術力・サービスおよび環境保全への取り組みなどについて、適正な評価を行います。

2. パートナーシップの構築

すべての取引先の皆様に「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係を築いていきます。

3. 法規・社会規範の遵守

調達活動に当たって、国内外の法規・社会規範を遵守するとともに、取引先の皆様にもその遵守徹底を求めます。

4. 環境への配慮

「リンテックグリーン調達方針」に基づき、環境負荷低減に配慮した調達活動を推進するとともに、取引先の皆様にも環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底を求めます。

5. CSRの徹底

調達活動に当たって、取引先の皆様とともに人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティ、企業倫理、紛争鉱物など、あらゆる観点からCSRの徹底を図っていきます。

2009年8月10日制定

2013年8月30日改定

調達

リンテックグリーン調達方針

1. 取引先の皆様とともに、当社製品を構成する原材料や部品、副資材などの化学物質管理を推進します。
2. 積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進している取引先の皆様から、環境負荷のより少ない原材料や部品、副資材などを優先的に調達するよう努めます。
3. サプライチェーンマネジメントの観点から、取引先の皆様にも、それぞれの仕入先様とともに積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進することを求めます。
4. 「リンテック木材パルプ調達方針」に基づき、グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

2006年6月1日制定

2009年8月10日改定

調達

リンテック木材パルプ調達方針

1. 調達方針および取り組み

(1) 違法伐採対策として、以下に該当する木材パルプを調達しません。

- (a) 違法に伐採された木材を原料にしたパルプ
- (b) 伝統的権利または市民権が侵害されている地域からの木材を原料にしたパルプ
- (c) 保護価値が高い森林からの木材を原料にしたパルプ
- (d) 植林地または森林以外の用途に転換されつつある森林からの木材を原料にしたパルプ
- (e) 遺伝子組み換え樹木が植えられている森林からの木材を原料にしたパルプ

(2) グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

2. 合法性の確認

- (1) 「調達方針および取り組み」各事項の趣旨に則った自己宣言書を各取引先から入手します。
- (2) 木材パルプの調達に当たって、取引先から木材原料の伐採地域・樹種・数量などを記載したトレーサビリティレポートを入手します。
- (3) 関連資料については、5年間保存し、監査などの必要に応じて開示します。
- (4) 取り組み状況について、定期的に内部監査および日本製紙連合会によるモニタリング(調査および監査)を実施し、その概要をホームページなどで公表します。

2009年8月10日制定

2010年6月1日改定

2010年8月23日改定

▶ 2015年度における取り組み状況[PDF：70KB] 

調達

グリーンパルプ・ウェイ

|| グリーンパルプ・ウェイ(Green-Pulp-Way)

グリーンパルプ・ウェイとは当社の環境配慮コンセプトです。同コンセプトに基づき特殊紙ならびにラベル用紙の製品設計・製造を行い、「地球環境への負荷を低減し、豊かな緑を未来へ残す」ことを目指します。

|| グリーンパルプ(Green Pulp)

グリーンパルプは当社の登録商標です。グリーンパルプは、合法的かつ適切に管理された森林からの木材を原料とするパルプ(森林認証パルプ、植林木パルプを含む)、および再・未利用材から得られるパルプ、非木材パルプなどで、無塩素漂白(ECF)により製造されたパルプです。

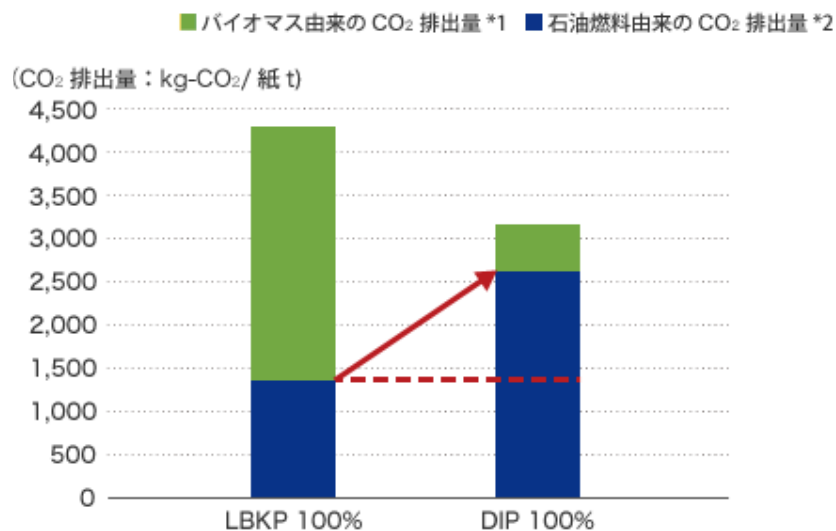
|| グリーンパルプ・ウェイの背景

当社は資源を有効利用する取り組みとして、古紙を原料とする再生紙の生産を積極的に進めてまいりました。一般に古紙を高配合すると品質(例えば強度)が低下することから、当社では厳選した良質な古紙を使用し、さまざまな要求品質を満たしてきました。しかし、ここへ来て中国などにおける古紙の需要増大による影響で、質を問わず古紙そのものの入手が非常に難しくなっており、古紙配合率の見直しが必要となってきました。

一方、近年急激に進行している地球温暖化は、自然の生態系や人間の生活基盤にさまざまな悪影響を及ぼすことから、世界的に早急な温暖化防止対策が望まれています。地球温暖化の主原因は、化石燃料を使用することによる大気中の二酸化炭素(CO₂)の増加といわれており、森林はCO₂を固定することでその増加を抑制する効果があります。このため、適切に管理された森林からの木材を使用し、森林資源を保護していくことが地球温暖化の防止につながります。また、紙の製造工程においてはこれらの木材を原料としたパルプ(クラフトパルプ)を使用したときの方が、古紙パルプを使用した場合より化石燃料由来のCO₂排出量が少ないと報告されています。資源の有効利用の観点から古紙を使用することは重要ですが、古紙パルプを過度に高配合した紙をつくることは、結果として温室効果ガスであるCO₂の大気中への排出量増加につながります。

これらを踏まえ、当社はグリーンパルプを主原料にし、古紙パルプを使用する場合には要求品質に応じて最適に配合した製品を提供してまいります。なお、パルプ以外の原材料や副資材についても環境に配慮した選択と設計を行ってまいります。

クラフトパルプ(LBKP)と古紙パルプ(DIP)から上質紙1トンを製造する際のCO₂排出量



※(財)古紙再生促進センター、「古紙利用と環境影響に係る調査報告書」2001.3に基づき作成

*1 バイオマス由来のCO₂排出量とは、植物などの生物体が燃焼したときに排出されるCO₂量のことです。クラフトパルプの場合、木材に含まれるリグニン成分などをバイオマス燃料として製造工程で利用して必要なエネルギーの多くを賄うことができます。バイオマス燃料から排出されるCO₂は、木材の成長過程で固定した大気中のCO₂を再度排出するため、大気中のCO₂濃度を高めることはありません。

*2 化石燃料由来のCO₂排出量とは、石油や石炭などの化石燃料の燃焼によって排出されるCO₂量のことです。古紙パルプの化石燃料由来によるCO₂排出量は、図のようにクラフトパルプの約2倍量に達します。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

労働安全衛生

リンテック労働安全衛生方針

リンテックグループ全社員は、社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、労働災害の防止を図り、安全で快適な職場環境の形成と安全衛生水準の向上を適切かつ積極的に推進します。

1. 事業活動において、リンテックグループで働く人々の労働安全衛生を適切に推進します。
2. リンテックグループで働く人々の協力の下、労働災害および疾病の予防、健康維持と増進を継続的に推進します。
3. 生産現場におけるリスク評価を実施し、労働安全目標を定め、目標達成のための計画と活動および定期的な見直しによる改善を行います。
4. 労働安全衛生に関する法令、リンテックが同意する協定、指導などを遵守します。
5. リンテックグループで働く人々に対し、労働安全衛生に関する教育および啓蒙活動により、安全衛生確保の重要性と意識の向上を図ります。

2010年10月1日制定

労働安全衛生

リンテック労働安全衛生マニュアルの概要

■ 計画(Plan)

法令／安全衛生計画、安全衛生目標など

■ 実施および運用(Do)

組織、役割、責任および権限／力量、教育訓練および自覚／コミュニケーションなど

■ 点検(点検・パトロール、改善)(Check)

監視および測定／内部監査など

■ 経営層による見直し(Action)

編集方針

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」を根幹にさまざまなCSR活動を行っており、冊子では2016年度の活動を中心に報告しています。特集では、「多様な人材が協働する職場環境の実現に向けた取り組み」と「地域コミュニケーションの活性化における取り組み」を取り上げました。冊子は、ステークホルダー*とリンテックグループ双方にとって、重要性の高い情報を選択し掲載しています。より詳細な情報はCSRサイトをご覧ください。

* ステークホルダー：組織体に対する利害関係者。具体的には、消費者(顧客)、従業員、株主、債権者、取引先、地域社会、行政機関など。

CSR情報を開示する主なメディア



CSRレポート（冊子/PDF版）

■ [冊子]

リンテックグループのCSR活動を分かりやすく掲載。

■ [PDF版]

英語版を作成。その他、抜粋版を韓国語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語にて作成。



CSRサイト

リンテックグループのCSR活動をより幅広くより詳細に掲載。

■ [日本語版]

▶ <http://www.lintec.co.jp/csr/>

■ [英語版]

▶ <http://www.lintec-global.com/csr/> 

参考としたガイドライン

GRI「サステナビリティ レポートガイドライン第4版」

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

ISO26000(社会的責任に関するガイダンス規格)

対象期間

原則2016年4月1日～2017年3月31日を対象としていますが、具体的な取り組み事例の一部には2017年6月までの内容を含んでいます。なお、海外グループ会社11社の環境データについては、2016年1月1日～2016年12月31日を対象期間としています。

対象範囲とその表記

CSRサイト中の報告対象範囲を以下のように整理し、表記しています。

■ 企業統治 社会性報告

「リンテック」：リンテック（株）

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

■ 環境報告

「リンテック」：リンテック（株）の本社、10生産拠点*1、研究所、東京リンテック加工（株）

「リンテックおよび海外グループ会社11社」：上記および海外グループ会社11社*2

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

*1 10生産拠点：吾妻、熊谷、伊奈、千葉、龍野、新宮、小松島、三島、土居、新居浜

*2 海外グループ会社11社：琳得科（蘇州）科技有限公司、普林特科（天津）標籤有限公司、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社、リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インダストリーズ（マレーシア）社、リンテック・インダストリーズ（サラワク）社、リンテック・シンガポール社、マディコ社

連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、MACtac Americas, LLC、LINTEC (THAILAND) CO.,LTD.ほか36社の決算日は12月末日です。連結財務諸表の作成に当たっては、上記連結子会社38社の決算日と連結決算日との差異が3か月以内であるため、各社の事業年度の財務諸表を使用しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っています。

報告内容の信頼性確保

★マークを表示したパフォーマンス指標は、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。第三者検証の結果、修正すべき重要な事項はありませんでした。

★マークについては[こちら](#)

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

第三者意見

リンテックグループは全世界で40社を有し、約5,600人の従業員が働くグローバル企業です。日本と海外の従業員比率は約6：4であることから、海外事業が重要であることが分かります。社是の「至誠と創造」がCSR活動にも反映され、社長直轄でCSR推進室が置かれていることから、国内外を問わず、リンテックの社会的責任を着実に果たそうという意思を感じます。誠実な企業であり、社会からの要請に真摯に応えようとするリンテックが、世界舞台でもさらに飛躍していくために、以下の3つのポイントに取り組みられることを期待いたします。

一つ目は、海外でのCSR活動も、具体的にどんなことをされているのか記載していくことです。例えば、リンテックは多様な人材の活躍を推進するために、ダイバーシティを促進されています。このダイバーシティに関しては、本レポートの冒頭「特集1」と「社会性報告」の2か所で記載があります。人材を大切にされ、人も企業もともに成長していこうという方向性がよく伝わってきます。しかし、記載されている取り組みのみの内容やデータは、日本におけるものに限られているものが多いですので、海外での具体的な取り組みも記載されることを期待いたします。ダイバーシティを例にしましたが、研修や労働安全、品質保証などほかの各分野についても同様です。海外にいる約4割の従業員にとって、日本だけの記載にとどまらず、自国や日本以外の国についてもさらに網羅されることを期待しているのではないかと思うからです。

二つ目は、ビジネス・エシックス（企業倫理）についての記載です。CSR推進室はCSR活動を推進するだけでなく、全社での高い倫理観の育成も手がけられています。CSR推進室によると、従業員の倫理観醸成にはとても力を入れておられ、そのための研修や社内報発行なども実践されていることも伺いました。現在、世界における経営管理は、コンプライアンス（法令遵守）の実現のためには、いくらルールで縛ってもうまくいかず、人の根底をつくる倫理観の醸成こそが会社づくりで重要であるという理解からビジネス・エシックスに高い関心が寄せられています。既に実践されていることはすばらしいので、他社に先んじてぜひ積極的に開示され、先行企業として信頼感を一層高めるのに生かしていかれることを期待いたします。

三つ目は、汚染の予防です。海外の工場、特に化学品を使用する工場の周辺での懸案事項の筆頭格は「汚染されないか」ということです。一般に、日本においては汚染物質を漏らさないことの手順が確立し、実践も確実にされているため、あえて言わずとも工場の管理体制に対する社外からの信頼感が高いといえます。しかし、海外では、化学系工場といえば汚染物質漏れに対する地域の不安は高いのが実情です。海外では日本の「隠匿の美」とは異なり、「言っていないことはやってない」と取られてしまうため、CSRレポートにおいても、汚染の予防に関して実践していることの開示をぜひご検討ください。



CSRアジア 日本代表
赤羽 真紀子氏

2017年版で初めて赤羽様から第三者意見を頂戴いたします。ご意見を真摯に受け止め、引き続きCSR経営を推進してまいります。

海外でのCSR活動については徐々に広がりを見せ始めており、より具体的な取り組み状況の報告を充実させていきます。

倫理観の醸成には社是を根幹に、行動規範ガイドラインなどの共有と啓発を目的とした継続的な活動が重要であり、それらの活動についても取り上げていく所存です。

当社グループは海外に11工場を有し、環境マネジメントシステムをグローバル統合して計画的な運用を行っておりますが、汚染防止対策の取り組み状況についても盛り込んでいくように検討いたします。

今後もCSR経営を基本姿勢とした企業活動を強化・推進し、持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指してまいります。

代表取締役社長 西尾 弘之

編集後記

2017年4月からスタートした中期経営計画「LIP-2019」では、重点テーマの一つに「持続可能な社会の実現に向けた取り組み」が盛り込まれ、社是「至誠と創造」を根幹に置いた「守り」と「攻め」のCSR活動の充実が重要になってきています。


多くの方々に支えていただきながら、グループ全体にわたるCSR活動をさらに推進し、ステークホルダーの期待に応えられるよう取り組んでいきます。



「リンテックグループCSRレポート2017」
制作プロジェクトメンバー

第三者検証

リンテックグループCSRレポート2017の★マークのついたパフォーマンスデータ（社会性）について、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。また、「環境検証」（温室効果ガス排出量および電力使用量）についても受審しています。

▶ 検証意見書（社会性） [PDF：137KB] 

▶ 検証意見書（環境） [PDF：189KB] 